

# 果樹をめぐる情勢

令和8年5月  
農林水産省



# 目次

果樹の品目	2
果実の需給構造	4
果樹の生産動向	6
果樹の経営動向	13
果実の流通動向	18
果実加工品の動向	19
果実の消費動向	20
果実の卸売価格の推移	23
果実の輸出状況	25
果実の輸入状況	27
果樹研究の推進	28
地球温暖化の影響と対策	31
果樹の高温被害の状況	32
果樹農業振興基本方針（令和7年4月30日）	33
果樹支援対策	34
（参考①）果樹経営支援対策事業の実施状況	48
（参考②）果樹経営安定対策について	49
（参考③）都道府県別果実産出額	50
（参考④）都道府県ごとの果樹の振興品目（果樹農業振興計画）	51

# 果樹の品目① (主産地)

## 政令指定果樹の品目別 都道府県別 産出額ベスト5

ぶどう	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 山梨県	608億円(4,040ha)
	2 長野県	494億円(2,870ha)
	3 岡山県	210億円(1,240ha)
	4 山形県	150億円(1,390ha)
	5 福岡県	95億円(655ha)

りんご	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 青森県	1,171億円(19,800ha)
	2 長野県	348億円(6,770ha)
	3 岩手県	118億円(2,230ha)
	4 山形県	106億円(1,980ha)
	5 秋田県	64億円(1,140ha)

みかん	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 和歌山県	459億円(7,030ha)
	2 静岡県	326億円(5,120ha)
	3 愛媛県	222億円(5,090ha)
	4 熊本県	207億円(3,560ha)
	5 佐賀県	127億円(1,780ha)

その他かんきつ	都道府県	産出額 (作付面積)
*1 	1 熊本県	107億円(2,150ha)
	2 愛媛県	81億円(7,090ha)
	3 和歌山県	80億円(2,140ha)
	4 高知県	75億円(1,670ha)
	5 鹿児島県	59億円(1,870ha)



※果樹マークに付された数字は、産出額の全国順位

なし	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 千葉県	85億円(1,300ha)
	2 山形県	73億円(897ha)
	3 茨城県	73億円(826ha)
	4 長野県	59億円(644ha)
	5 鳥取県	55億円(554ha)

くり	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 茨城県	26億円(3,090ha)
	2 熊本県	19億円(2,330ha)
	3 愛媛県	12億円(1,840ha)
	4 長野県	7億円(227ha)
	5 兵庫県	5億円(479ha)

もも	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 山梨県	227億円(3,300ha)
	2 福島県	168億円(1,750ha)
	3 長野県	65億円(901ha)
	4 岡山県	58億円(678ha)
	5 山形県	54億円(716ha)

キウイフルーツ	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 愛媛県	21億円(389ha)
	2 和歌山県	19億円(170ha)
	3 福岡県	17億円(275ha)
	4 神奈川県	7億円(111ha)
	5 群馬県	5億円(77ha)

おうとう	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 山形県	320億円(2,800ha)
	2 北海道	26億円(520ha)
	3 青森県*2	13億円(303ha)
	4 山梨県	13億円(327ha)
	5 長野県*2	10億円(96ha)

すもも	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 山梨県	36億円(840ha)
	2 長野県	20億円(319ha)
	3 山形県	14億円(243ha)
	4 和歌山県	8億円(251ha)
	5 福岡県*2	5億円(62ha)

かき	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 和歌山県	102億円(2,480ha)
	2 奈良県	67億円(1,770ha)
	3 福岡県	44億円(1,110ha)
	4 岐阜県	34億円(1,210ha)
	5 新潟県	28億円(616ha)

びわ	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 長崎県	10億円(274ha)
	2 千葉県	7億円(124ha)
	3 鹿児島県	2億円(70ha)
	4 香川県	2億円(54ha)
	5 愛媛県	1億円(48ha)

うめ	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 和歌山県	146億円(5,220ha)
	2 群馬県	21億円(830ha)
	3 神奈川県	7億円(307ha)
	4 山梨県	7億円(345ha)
	5 長野県	6億円(286ha)

パイナップル	都道府県	産出額 (作付面積)
	1 沖縄県	26億円(619ha)
	2 -	-
	3 -	-
	4 -	-
	5 -	-

資料：農林水産省 「令和6年生産農業所得統計」  
「令和6年耕地及び作付面積統計」

\*1 「その他かんきつ」は、しらぬい、ゆず、ブンタン、はっさく、ポンカン、いよかん、きんかん、清見、カボス、日向夏、すだち、たんかん、ネーブルオレンジ、セミノール  
\*2 青森県、長野県のおうとう作付面積については「令和2年耕地及び作付面積統計」の数値

# 果樹の品目② (品目別ランキング (令和5年))

品目	栽培面積		生産量		生産額	
	(ha)	順位	(t)	順位	(億円)	順位
みかん	37,300	1	681,600	1	1,733	2
りんご	35,900	2	604,000	2	1,730	3
かき	17,900	3	185,200	3	464	7
ぶどう	17,600	4	167,000	5	2,068	1
くり	16,200	5	15,000	19	117	10
うめ	13,900	6	95,500	7	234	8
日本なし	10,100	7	183,400	4	716	4
もも	9,950	8	109,500	6	673	5
おうとう	4,430	9	17,300	16	476	6
すもも	2,740	10	17,100	17	100	12
しらぬい(デコポン)	2,264	11	35,388	8	172	9
ゆず	2,229	12	28,144	10	68	16
キウイフルーツ	2,020	13	22,100	12	109	11
いよかん	1,532	14	19,987	14	35	21
西洋なし	1,400	15	19,700	15	87	13

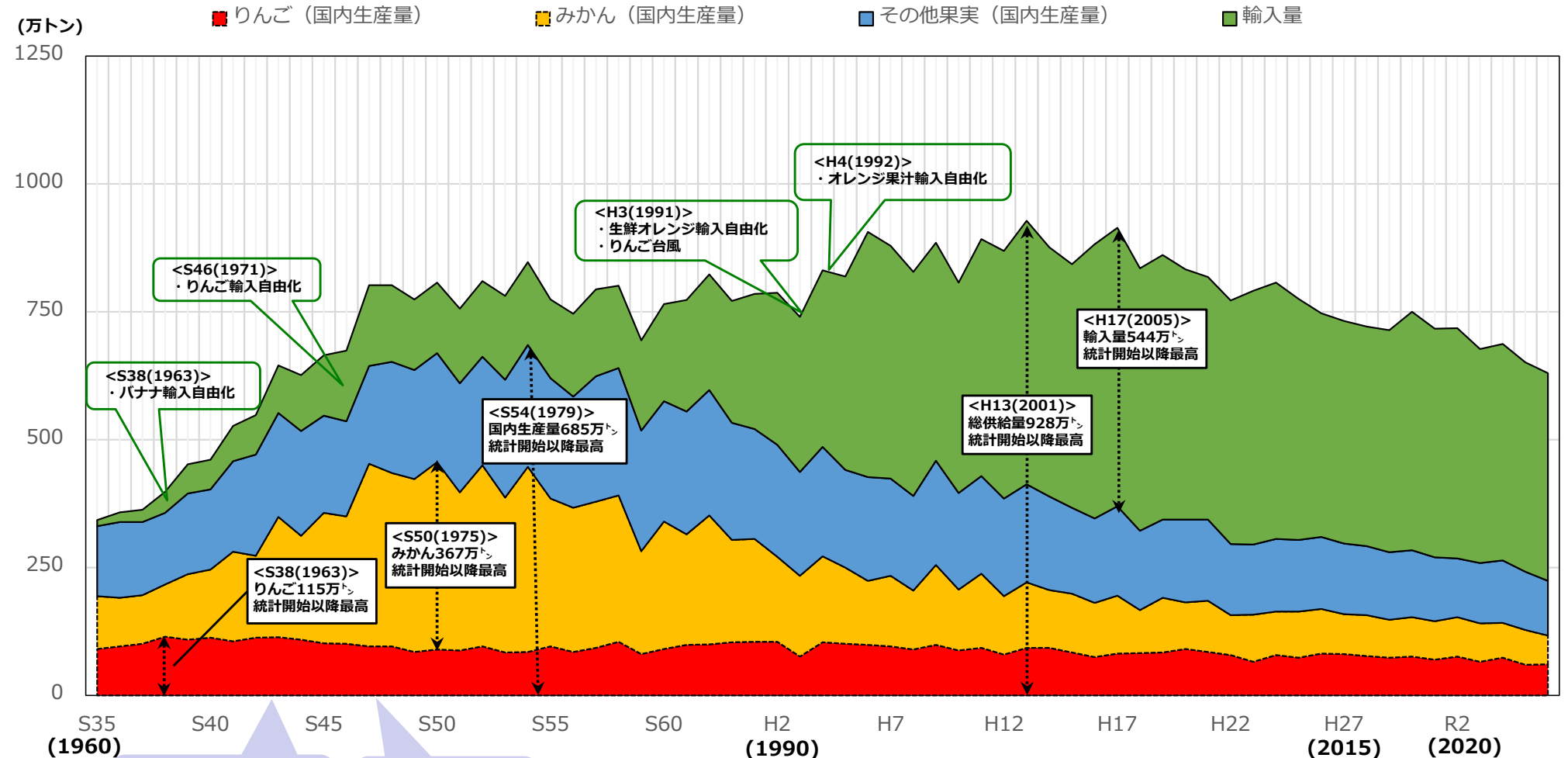
品目	栽培面積		生産量		生産額	
	(ha)	順位	(t)	順位	(億円)	順位
はっさく	1,359	16	23,439	11	32	22
ぼんかん	1,339	17	20,371	13	41	19
なつみかん	1,276	18	29,633	9	36	20
ブルーベリー	983	19	2,264	39	48	17
びわ	862	20	2,310	38	30	23
たんかん	807	21	2,755	35	13	31
レモン	798	22	9,668	22	0	-
いちじく	776	23	9,260	23	69	15
きよみ	689	24	13,737	20	27	25
パインアップル	592	25	6,750	25	20	28
かぼす	551	26	6,614	26	27	26
ぎんなん	523	27	760	51	0	-
オリーブ	516	28	590	52	0	-
かわちぼんかん	491	29	17,065	18	0	-
ひのゆたか	452	30	7,566	24	0	-

資料：耕地及び作付面積統計、果樹生産出荷統計、生産農業所得統計、特産果樹生産動態等調査

注：赤字は果樹農業振興特別措置法に基づく政令指定品目、青字は政令指定品目の「その他かんきつ」に含まれるもの。  
生産額の「-」表記は、生産農業所得統計の調査対象外の品目。

# 果実の需給構造①（生産量、輸入量の推移）

- 果実の生産量は、戦後大きく増加し昭和54年にピークに達した後、現在に至るまで減少を続けている。
- 輸入は自由化に伴って段階的に増加傾向にあったが、近年は減少傾向となっている。

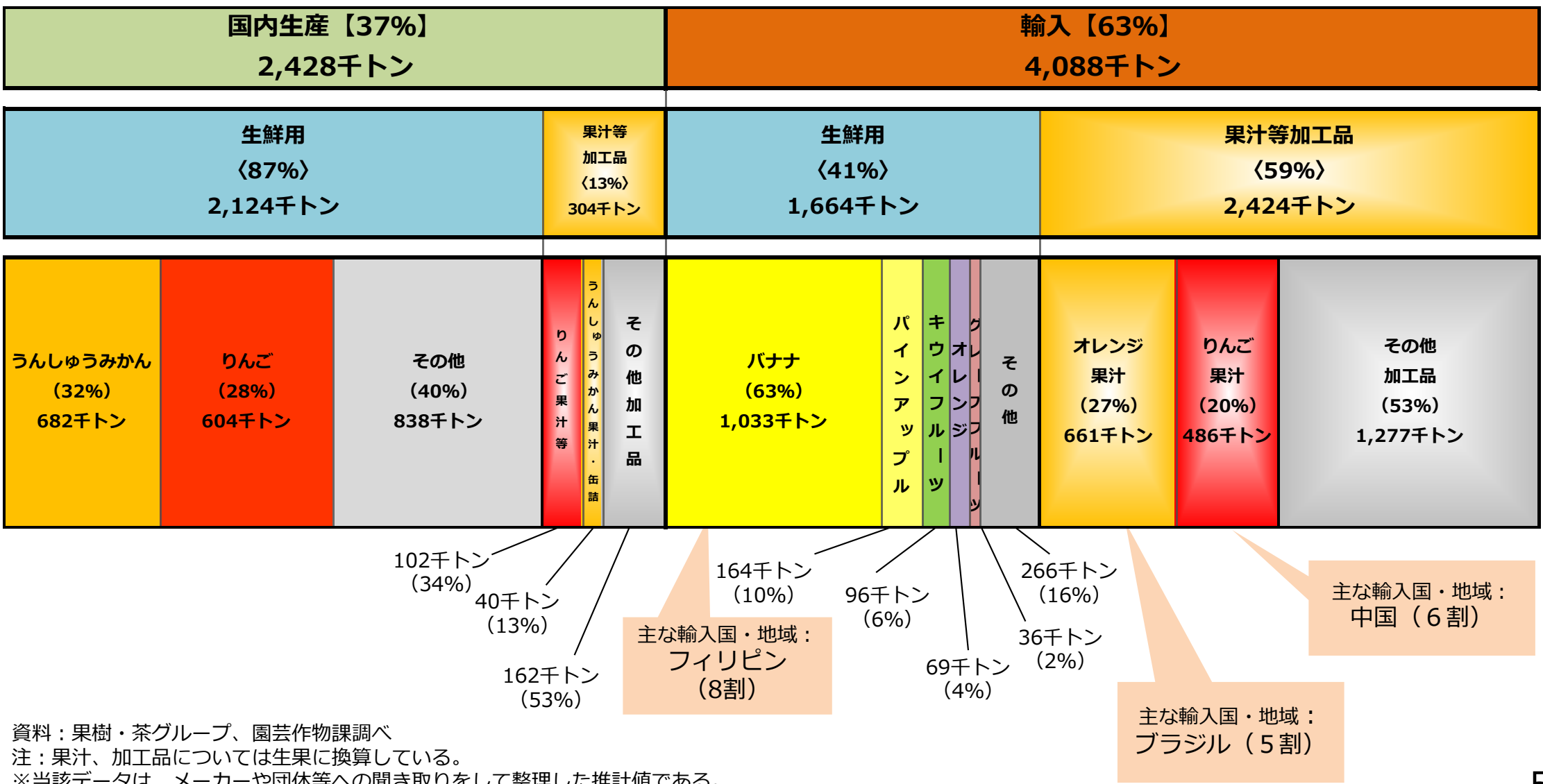


資料：農林水産省「食料需給表」

# 果実の需給構造②（国内生産、輸入の内訳）

- 果実の国内需要のうち、国産品は37%で、輸入品は63%である。
- 国内生産のうち87%は生鮮用である一方で、輸入品の59%は果汁等加工品である。
- 輸入の生鮮用のうち63%はバナナで、果汁等加工品のうち47%がオレンジ果汁とりんご果汁である。

## ○果実の需給構造（令和5年（推計））

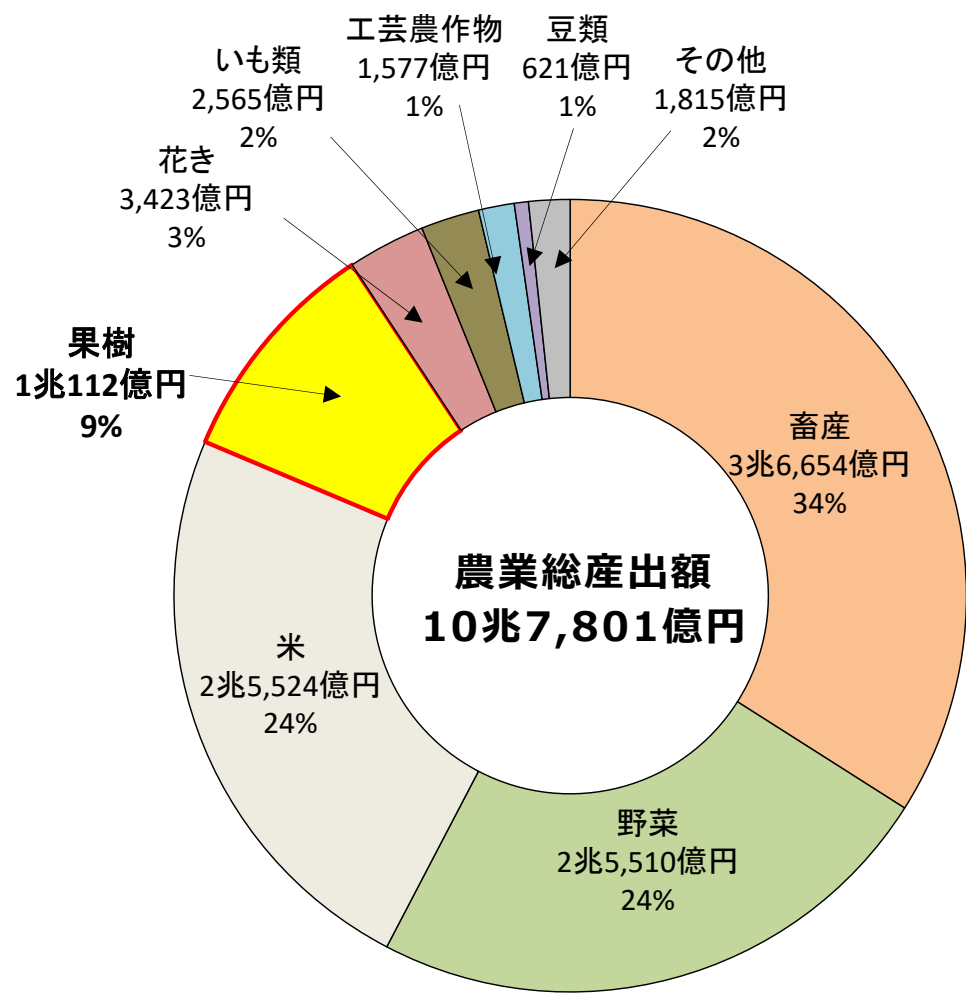


資料：果樹・茶グループ、園芸作物課調べ  
 注：果汁、加工品については生果に換算している。  
 ※当該データは、メーカーや団体等への聞き取りをして整理した推計値である。

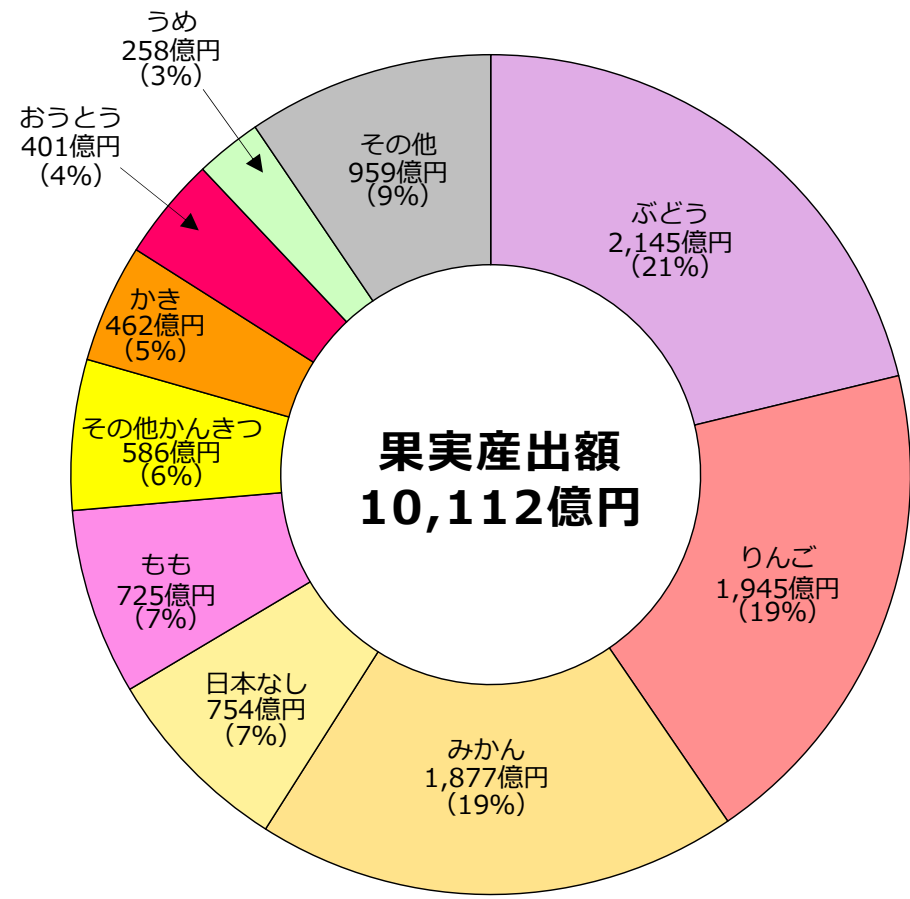
# 果樹の生産動向 ① (産出額)

○果実の産出額は10,112億円で、農業総産出額の1割を占めている。  
 ○品目別では、ぶどう、りんごで果実産出額の過半を占めている。

○我が国の農業総産出額 (令和6年)



○果実産出額の品目別割合 (令和6年)



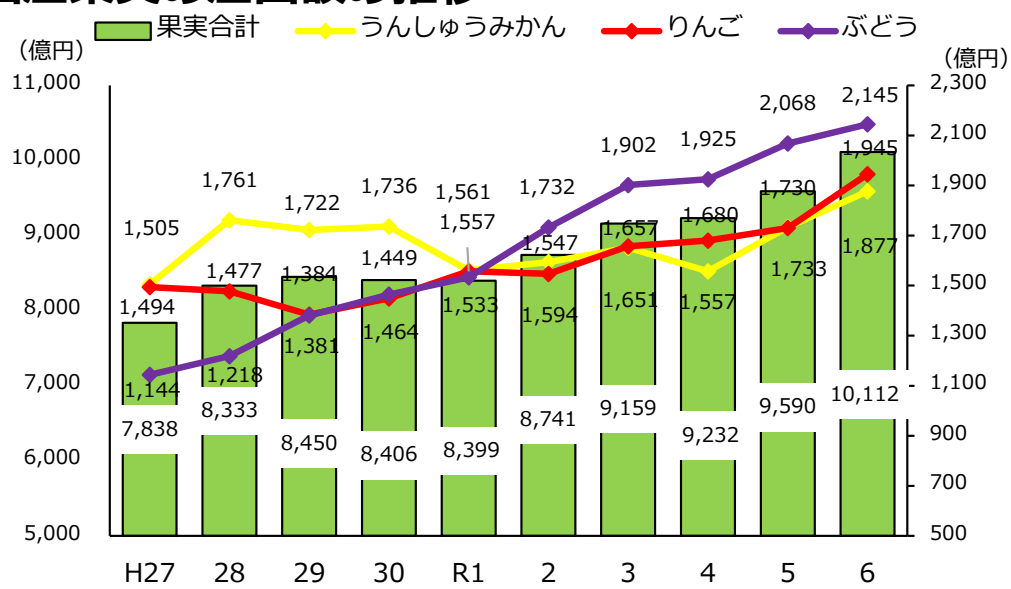
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注1：果実産出額の品目別の値は、都道府県別の合計値である。  
 注2：その他のかんきつは、しらぬい(デコポン)、ゆず、ブタン、ポンカン、なつみかん、いよかん、はっさく、日向夏、清見、カボス、きんかん、すだち、たんかん、ネーブルオレンジ、セミノールの産出額の合計値である

# 果樹の生産動向 ② (国産果実の需要)

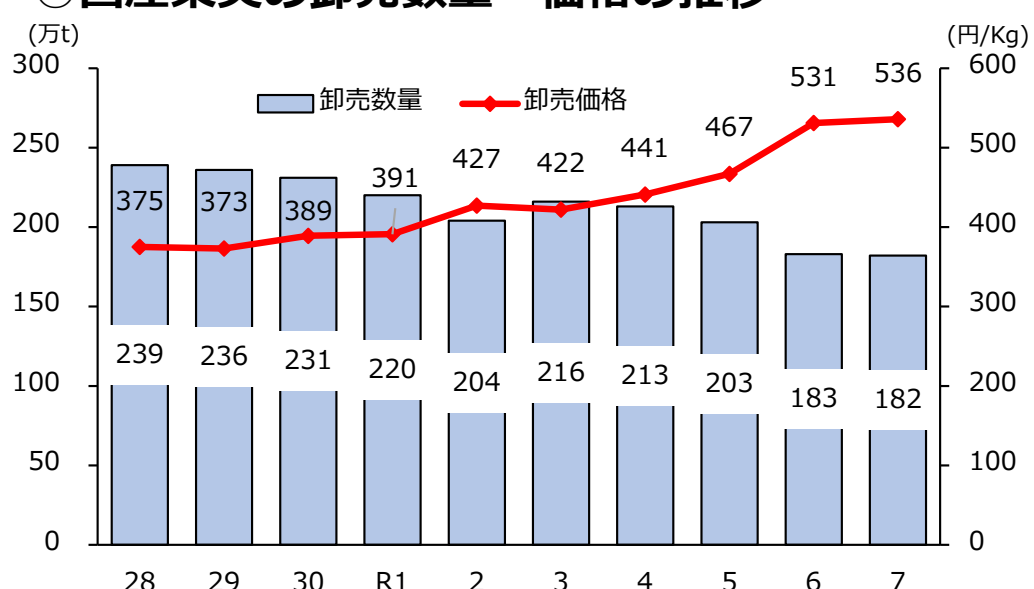
- 近年の国内の果実の産出額は増加傾向である。
- 国産果実の卸売数量は減少傾向である中、卸売価格は上昇傾向で推移している。
- この背景として、①優良品種・品目への転換等により、消費者ニーズにあった高品質な国産果実が生産されるようになったことに加え、②人口減少等による需要の減少以上に生産量が減少していることが考えられる。

## ○国産果実の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

## ○国産果実の卸売数量・価格の推移



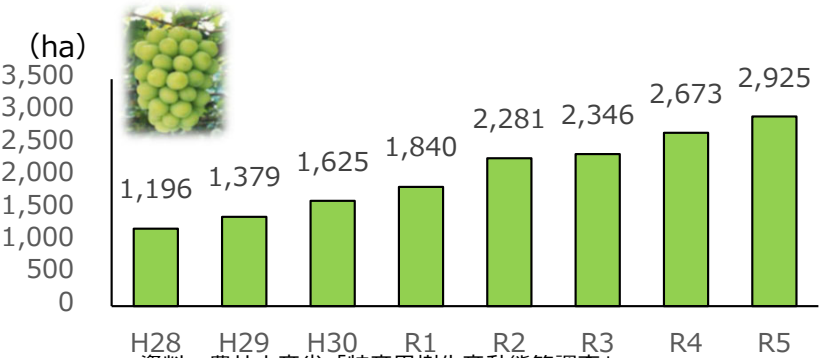
資料：農林水産省「青果物卸売市場調査報告」

## (参考) 果樹経営支援対策事業等による優良品目・品種への転換面積

		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
転換面積 (ha)	年度	859	960	979	932	897	905
	累計	10,196	11,156	12,136	13,068	13,965	14,870

注1：転換面積とは、果樹経営支援対策事業等により、優良品目・品種への改植・新植・高接を実施した面積  
 注2：累計は、果樹経営支援対策事業が開始された平成19年度以降に、改植・新植・高接を実施した面積の各年度時点までの合計

## (参考) シャインマスカットの栽培面積の推移

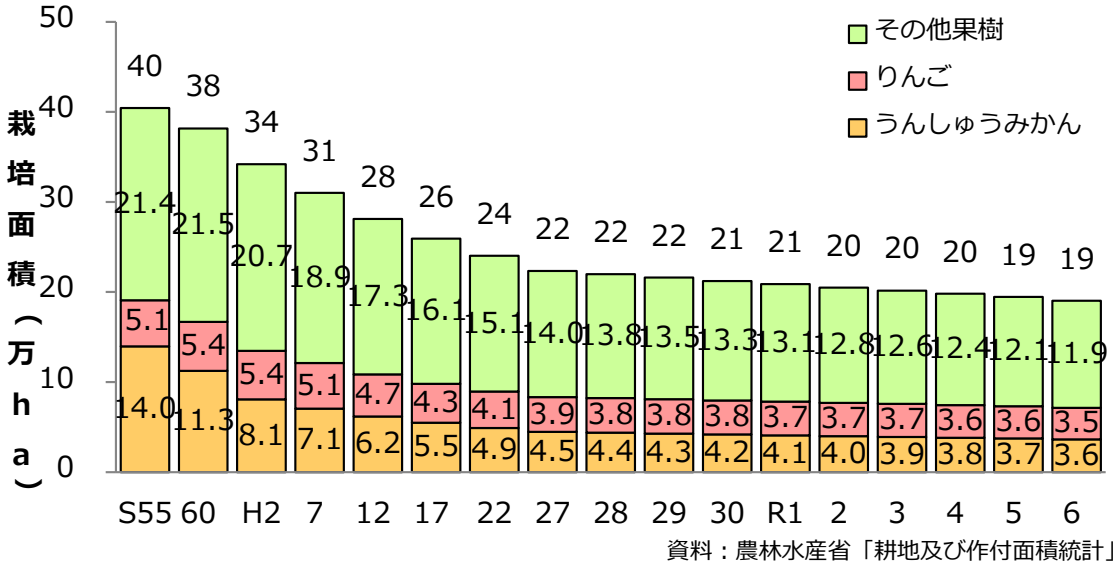


資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」  
 令和3～5年については調査対象が主産県のため、連続性はない

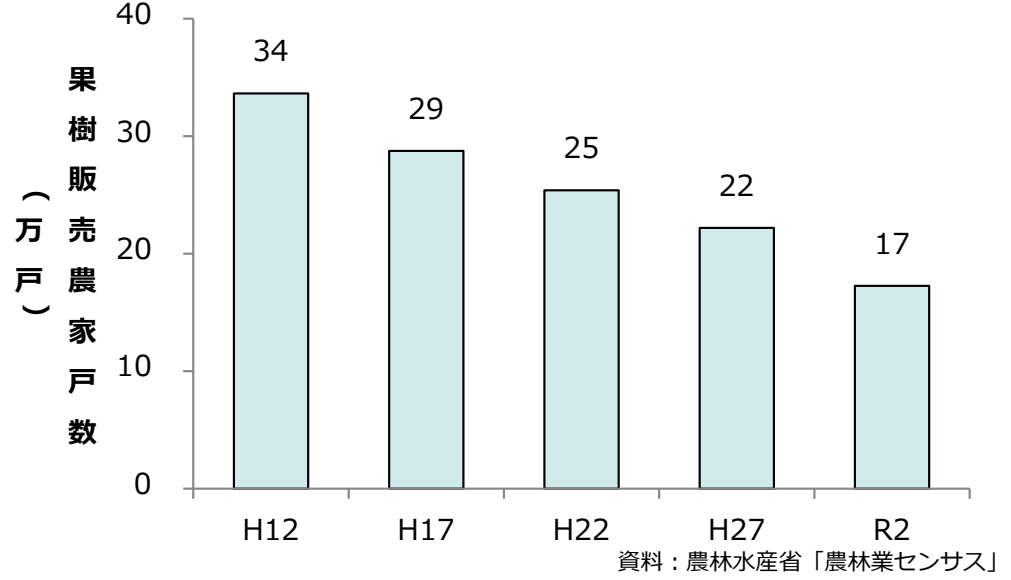
# 果樹の生産動向 ③ (栽培面積、生産量、栽培農家数)

- 栽培面積や生産量は、近年、緩やかな減少傾向で推移。これは、高齢化が急速に進み、栽培農家数も減少傾向にあること等による。
- 果樹販売額のうち果樹部門における主業経営体の割合は、金額（農業粗収益）ベースで7割を占める。

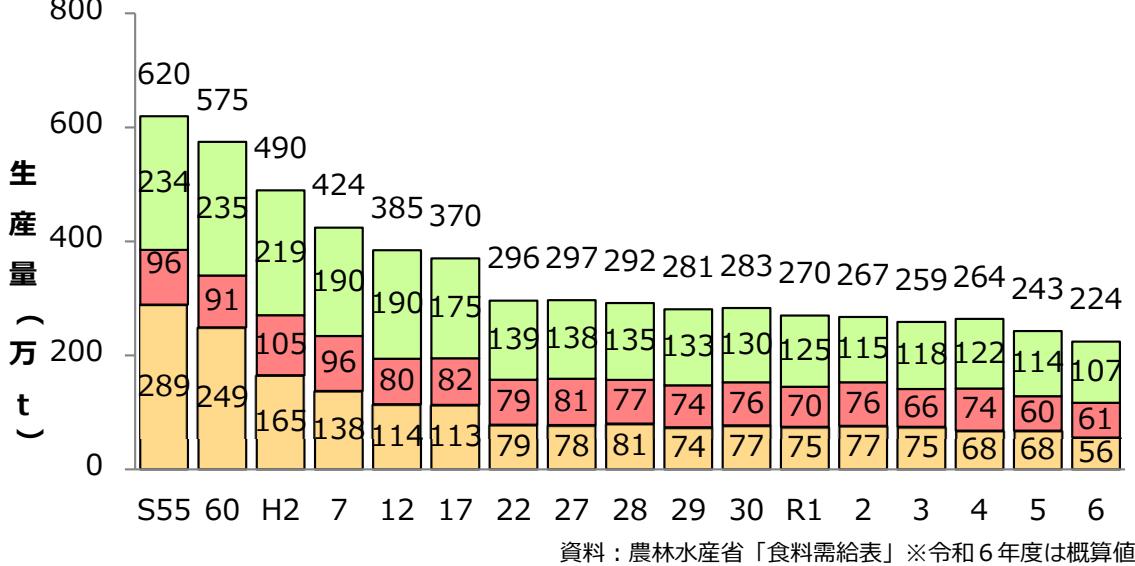
## ○果樹の栽培面積の推移



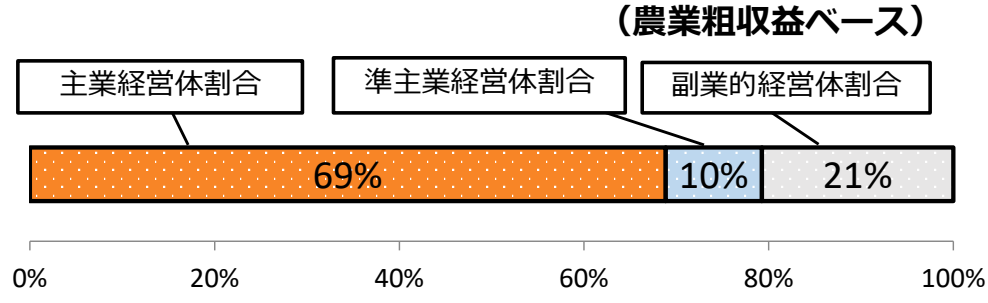
## ○販売目的で栽培した果樹類の栽培経営体数の推移



## ○果樹の生産量の推移



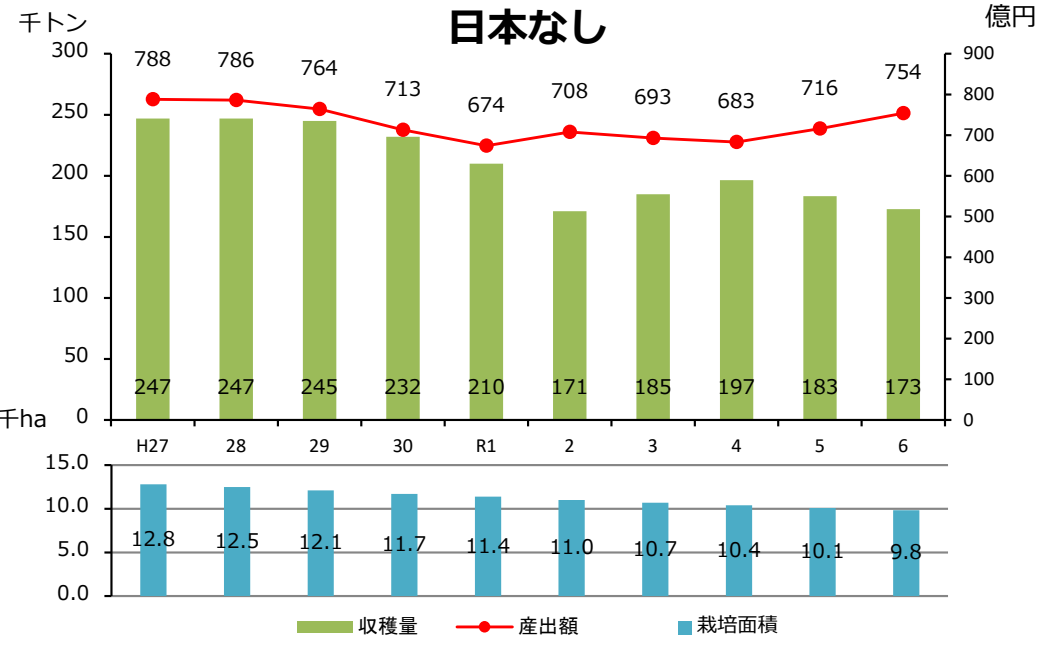
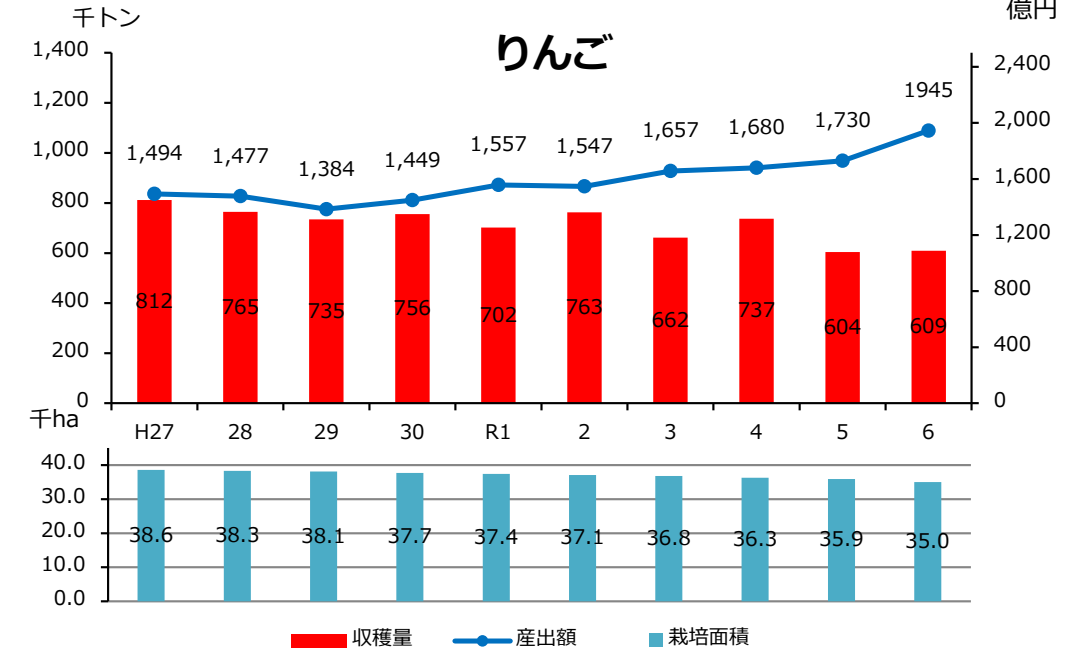
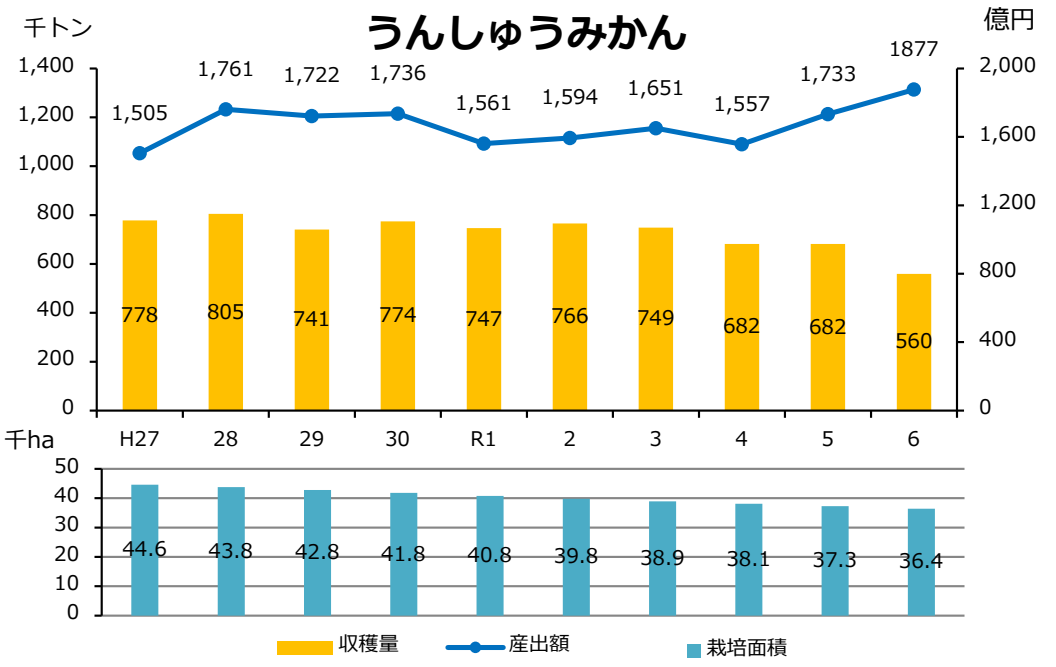
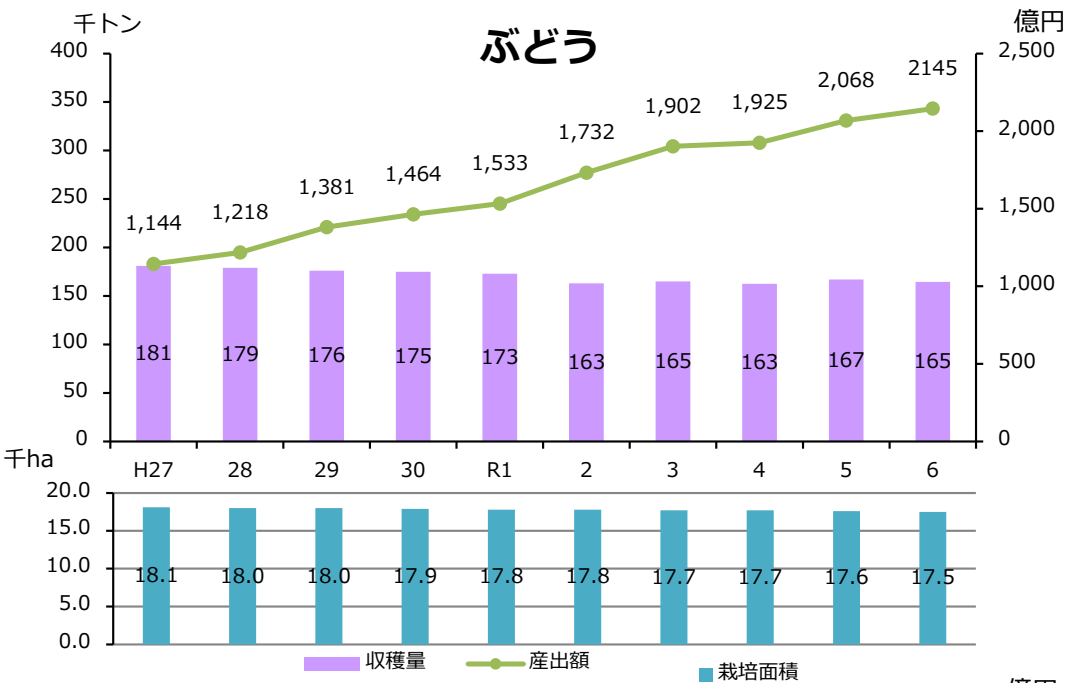
## ○果樹を販売した経営体の類型別シェア



資料：「2020年農林業センサス」、「令和2年経営形態別経営統計」より推計。  
 注：1)「主業経営体」とは、農業所得が主（世帯所得の50%以上が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。  
 2)「準主業経営体」とは、農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。  
 3)「副業的経営体」とは、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいう

# 果樹の生産動向 ④ (主要品目の生産量・産出額・作付面積)

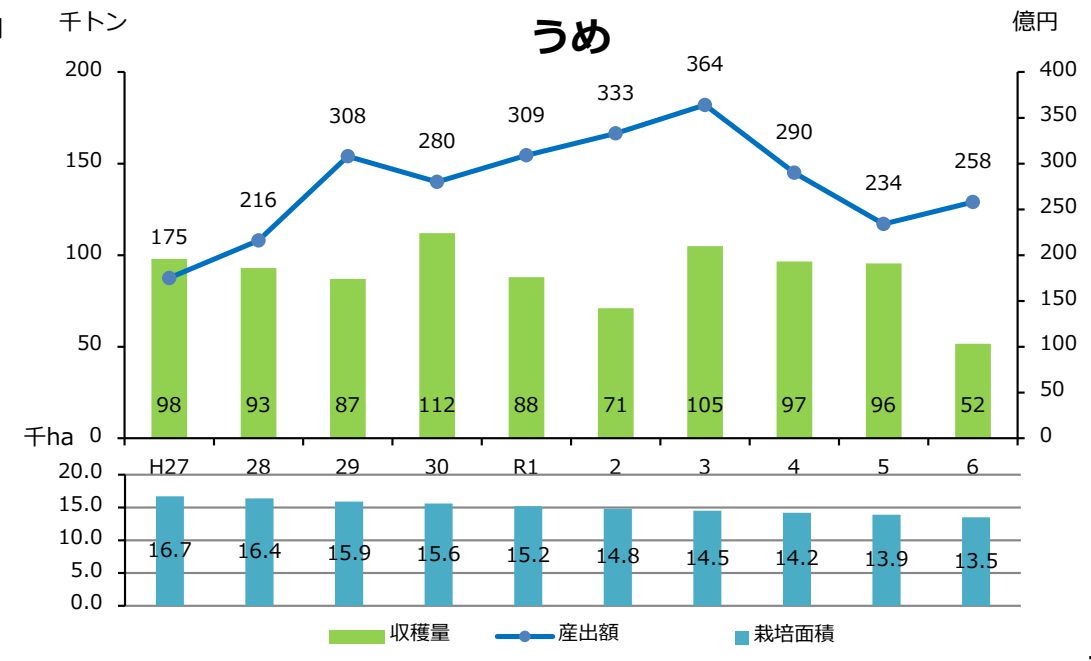
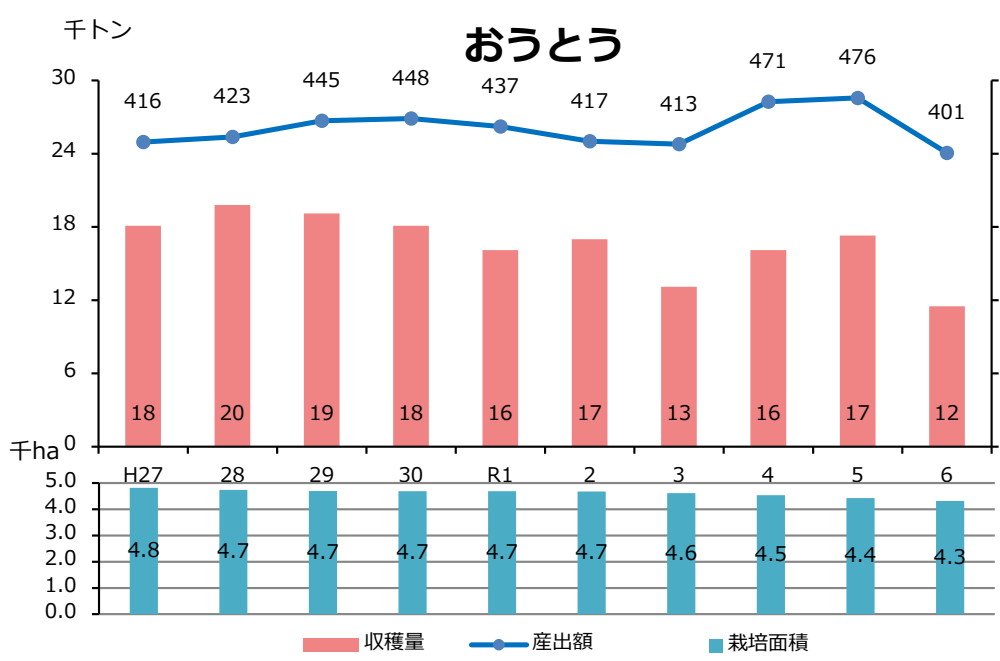
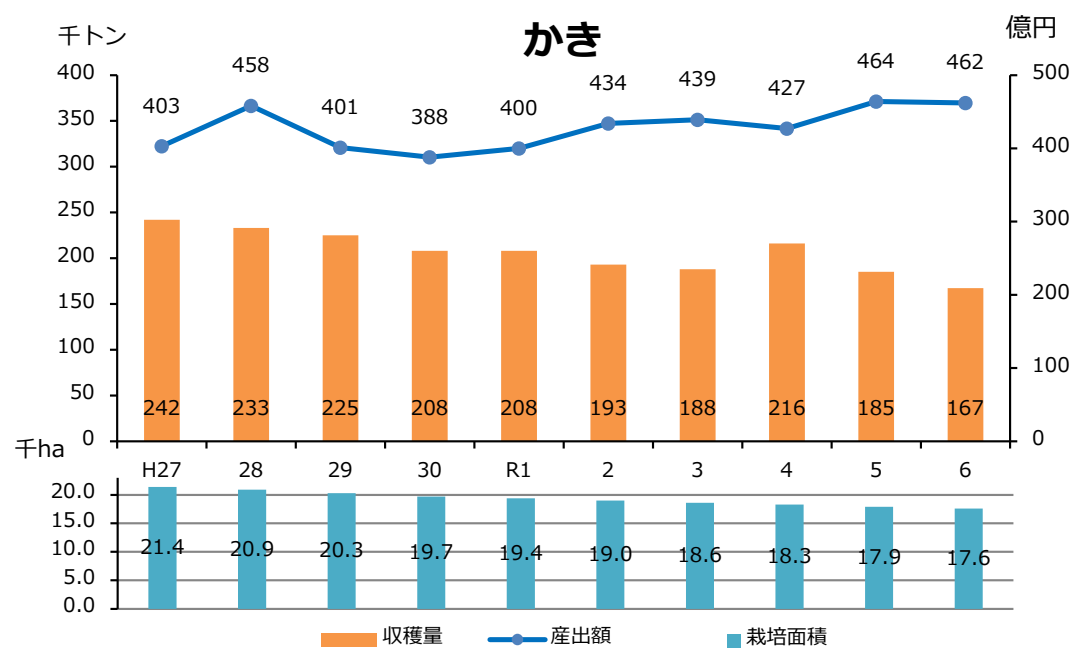
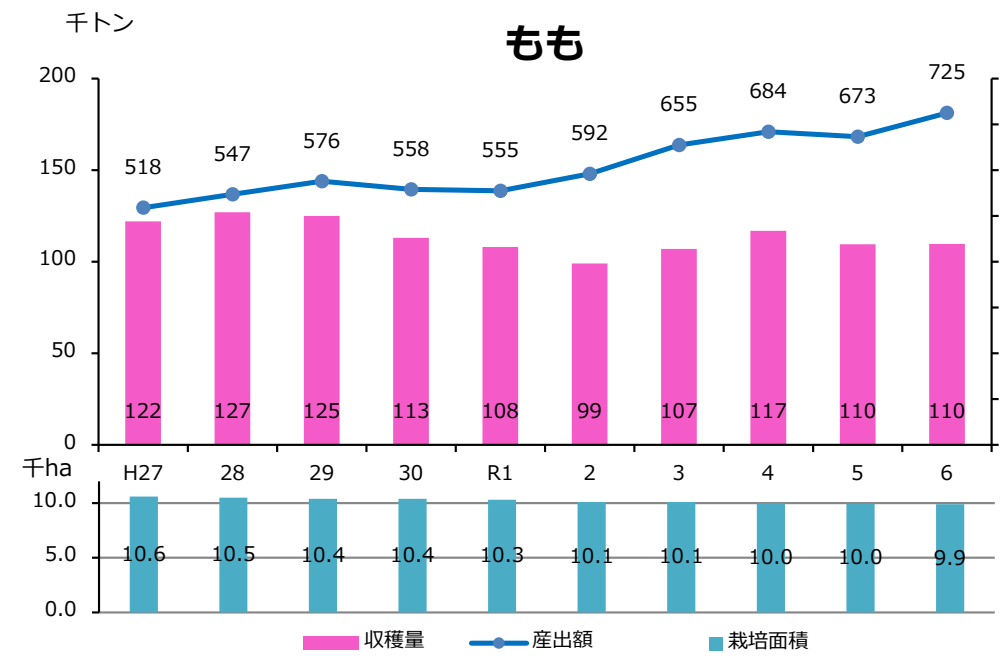
## ○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移



資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

# 果樹の生産動向 ④ (主要品目の生産量・産出額・作付面積)

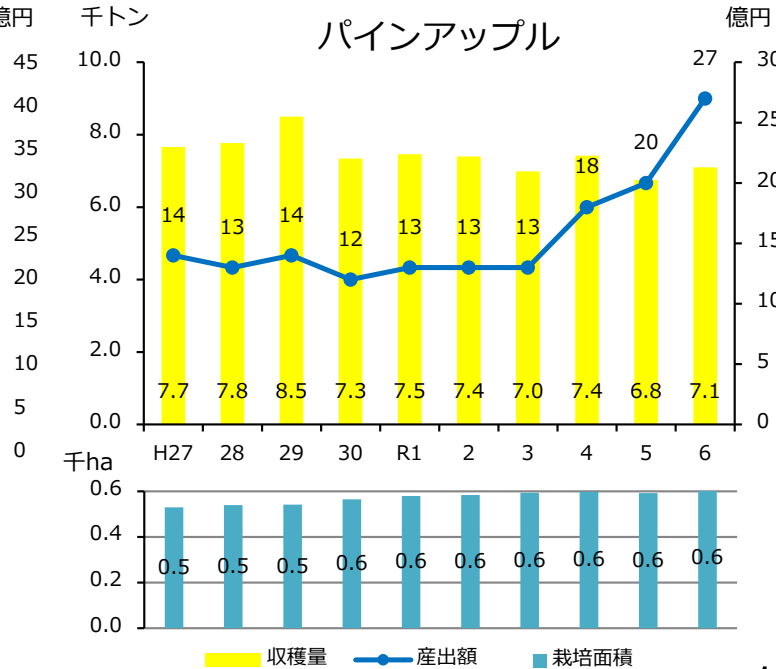
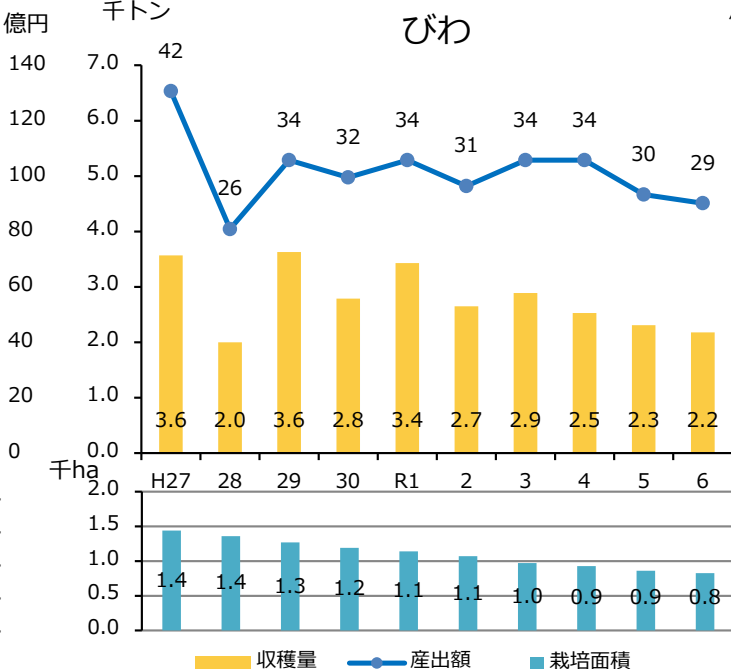
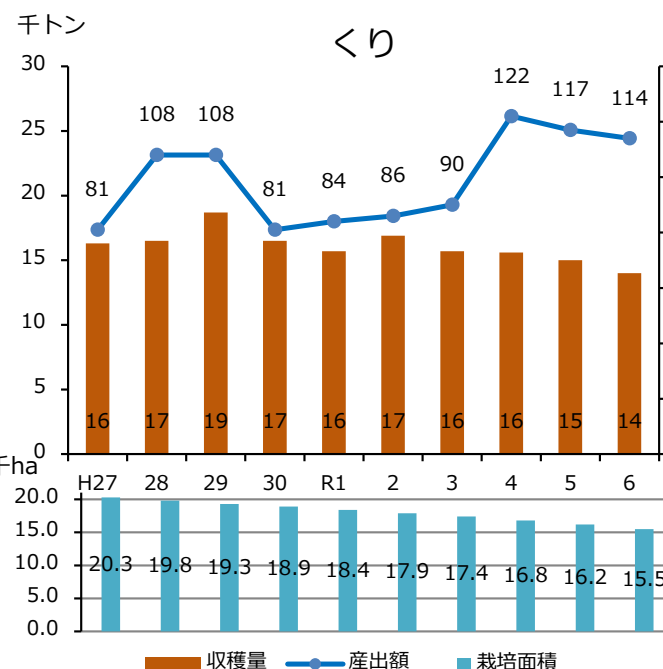
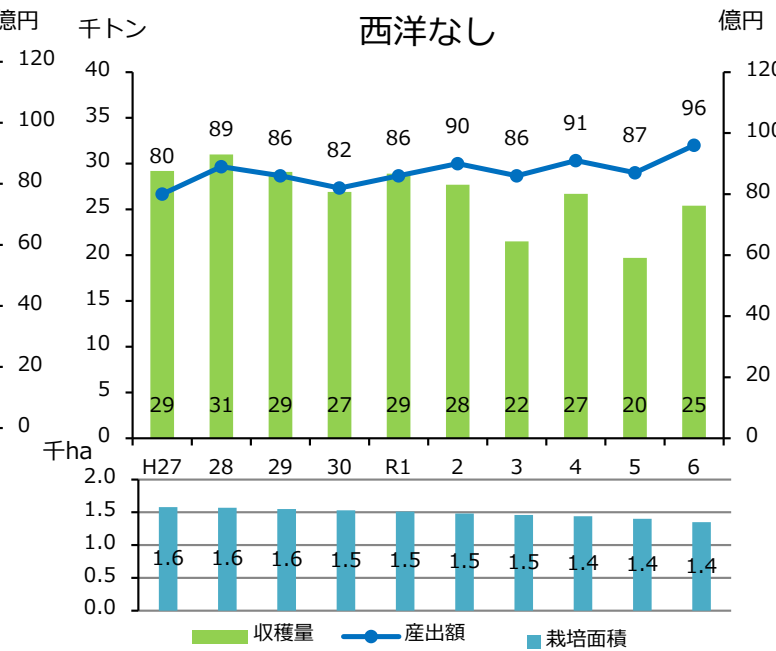
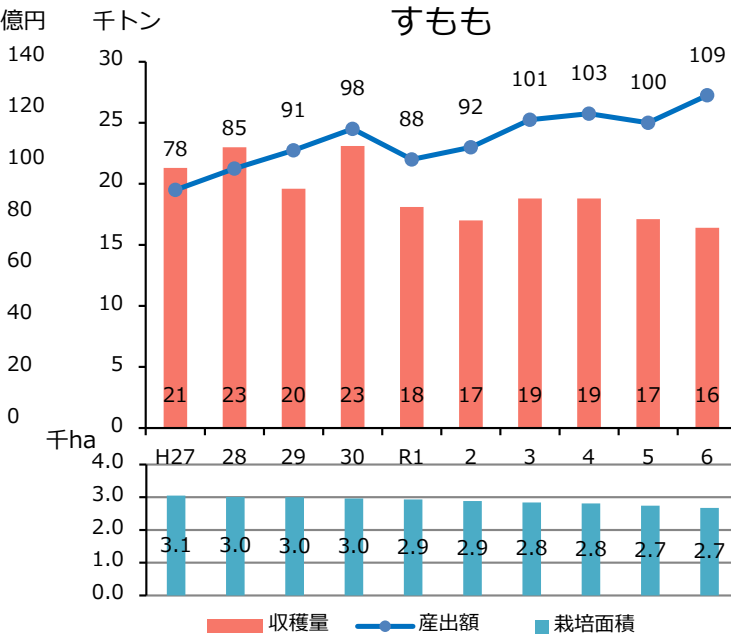
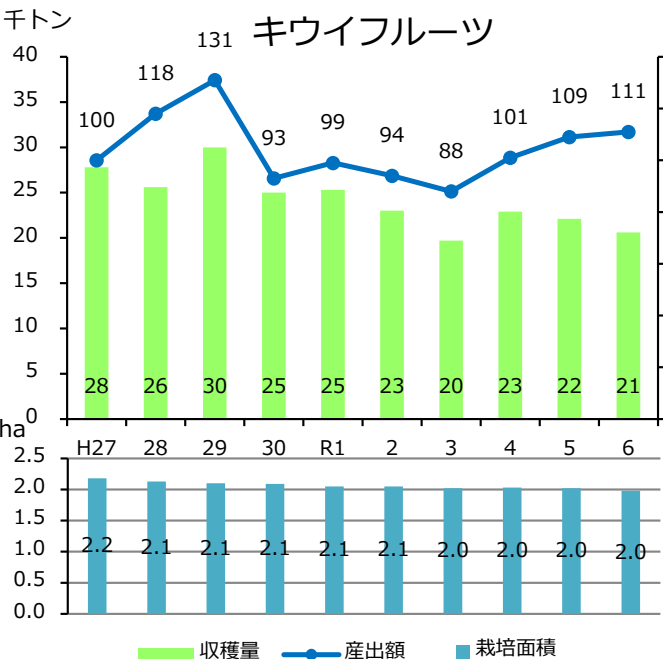
## ○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移



資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

# 果樹の生産動向 ④ (主要品目の生産量・産出額・作付面積)

## ○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移

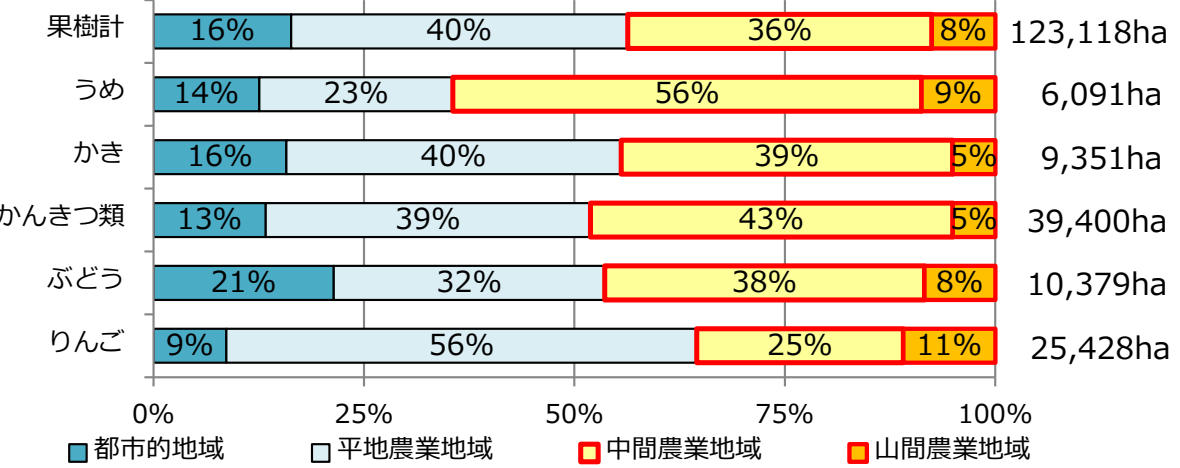


資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、 「果樹生産出荷統計」、 「生産農業所得統計」

# 果樹の生産動向 ⑤ (中山間地域割合、耕作放棄地面積等)

- 果樹は、他の作物の栽培が困難な中山間地域での栽培が多く、こういった地域を中心に形成された主産地においては、果樹が農業産出額の多くを占める基幹品目となっている。
- 樹園地の耕作放棄地は平成27年で15,200haであり、耕作放棄地率は8.0%となっている。

## ○ 果樹の栽培面積に占める中山間地域の割合



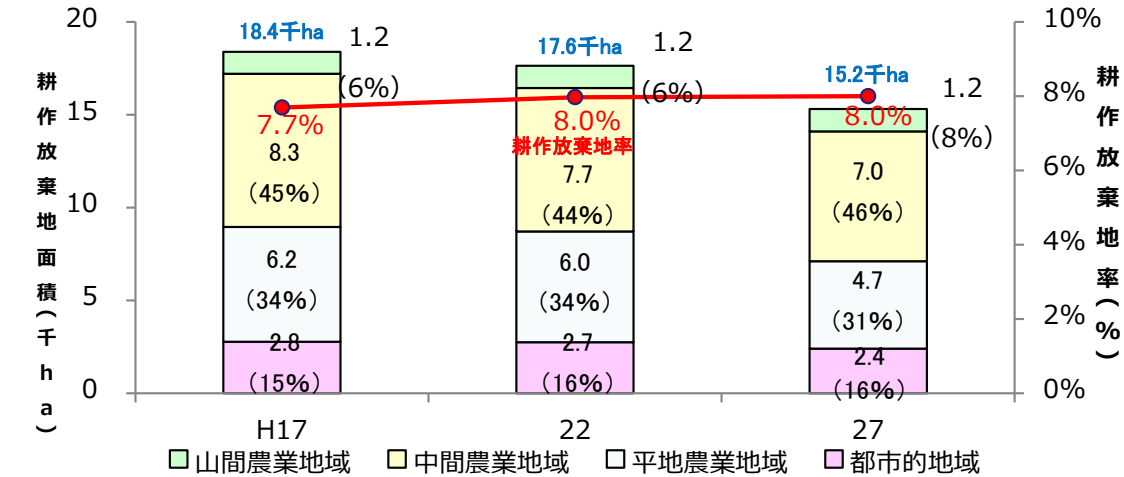
資料：農林水産省「2020年農林業センサス」  
注：値は、農業地域類型別の露地栽培面積（販売目的で栽培した栽培面積）割合

## ○ 果樹主産地における基幹品目の農業産出額割合 (令和5年)

基幹品目	主産地	農業産出額 (億円)		基幹品目割合 (B)÷(A)
		合計 (A)	基幹品目 (B)	
うんしゅうみかん	浜松市 (静岡)	546	166	30%
	有田川町 (和歌山)	130	96	74%
ぶどう	笛吹市 (山梨)	300	154	51%
	甲州市 (山梨)	202	147	73%
りんご	弘前市 (青森)	533	462	87%
	長野市 (長野)	174	62	36%
なし	白井市 (千葉県)	32	17	53%
もも	笛吹市 (山梨)	300	106	35%
かき	五條市 (奈良)	128	56	44%
おうとう	東根市 (山形)	202	103	51%

資料：農林水産省「市町村別農業産出額 (推計)」

## ○ 樹園地の耕作放棄地面積の推移 (販売農家)

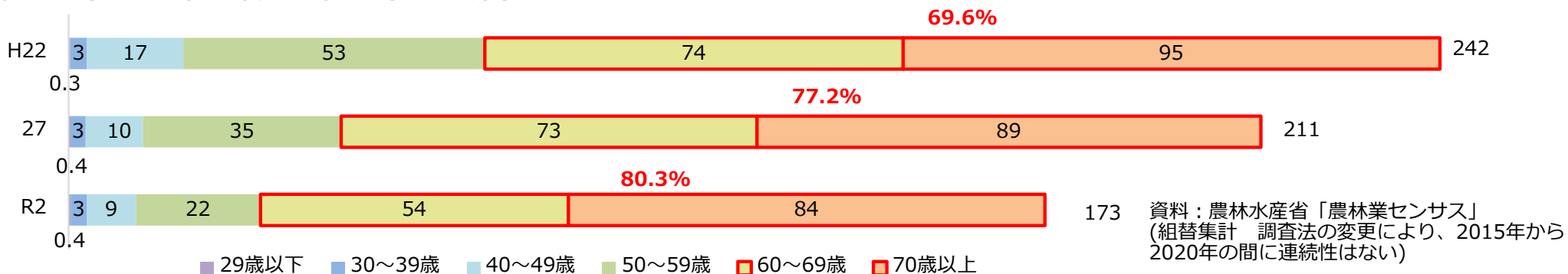


資料：農林水産省「農林業センサス」  
注：1) ( ) 内の数値は耕作放棄地面積の農業地域類型別割合。  
2) 耕作放棄地率は、耕作放棄地面積÷(経営耕地面積+耕作放棄地面積)×100。  
3) 本調査は2015年農林業センサスをもって廃止となった。

# 果樹の経営動向 ① (経営者年齢別果樹の栽培農家数、農業所得)

- 農家の減少と高齢化が急速に進み、果樹の栽培農家数は減少。令和2年には、経営者が60歳以上の割合は8割を超えた。
- 果樹作を主業として経営を営む経営体の平均農業所得は475万円。
- 各県が果樹農業振興計画において、「果樹園経営の指標」で目標農業所得が定められている。経営規模の拡大やわい化栽培、スピードスプレーヤーの導入等による労働時間の短縮が目指されている。

## ○経営者年齢別果樹の栽培農家数(販売農家)の割合



## ○果樹作主業経営における農業所得

経営耕地面積 (ha)	うち果樹 (ha)	自営農業労働時間 (時間)	粗収益 (万円)	経営費 (万円)	経営費の内訳										農業所得 (万円)
					雇用	種苗	肥料	農業衛生	動力光熱	荷造運転手数料	修繕費	減価償却	地代・賃借料	その他	
1.9	1.6	5,216	1,468	993	115	9	45	96	86	270	48	91	17	215	475

資料：農林水産省「令和6年営農類型別経営統計」、注：労働時間、粗収益、経営費及び農業所得は、果樹以外の作物に係るものも含む

## ○果樹農業振興計画で定める「果樹園経営の指標」の農業所得

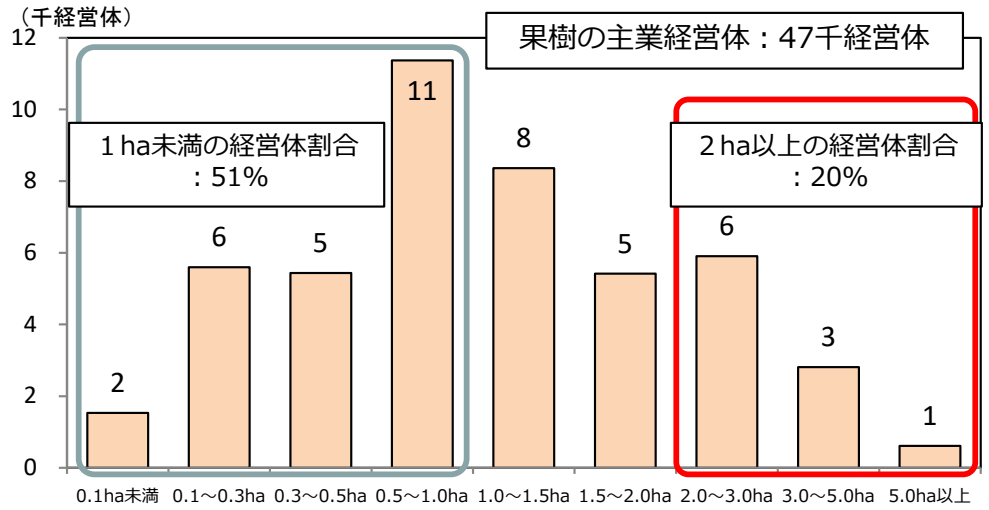
地域	経営類型	主な技術体系	経営規模	労働時間	粗収益	経営費	農業所得
和歌山	うんしゅうみかん専作	マルチ栽培、ジベレリン散布、樹冠上部全摘果	3.0ha	3,450時間	2,345万円	928万円	1,417万円
青森	りんご専作	わい化栽培	3.0ha	5,790時間	2,710万円	1,654万円	1,056万円
山梨	ぶどう専作	スピードスプレーヤー	1.1ha	3,034時間	1,371万円	618万円	734万円
長野	りんご+もも複合経営	スピードスプレーヤー、りんご新しいわい化栽培、訪花昆虫	1.7ha	3,166時間	2,356万円	1,571万円	785万円

資料：各県果樹農業振興計画(令和3年改定)より抜粋

# 果樹の経営動向 ② (経営規模、労働時間等)

- 果樹の主業経営体全体の20%程度は栽培面積 2 ha以上の農業経営体。一方、51%は栽培面積 1 ha未満。
- 果樹は、収穫等機械化が困難な作業や剪定など高度な技術が必要な作業が多く、労働集約型であり、水稲などと比べると主業農家の割合が高い。

## ○ 果樹の主業経営体における果樹栽培面積規模別経営体数



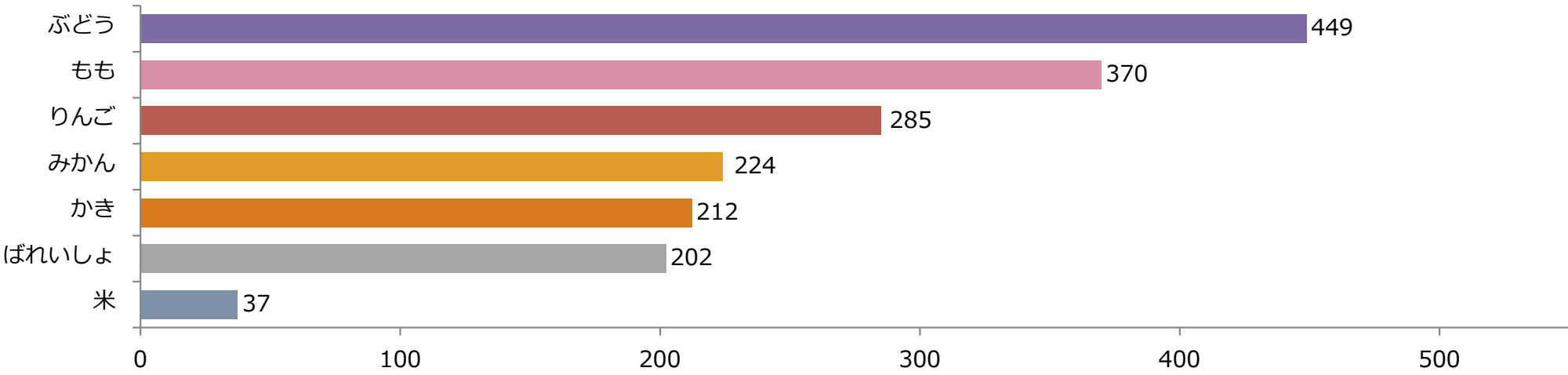
資料：農林水産省「2020年農林業センサス」(組替集計)  
注：施設栽培は含まない

## ○ 果樹を販売した経営体における主業経営体割合

	主業経営体割合	主業経営体	準主業経営体	副業的経営体
果樹部門	31%	33,171	14,075	60,512
水稲部門	10%	44,821	85,176	339,817

資料：農林水産省「2020年農林業センサス」  
注：1)販売があった経営体のうち、主位部門の販売金額が8割以上の経営体のみを計上。  
2)「主業経営体」とは、農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。  
3)「準主業経営体」とは、農外所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。  
4)「副業的経営体」とは、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいう。

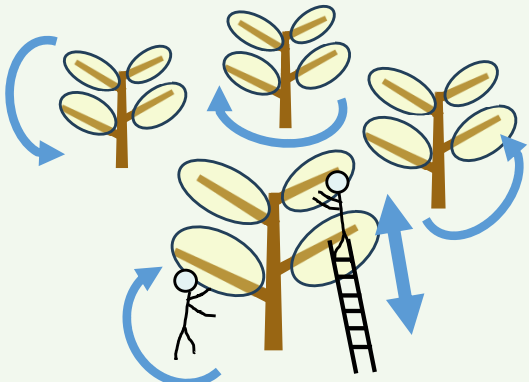
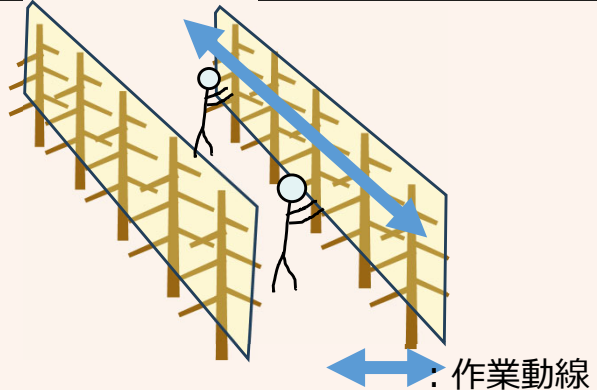
## ○ 主要果樹・ばれいしょ・米農家における労働時間



出典：農林水産省「令和6年営農類型別経営統計」


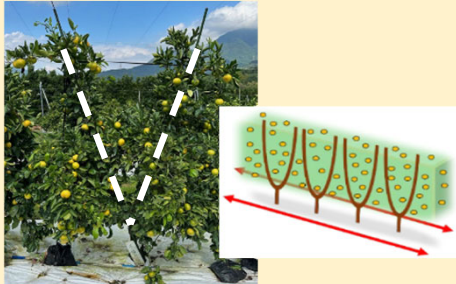
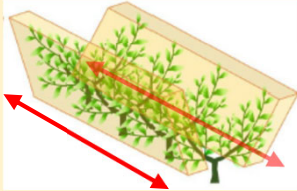
# 果樹の経営動向 ③ (省力樹形の導入による省力化)

- 大きな木を疎植で園地内に散在させ、樹体1本単位で管理する**慣行樹形**では、**労働生産性が低く、機械化・スマート化には不適**。
- 小さな木を直線的に密植して配置し、樹列単位で管理する**省力樹形**では、**作業動線が直線的となり、労働生産性が高く、機械化・スマート化が容易**。

	慣行樹形	省力樹形
樹園地イメージ		
収量性	1樹当たりで収量が最大化	単位面積当たりで収量が最大化
植栽樹数	少ない	多い
成園化時期	遅い(約10年)	早い(約5年)
結実部位	立体的	平面的
労働生産性	低い(作業動線が立体的で非効率)	高い(作業動線が直線的で効率的)
技術の熟練度	整枝・せん定等に熟練技術が必要	整枝・せん定等の作業手順が明確化、初心者でも取り組み易い
機械化・スマート化	不適	適

# 果樹の経営動向 ④ (果樹で開発された省力樹形の例)

- 主要な果樹品目について現場実装可能な省力樹形を概ね開発済みであり、改植・新植事業等により各産地への普及を推進中。
- りんごはトールスピンドル仕立てによる高密植わい化栽培が普及。
- うんしゅうみかん、かんきつは双幹形等の樹形が開発されている。

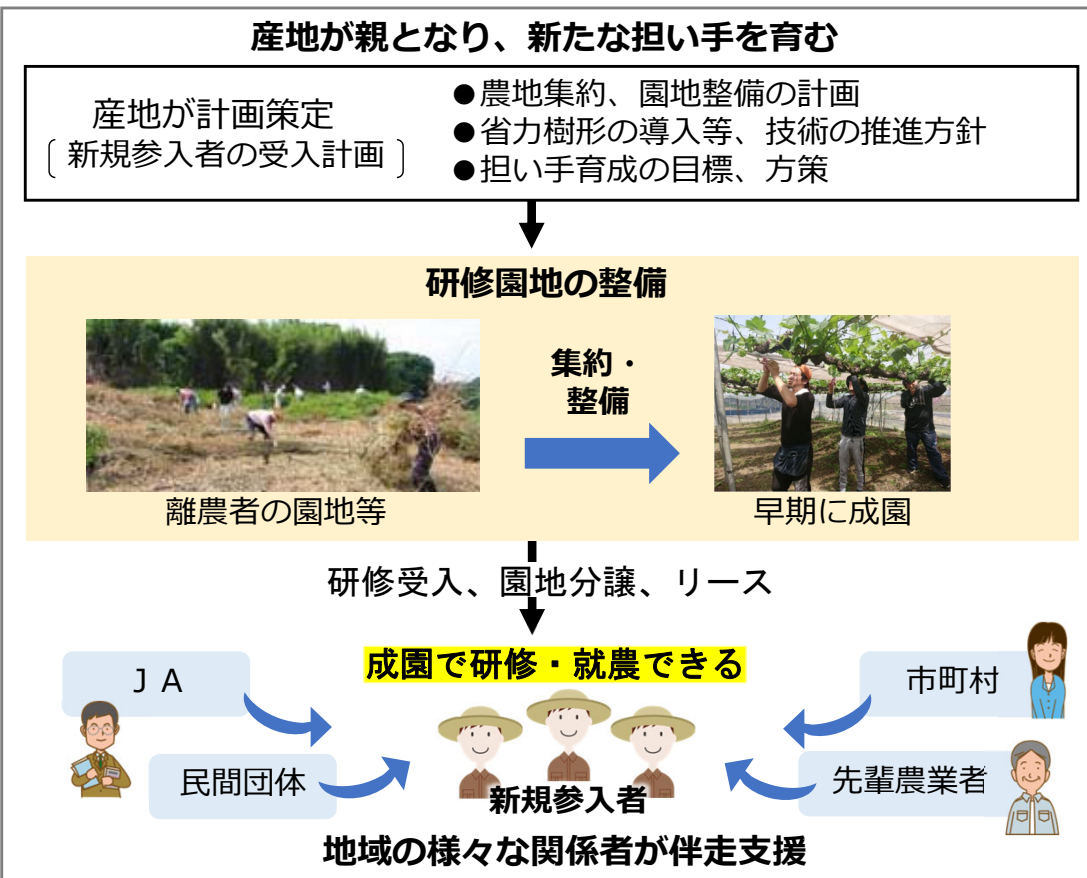
	りんご	うんしゅうみかん、かんきつ		
省力樹形の例	 <p>【トールスピンドル仕立て】</p>	 <p>【双幹形】</p>	 <p>【密植双幹形】</p>	
			(双幹形)	(密植双幹形)
面積当たり収量性 (慣行比)	2倍以上	面積当たり収量性 (慣行比)	同等	1.7倍
面積当たり作業時間削減効果	同等	面積当たり作業時間削減効果	1.2割削減	2割増加
収量当たり作業時間削減効果	5割以上削減	収量当たり作業時間削減効果	1.2割削減	3割削減
普及面積 (省力樹形全体、推計)	730ha	230ha		
普及上の課題	専用苗木の確保 面積当たりの開園費用が高い	適応可能な品種の拡大		

# 果樹の経営動向⑤（担い手の育成・確保に向けた取組）

- 高齢化に伴い生産者の減少が急速に進む中、**担い手の育成・確保が喫緊の課題**。
- 果樹農業への新規就農に当たっては、未収益期間が存在すること、せん定など高度な技術を要すること等の**果樹特有の就農へのハードルの克服が必要**であり、担い手の確保・育成に向けては、産地において**技術研修と園地継承を併せて行う「果樹型トレーニングファーム」の取組が効果的**。

## 果樹型トレーニングファームの概要

産地が**研修園地を用意**し、当該園地での**技術研修**と、就農時に**研修園地**や既に成園となっている園地を**斡旋して園地継承を併せて行う取組**。



## 産地等の取組の発信

- ・ 全国の果樹産地における果樹型トレーニングファームの取組事例を中央果実協会のホームページで紹介（令和8年3月公開）。



日本地図ベースで事例を掲載。（地域をクリックすると一覧で表示）

### 2. 研修・就農支援情報

#### ① 研修対象の果樹品目

果樹品目	宮内伊予柑、せとか、はれひめ、愛媛果試第28号、愛媛果試第48号、カラマンダリン、甘平 等
当該品目にした理由	県オリジナル品種、推進品目

#### ② 技術研修+研修園地以外の成園（収穫できる園地）の斡旋

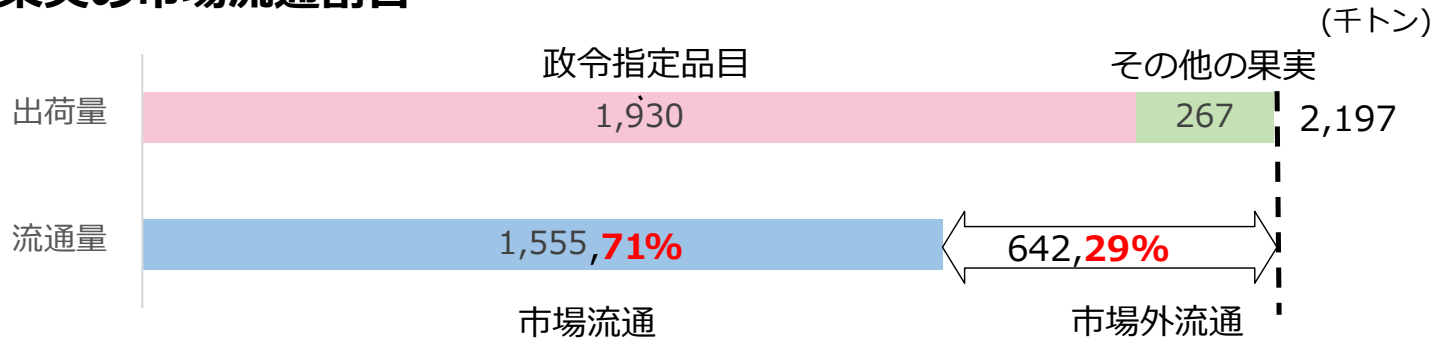
開始年度	平成25年度
実績	106名

産地の基礎情報のほか、研修対象品目など研修の詳細情報を掲載。

# 果実の流通動向

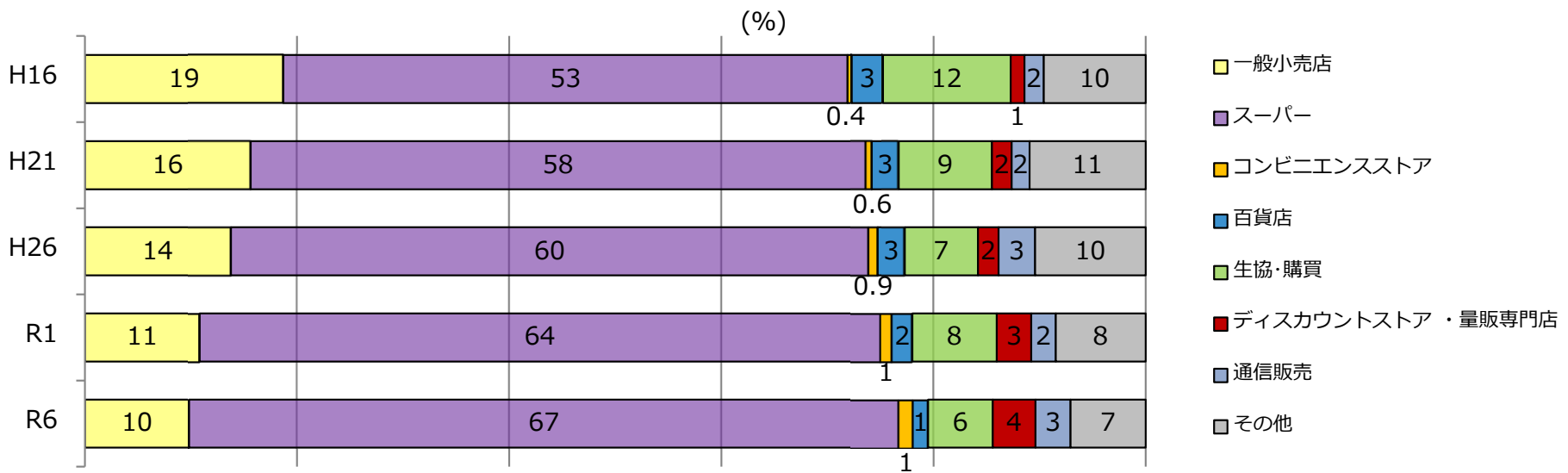
○出荷量と流通量から推計した果実の市場内流通の割合は7割となっている。  
 ○生鮮果実の購入先別支出はスーパーが過半を占め、果物屋等一般小売店の割合は減少傾向にある。

## ○果実の市場流通割合



果樹・茶グループで推計  
 資料：令和5年作物統計  
 令和5年特産果樹生産動態等調査  
 令和5年青果物卸売市場調査

## ○生鮮果実の購入先別支出割合

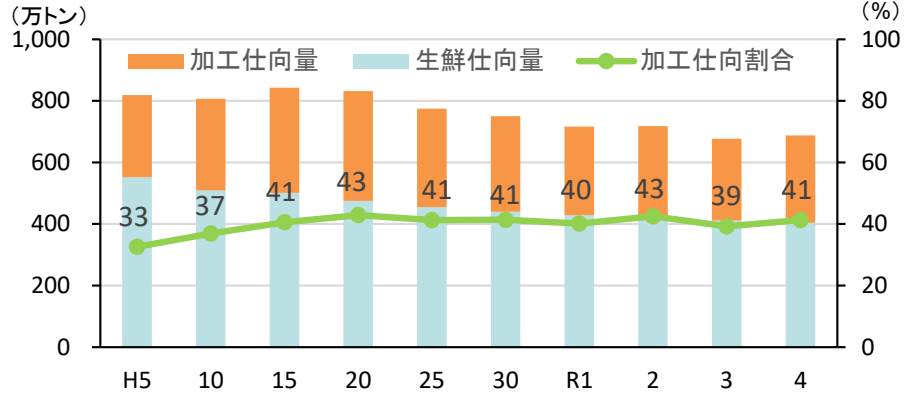


資料：総務省 全国家計構造調査（旧全国消費実態調査）  
 注：令和元年から統計調査方法・対象が変わっているため、26年以前と比べ連続性はない。

# 果実加工品の動向（果実加工品の利用・技術開発）

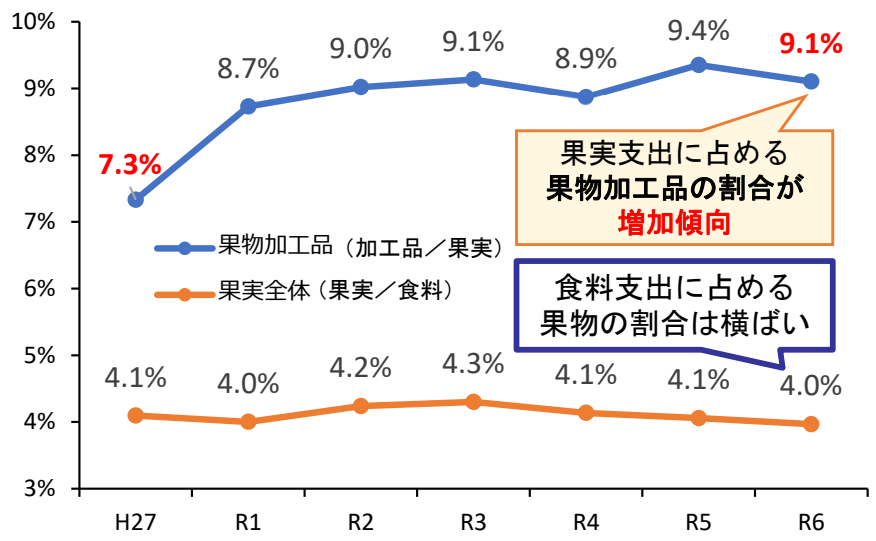
- 果実加工品の動向について、需要量に占める割合は3～4割で推移しているが、家庭の支出においては、果実全体の支出に占める割合が徐々に増加しており、果実加工品に対するニーズが高まっている。
- 消費者の多様なニーズに対応するため、様々な加工技術の開発や利用が進められている。

## ○果実需要量に占める果実加工品の割合



資料：農林水産省「食料需給表」から果樹・茶グループで推計

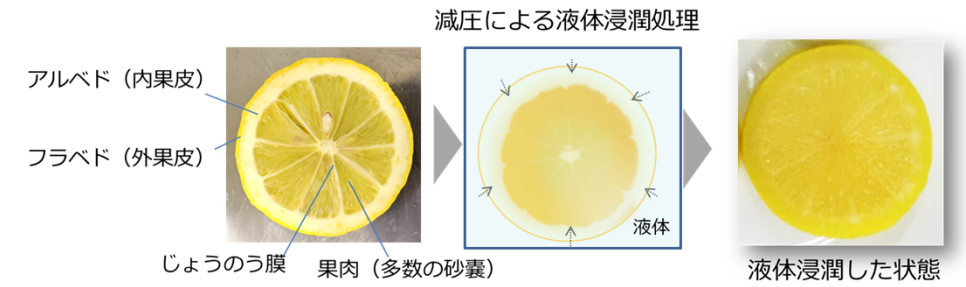
## ○食料支出に占める果実の割合・果実支出に占める果実加工品の割合



資料：総務省家計調査 注：データは総世帯。果物加工品にジュースは含まれない。

## ○国内における果実加工技術の開発・利用

- ① 広島県 広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター（レモン）
  - ・レモンの果皮アルベド（白いスポンジ状組織）に液体を浸潤させることで、果皮を噛みきりやすく、苦みを軽減できる、皮ごと美味しく食べられる技術を開発（特許第7137878号、関連特許第7329888号）。
  - （資料：広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター）

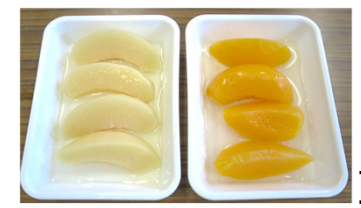


（商品化例：アルベドコンフィチュール「白檸檬」）



- ② （一社）長野県農村工業研究所（白桃、ワッサー、りんご）
  - ・脱気中高圧処理による液体含浸と中温殺菌により、生食感・風味を活かした長期冷蔵保存可能なコンポート製造技術を用いて、長野県産果実を使用した高品質果実シロップ漬け製品を開発。

※本開発製品は農研機構生研支援センターの「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）：加工食品等の賞味期限大幅拡大延長技術」の支援を受けて実施した成果によるものである。

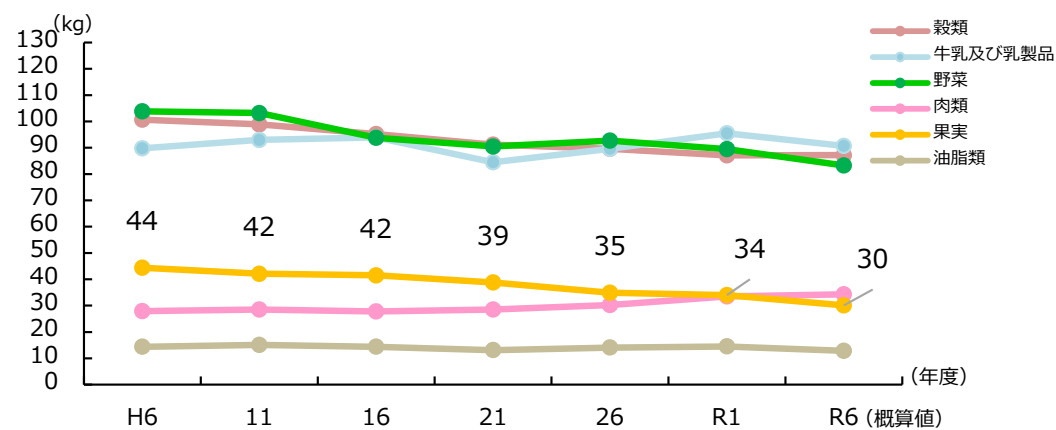


（写真：（一社）長野県農村工業研究所）

# 果実の消費動向 ① (消費動向の推移)

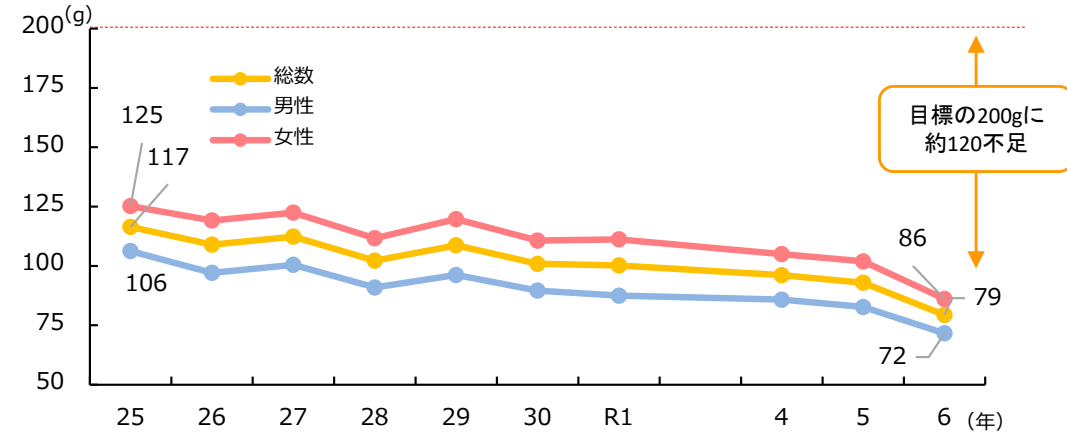
- 主要農産物の消費動向をみると、果実の消費は減少傾向で推移しており、また、購入数量においても減少傾向で推移している。
- 国民健康づくり運動である「健康日本21（第三次）」における果実摂取量の目標値200g（20歳以上、1人1日当たり、令和14年度）に対する状況をみると、令和6年の果実摂取量は約79gで、特に20～50歳代で不足が目立っている。

## ○主要農産物の1人1年当たりの消費動向



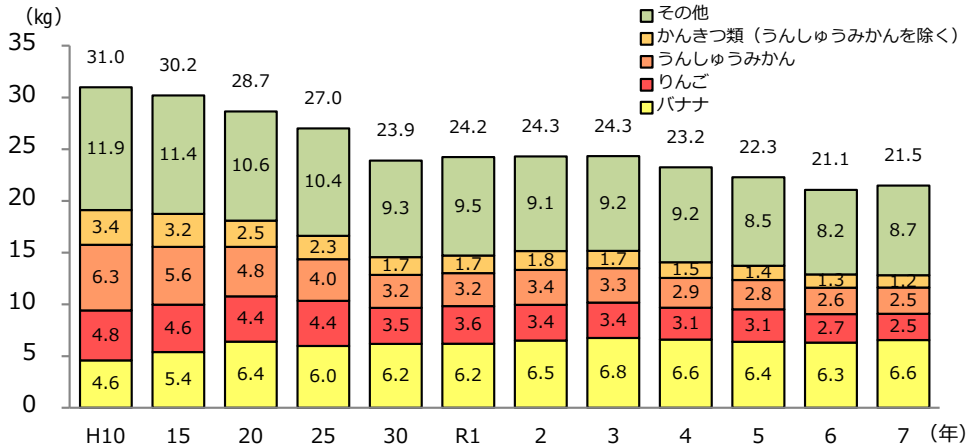
資料：農林水産省「食料需給表」  
注：データは供給数量（＝消費者に到達した食料）であり、実際に摂取された食料の数量ではない。

## ○1人1日当たりの果実類摂取量の推移



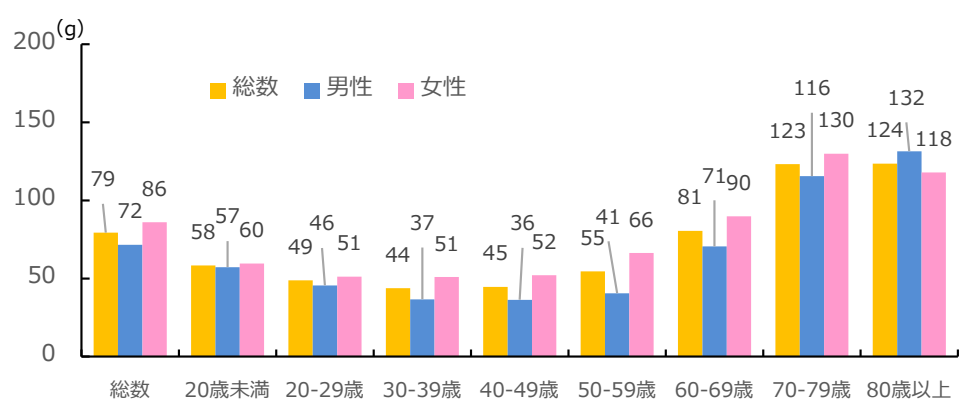
資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」（令和2年及び3年は調査中止）  
注：データは20歳以上の者。「果実類摂取量」とは、生果、ジャム、果汁・果汁飲料の合計。

## ○果実1人1年当たりの購入数量



資料：総務省「家計調査」  
注：データは「二人以上の世帯」の1世帯当たりの支出金額を世帯人員で除して算出。

## ○世代別の果実類摂取量

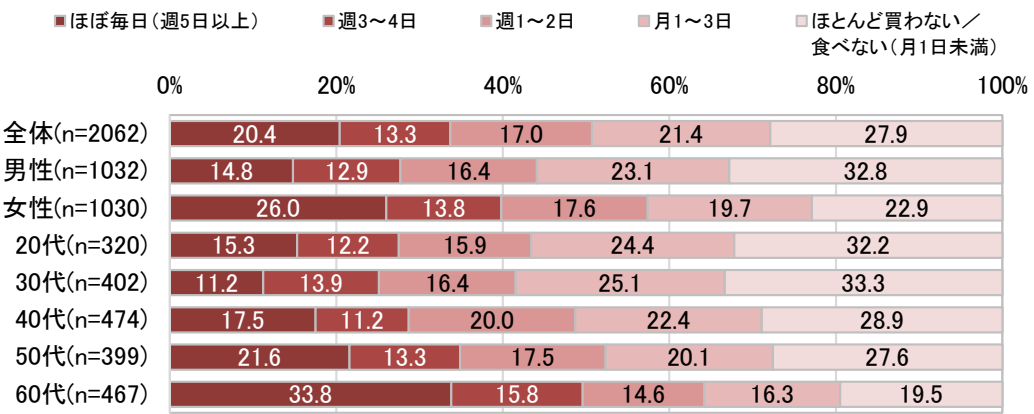


資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」（令和6年）  
注：「果実類摂取量」とは、生果、ジャム、果汁・果汁飲料の合計。「総数」は20歳以上の者を対象にした値。

# 果実の消費動向 ② (消費者ニーズの動向)

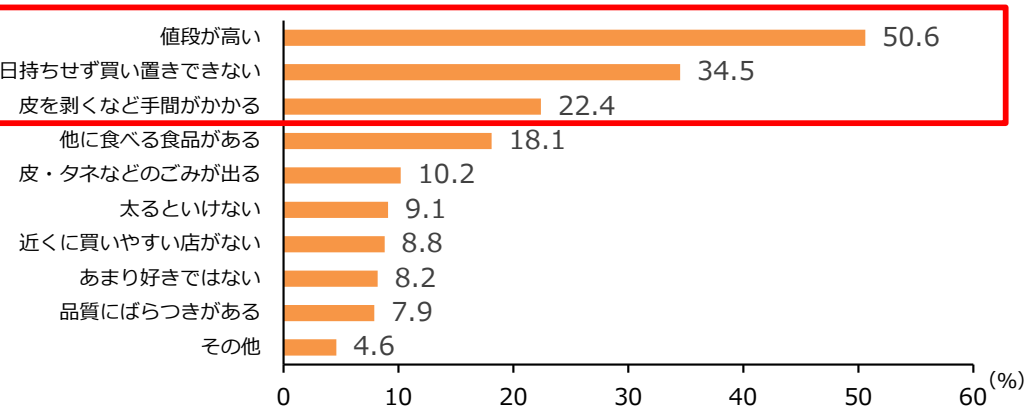
- 果物の摂取頻度は、男女とも「ほとんど食べない」という回答が最も多い。また、20～50代では「ほとんど食べない」、60代では「ほぼ毎日」という回答が最も多い。
- 果物を毎日食べない理由として、「値段が高い」、「日持ちせず買い置きできない」、「皮を剥くなど手間がかかる」等があげられている。
- 消費者は、「安価」「食べやすい」「傷みにくい」ことを特に求めており、購入時の情報として、「食べごろの見分け方」、「美味しい果物の見分け方」、「鮮度の見分け方」を特に求めている。

## ○果物の摂取頻度



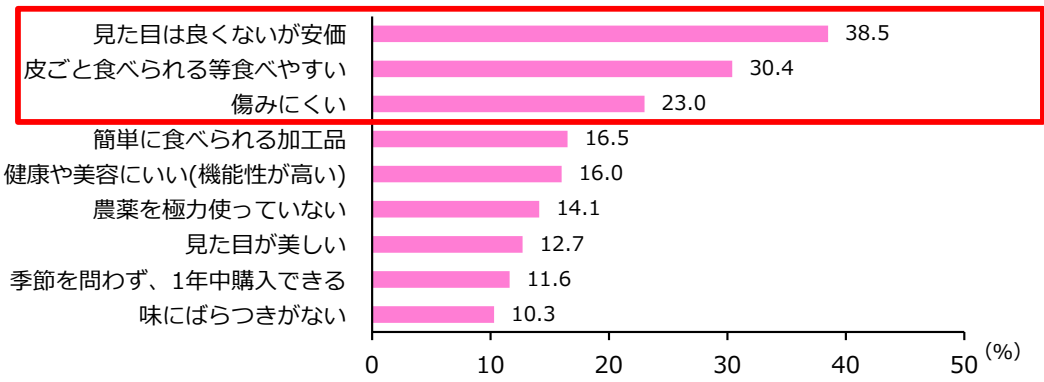
資料：(公財)中央果実協会「果物の消費に関するアンケート調査」(令和7年度)

## ○果物を毎日食べない理由



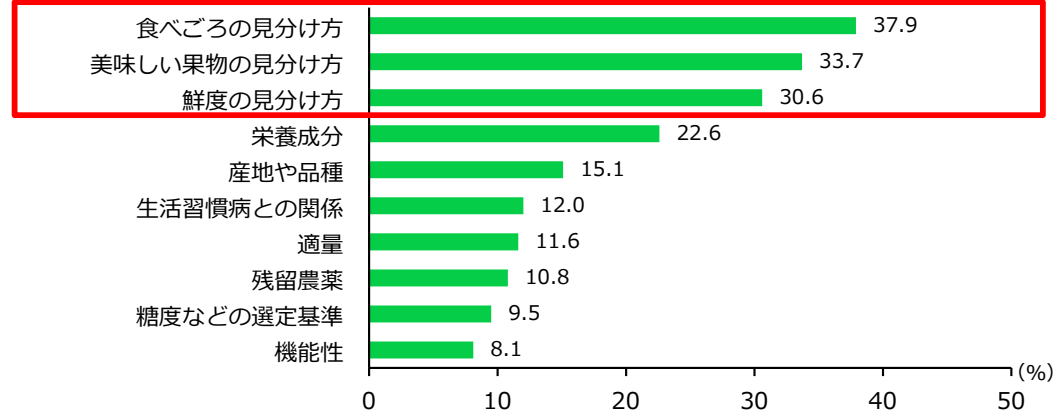
資料：(公財)中央果実協会「果物の消費に関するアンケート調査」(令和7年度)

## ○消費者が求める果物の提供方法



資料：(公財)中央果実協会「果物の消費に関するアンケート調査」(令和7年度)

## ○消費者が果物購入時に知りたい情報



資料：(公財)中央果実協会「果物の消費に関するアンケート調査」(令和7年度)

# 果実の消費動向 ③ (消費拡大対策)

- 生産者団体等と協力し、「毎日くだもの200グラム運動」により、家庭や学校等における普及啓発活動や、摂取不足が目立つ世代に向けた食べ方の提案・情報発信等の果実の消費拡大対策を推進。
- 若い世代をターゲットに「カフェメニューコンテスト」を実施し、受賞レシピの実店舗でのメニュー化や、フルーツに関する様々な情報をSNSで発信。
- 消費者ニーズに合わせた品種の育成や研究開発、栄養・機能性関与成分等の情報を発信。

家庭や学校等における普及啓発、生活・就業スタイルに合わせた食べ方の提案

消費者ニーズに合わせた品種の育成や研究開発、栄養・機能性関与成分の情報発信

## 「毎日くだもの200グラム運動」の推進等

- 「毎日くだもの200グラム運動」により、出前授業やくだもの作文・かべ新聞コンクール等の普及啓発活動の実施
- 社食等への果実供給や「デスクdeみかん」（デスクやキャンパスの間食でみかんを食べる取組）の実施
- 国産果物の消費拡大に関するポスターデザインの作成・公表



「毎日くだもの200グラム運動」ロゴマーク      デスクdeみかん      消費拡大ポスター

## 若い世代をターゲットにした取組やSNSを活用した情報発信等

- 果物を用いた「カフェメニューコンテスト」を実施し、実店舗でメニュー化、提供
- 農林水産省公式SNS等において、果実に関する様々な情報を発信



「カフェメニューコンテスト」で市販化されたメニュー      フルーツと美容の発信



農林水産省公式SNS等で発信

## 食べやすい品種の育成や機能性成分の調査・研究等

- 皮が剥きやすい高糖度で高品質なかんきつ類や、鬼皮・渋皮と実がきれいに剥離するくりの育成・開発
- 果実に含まれる機能性成分の調査・研究（例：かんきつ類に含まれるβ-クリプトキサンチン、りんごに含まれるプロシアニジン等）
- 果実加工品向けの新たな皮剥き技術「酵素剥皮」の実証と普及



かんきつ類「せとか」      くり「ぼろたん」      ももの酵素剥皮

## 健康志向に対応した栄養素等の情報発信

- 一般の小売店において、栄養素等の表示による消費者への情報発信
- 〔R5年度から、規制のサンドボックス制度※の成果物「野菜・果実の栄養素の一般的な特徴に関するPOP表示マニュアル」の研究、表示を支援〕



小売店等への研修



店舗でのPOP表示、消費者の理解促進

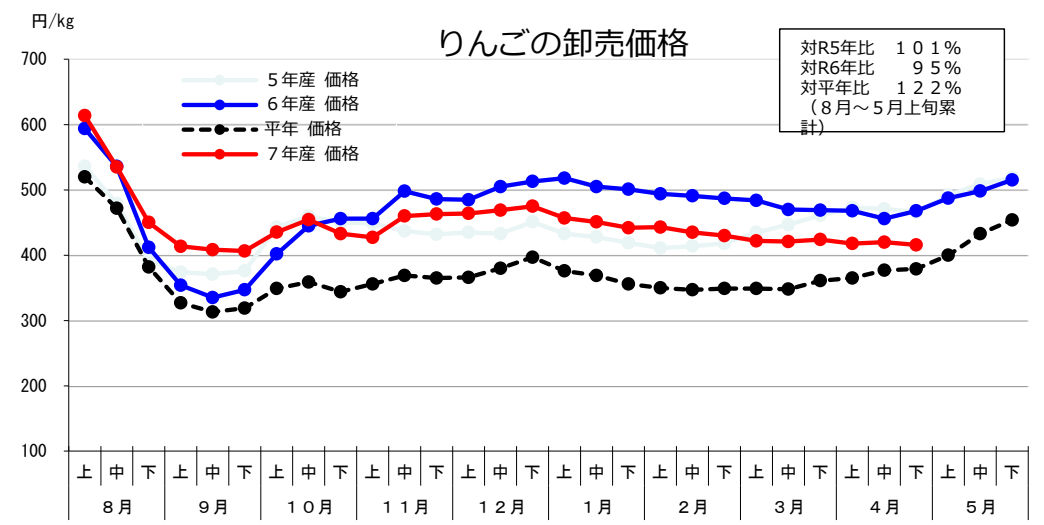
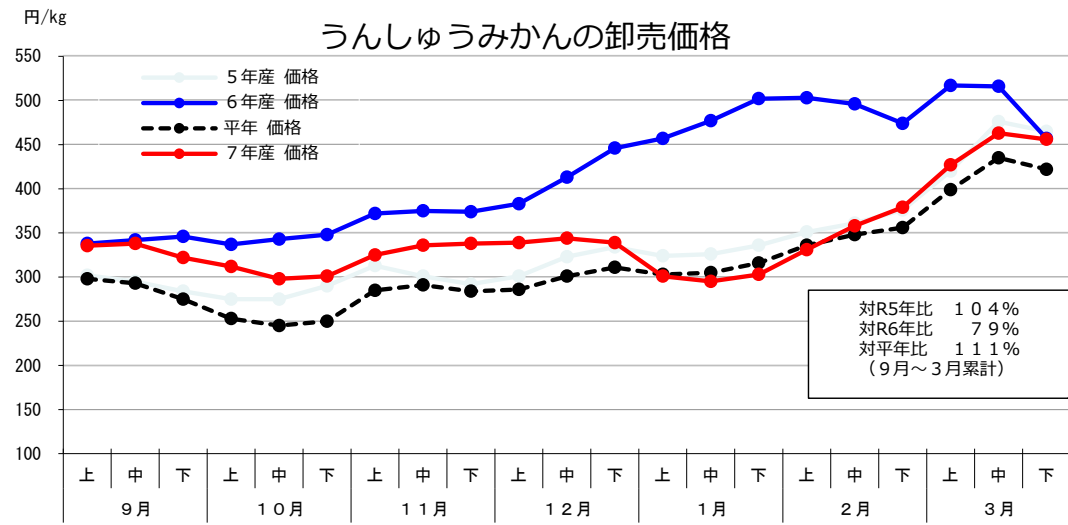
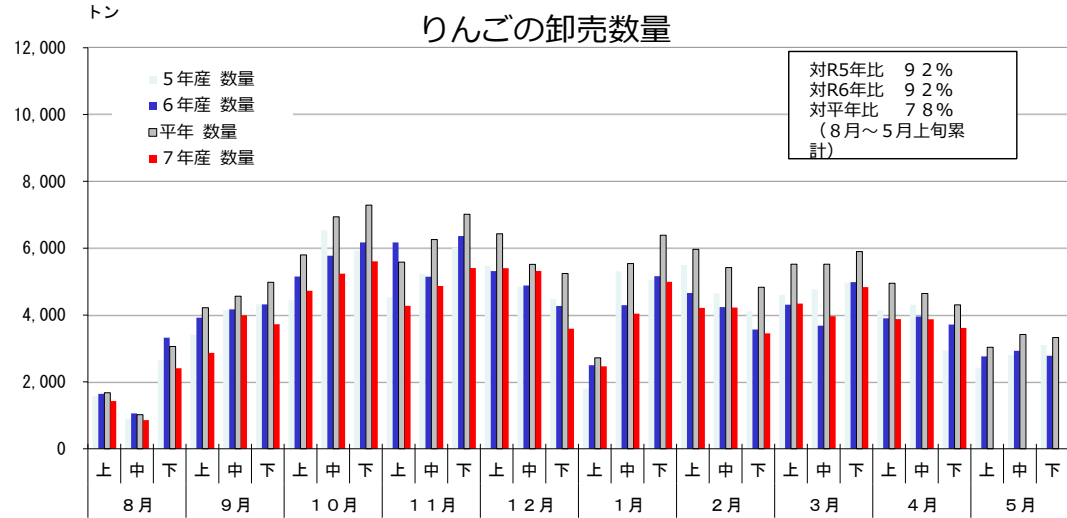
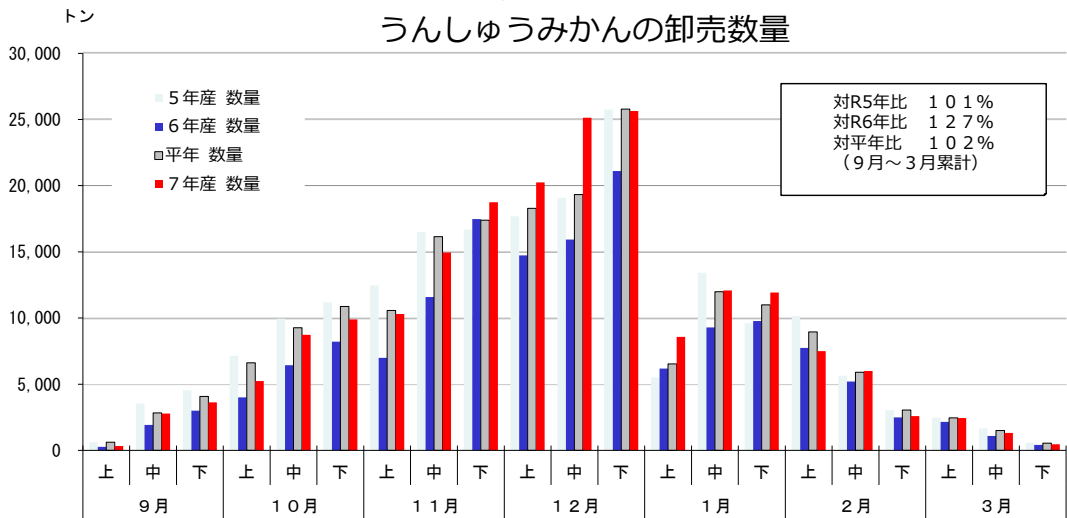
※規制のサンドボックス制度とは、新たなビジネスモデルの実施が現行規制との関係で困難である場合に、新しい技術やビジネスモデルの社会実装に向け、事業者の申請に基づき規制官庁の認定を受けた実証を行い、実証により得られた情報やデータを用いて規制の見直しに繋げていく制度。

# 果実の卸売価格の推移 ① みかん、りんご（令和7年産5月上旬時点）

○うんしゅうみかんは、夏場は高温・小雨により小玉傾向で生育が進んだものの、秋の降雨により肥大は回復して大玉傾向。卸売数量は平年並み、価格は1割高で推移。

○りんごは、大雪による枝折れ・幹割れの影響、小雨による小玉化傾向に加え、秋口の強風や鳥獣害が多くなり、卸売数量は平年比2割減、価格は2割高で推移。

## 【4大市場におけるみかん、りんごの卸売数量、卸売価格の推移】



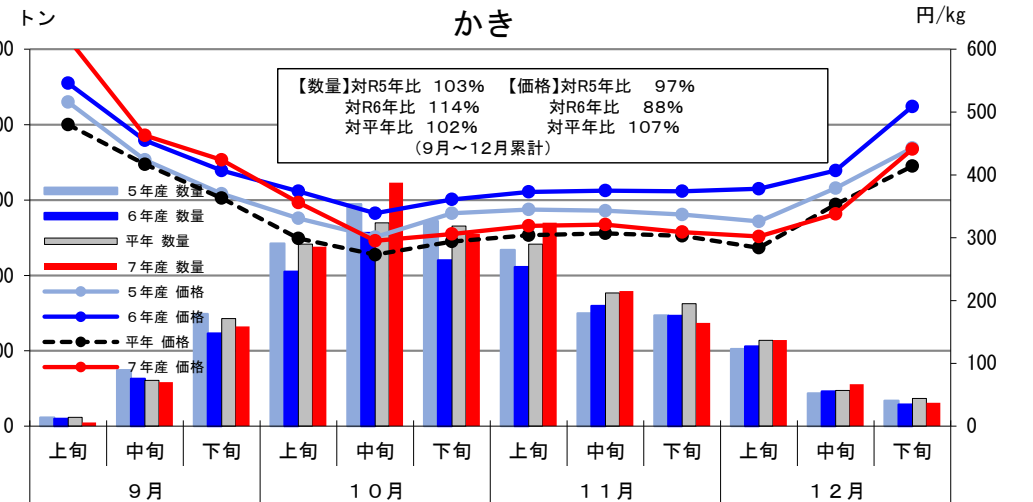
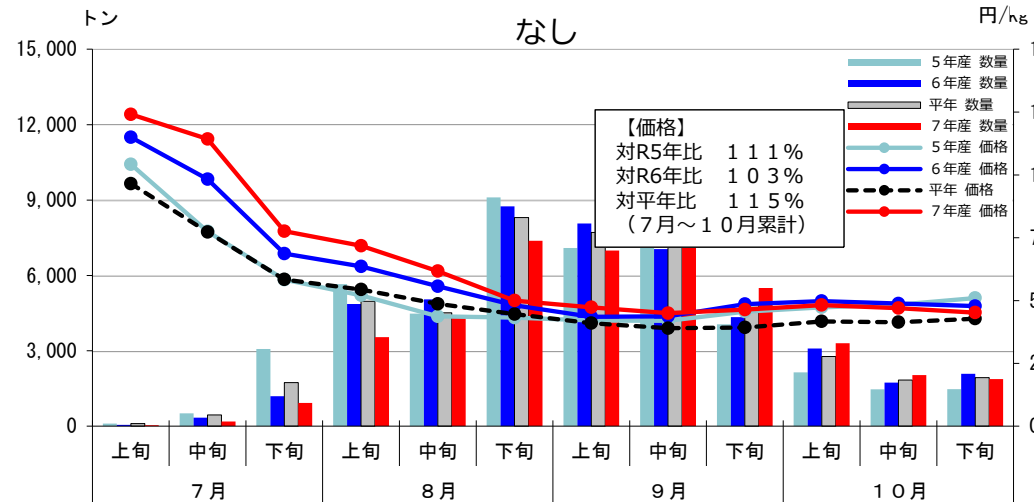
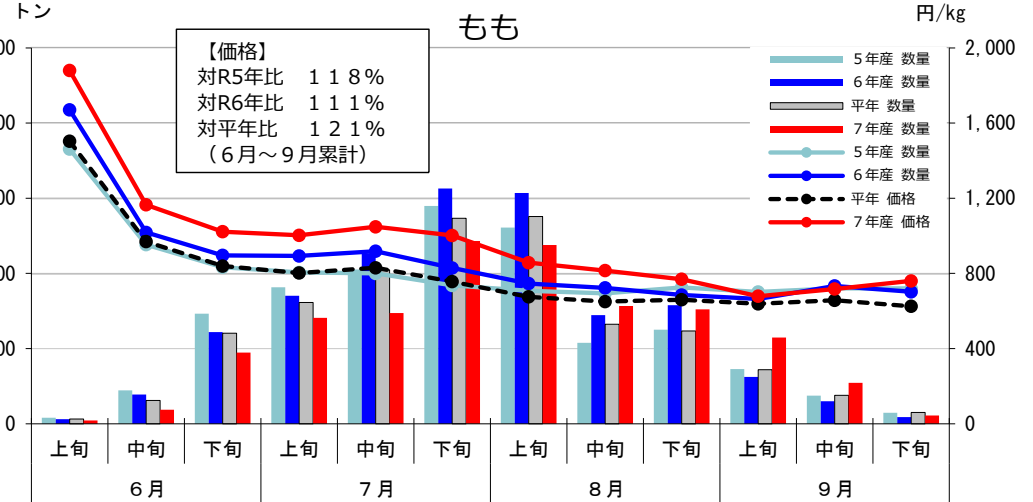
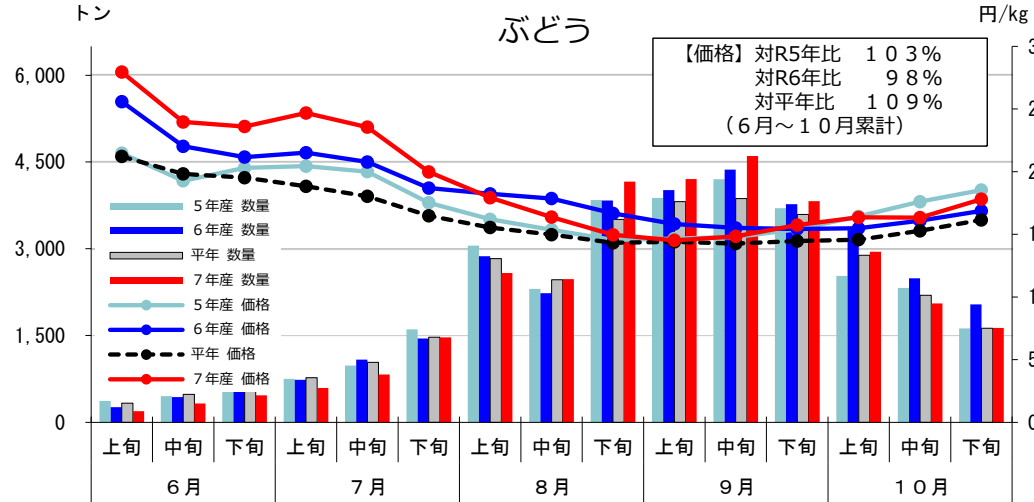
資料：日本園芸農業協同組合連合会調べから農林水産省作成 平年価格とは、過去6か年の平均値。 4大市場とは、京浜、京浜衛星、名古屋、京阪神地域の37市場。

# 果実の卸売価格の推移 ② ぶどう、なし、もも、かき

○ぶどうは乾燥により小房傾向となったものの、シャインマスカットの生産が増加し、卸売数量は平年並み、価格は1割高。ももは乾燥により小玉傾向となり、卸売数量は平年の1割減、価格は平年の2割高。

○なしは一部で乾燥により小玉傾向であったものの、着果は良好で、卸売数量は平年並、価格は平年の2割高。かきは乾燥による小玉傾向が見られたものの、卸売数量は平年並み、価格は平年の1割高。

【4大市場におけるその他主要果実の卸売数量、卸売価格の推移】



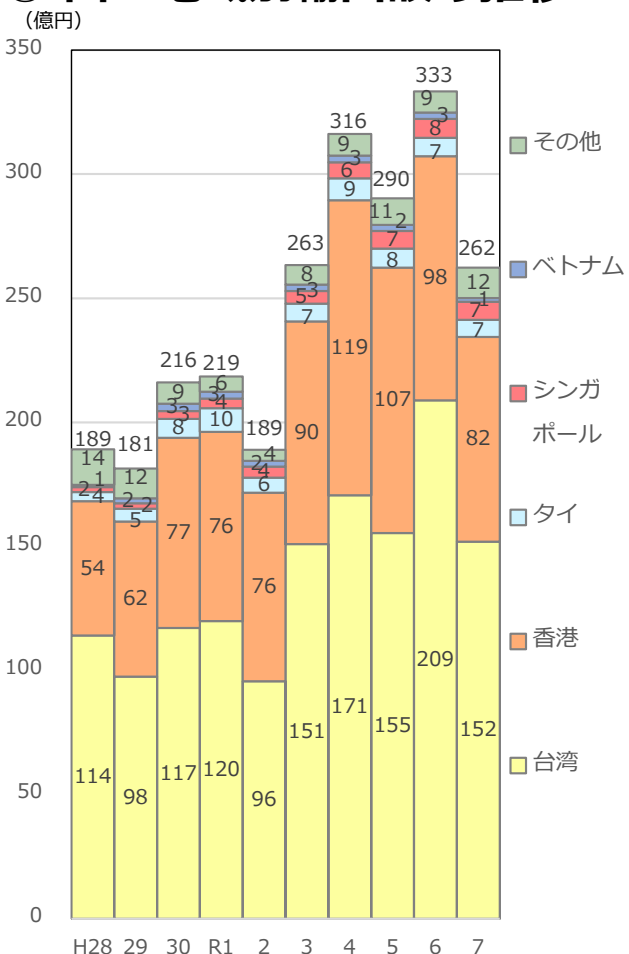
資料：日本園芸農業協同組合連合会調べから農林水産省作成 平年価格とは、過去6か年の平均値。

4大市場とは、京浜、京浜衛星、名古屋、京阪神地域の37市場。

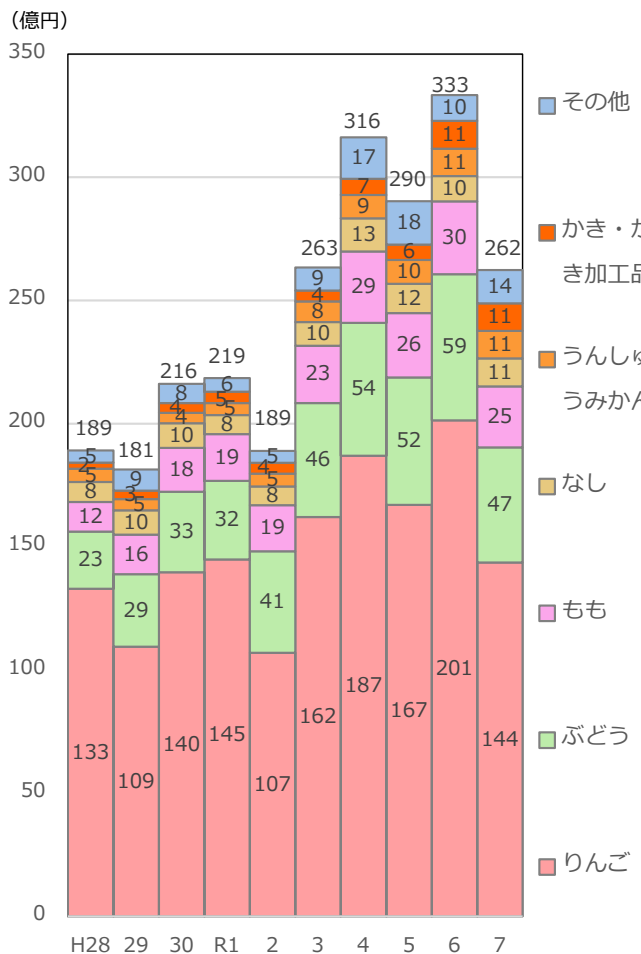
# 果実の輸出状況 ①

- 高い品質が諸外国で評価され、輸出額は近年増加傾向。令和7年は、①りんごの最需要期である春節（2/17）が昨年（1/29）より後ろ倒しとなり輸出ピークが令和8年にずれ込んだこと、②雪害によりりんごの収穫量が減少したこと、③高温の影響により果実全体で小玉傾向となり贈答用の高品質な果実の確保が難しかったことから、輸出額は減少。
- 令和7年の輸出実績について、輸出先国・地域別には台湾(152億円)、香港（82億円）向けの合計が全体の約9割を占め、品目別にはりんごが全体の約6割の144億円となり、特定の輸出先や品目に偏っている状況。

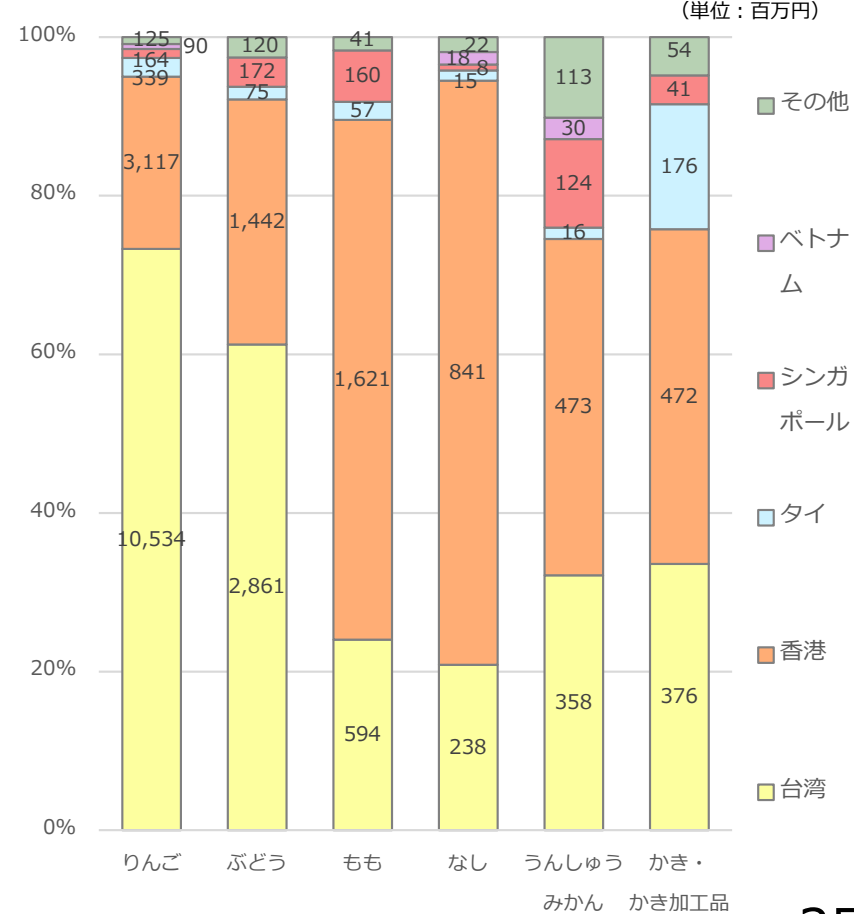
○ 国・地域別輸出額の推移



○ 品目別輸出額の推移



○ 品目毎の輸出先国・地域の割合 (R7)



資料：財務省「貿易統計」を基に農水省にて作成。

# 果実の輸出状況 ② (輸出拡大戦略)

- 農林水産物・食品の更なる輸出拡大に向けて、「食料・農業・農村基本計画」(令和7年4月11日閣議決定)において、**2030年までに5兆円とする輸出額目標を設定**。「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」(令和7年5月改訂)に基づき、目標達成に向け、政府一体となってあらゆる施策を講じることとしている。
- 果樹等では、**りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品、なしを輸出重点品目**に選定するほか、**海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定するとともに、必要な施設整備等を重点的に支援**。
- さらに、青果物の生産から販売に至る関係事業者を構成員とする「(一社)日本青果物輸出促進協議会」をオールジャパンでの輸出拡大の中心的な役割を担う「品目団体」として位置付け。

## 【フラッグシップ輸出産地 (令和7年12月時点)】

### ■ 果樹で認定されたフラッグシップ輸出産地

- りんご (4産地)
- ぶどう (7産地)
- もも (4産地)
- かんきつ (3産地)
- かき・かき加工品 (5産地)

※フラッグシップ輸出産地の主な要件  
 ・輸出先国・地域の規制やニーズに対応した輸出を行っている。  
 ・直近1年間で3,000万円以上の輸出実績がある。

## 【輸出の取組に向けた支援】

- 産地生産基盤パワーアップ事業  
 強い農業づくり総合支援交付金  
 ・輸出拡大に必要な低温処理施設等の整備を支援。
- 食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備事業  
 ・輸出先国等の求める基準・条件等の規制に対応した選果施設等の新設及び改修、機器整備を支援。

## 【青果物の品目団体と取組】

### ■ (一社)日本青果物輸出促進協議会



※ J A、県輸出協議会、卸売会社、輸出業者等の105会員により構成 (R8.5.8現在)  
 ※改正輸出促進法に基づく農林水産物・食品輸出促進団体 (品目団体) として令和4年12月に認定

- 日本産青果物の海外における展示、試食会やSNS等を活用したPR活動
- 海外の小売店舗での日本産と競合他国産に関するマーケット調査
- 販路拡大に向けた国内外での商談会の開催
- メディアやインフルエンサー等を活用したプロモーションによる販売促進活動
- 輸出における課題解決に向けた現地実証

## 【輸出先国等の規制への対応】

### ■ 残留農薬基準への対応

- 輸出先国・地域に対して行う、残留農薬基準値を設定するための申請 (インポートトランズ申請) の件数 (平成27年度以降)  
 → 59件 (台湾:51件、米国:6件、カナダ:1件、Codex:1件)

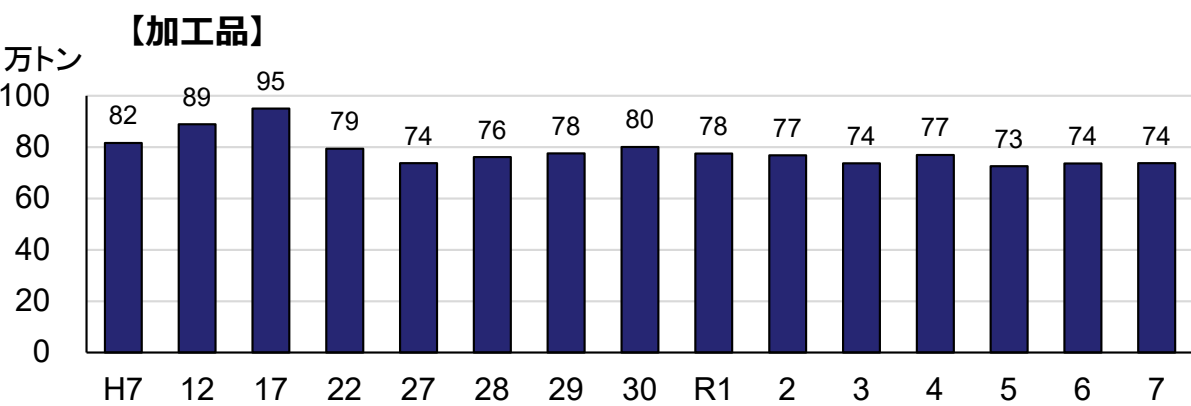
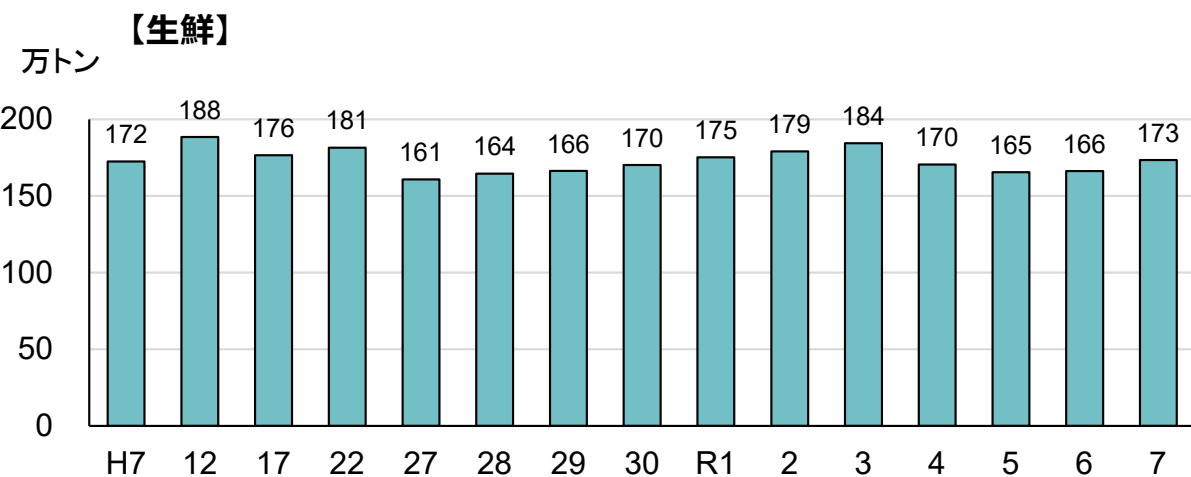
### ■ 輸出解禁等に向けた植物検疫協議 ※直近の動向

- タイ向けゆず・きんかんの輸出解禁 (2025年2月)
- タイ向けかんきつ類生果実の輸出検疫条件の緩和 (2023年5月)
- インド向けりんごの輸出解禁 (2022年3月)

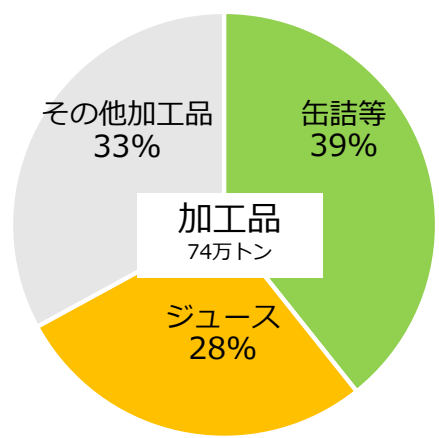
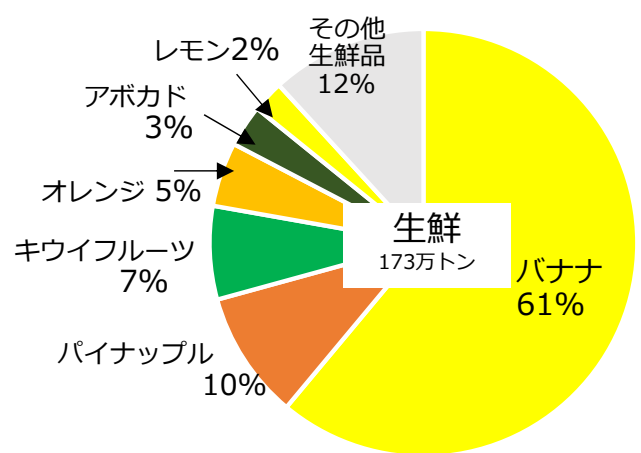
# 果実の輸入状況

- 果実の輸入量は、近年、生鮮はR3年の184万トンにピークに減少傾向、加工品は80万トン程度で推移。
- 輸入生鮮果実（173万トン）のうち、バナナ、パイナップル、キウイフルーツ、オレンジ、アボカド及びレモンの6品目で約9割を占めている。
- 輸入果実加工品（74万トン）のうち、缶詰及びジュース等で約7割を占めている。

○果実の輸入量の推移（生鮮・加工品<sup>(注)</sup>）



○令和7年輸入量の内訳

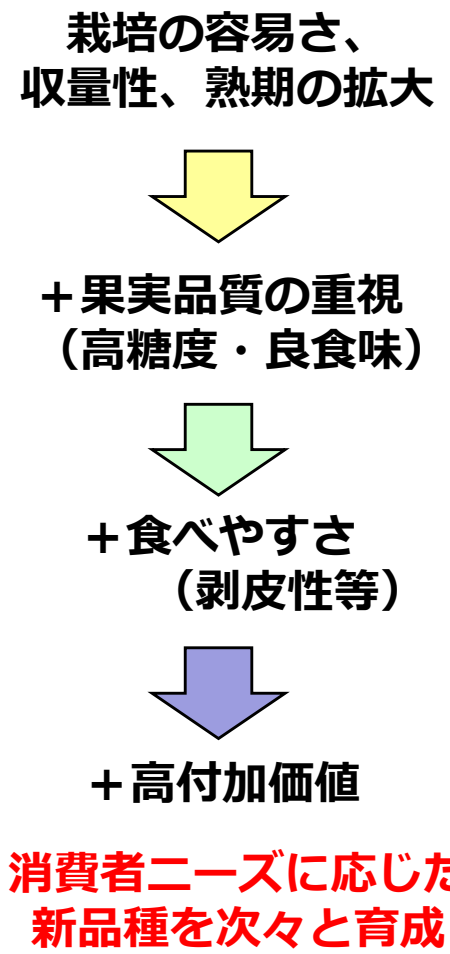
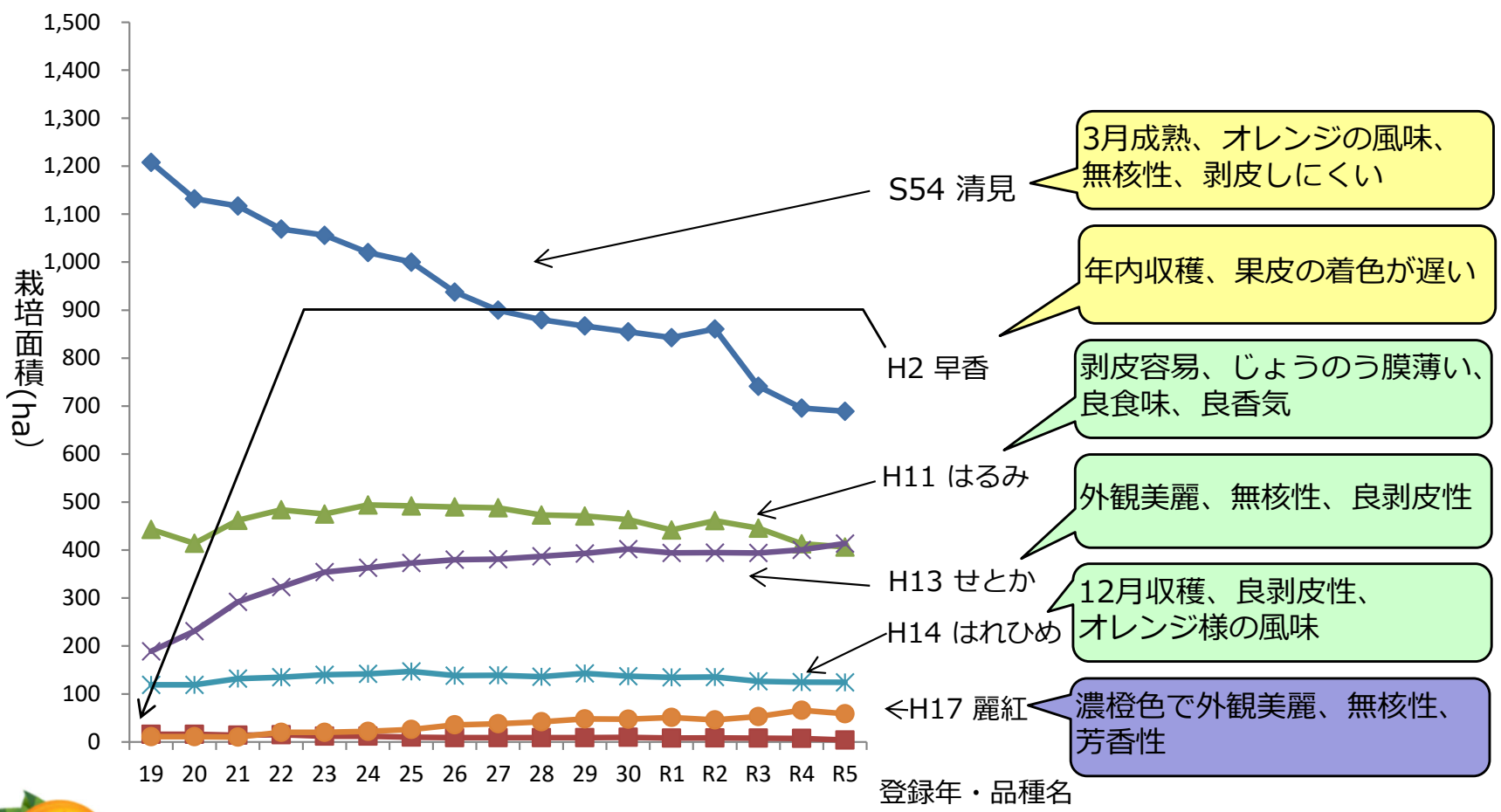


資料：独立行政法人農畜産業振興機構 ベジ探データベース  
 注：加工品を生果換算していない。

# 果樹研究の推進 ① (多様なニーズに対応した新品種の育成)

- 永年性作物であり、新品種の育成・普及に長い年月を要する果樹については、公的研究機関が大きく貢献。また、新品種の産地普及に際し、普及センターが精力的に活動。
- これまでに、「おいしい」、「食べやすい」などの消費者ニーズに対応した新品種が数多く育成され、主要産地に広く普及。また、近年は機能性成分高含有等の高付加価値を備えた新品種の育成に成功。
- こうした品種育成を今後とも進めることが必要。

## ○かんきつ栽培品種の移り変わり



資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」

# 果樹研究の推進 ② (普及が進む果樹の新品種)

○おいしい、食べやすい、健康によい等の消費者のニーズに応え、さまざまな新品種を育成。

## 【あすき】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・カットした際のドリップが少なく、カットフルーツ向き。
- ・果肉の糖度が16%程度と極めて高い。
- ・かいよう病、そうか病に強い。



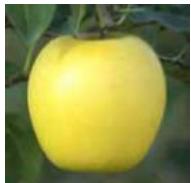
図1「あすき」の果実

(面積データなし)

## 【シナノゴールド】

(長野県育成品種)

- ・鮮やかな黄色い果皮、高い糖度と適度な酸味が特徴。
- ・貯蔵性が高く、長期出荷が可能。
- ・ふじが出荷される前の中生種として、長野県に加え、青森県、岩手県などでも普及。



(H13 : 183ha → R5 : 903ha)

## 【シャインマスカット】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・皮ごと食べられる手軽さと優れた食味が特徴。
- ・ジベレリン処理で種なし栽培も容易。
- ・長野県、岡山県をはじめ、東北から九州まで広く普及し、栽培面積は過去15年間で約51倍に増加。



(H20 : 57ha → R5 : 2,925ha)

## 【グロースクローネ】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・高温下でも着色に優れる。
- ・ジベレリン処理で種無し生産ができ、「巨峰」「ピオーネ」よりも大粒になる。
- ・糖度は「巨峰」並みで、酸含量は「巨峰」よりやや低い。



(R5:1ha)

## 【璃の香】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・かいよう病に強く豊産性。
- ・従来のレモン品種に比べ200g程度と大きい。
- ・果肉歩合、搾汁率が高く、歩溜まりも高いため、加工適性に優れる。



(R5 : 11ha)

## 【錦秋】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・果皮は濃赤色で着色しやすく、多汁で肉質が良い。
- ・北海道など寒冷な栽培地域でも糖度は十分に高く、既存の栽培品種並みに果実が肥大する。



図1「錦秋」の結実状況

(面積データなし)

## 【露茜】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・スモモとウメの雑種。
- ・果皮と果肉が紅色に着色し、ウメジュースや梅酒が紅色の美しい製品になる。



露茜のジュース(左) 露茜の梅酒(右)



(R5 : 26.5ha)

## 【甘太】

(農研機構果樹研究所育成品種)

- ・大果で糖度が14%と高く、豊産性で栽培しやすい。
- ・柔らかく、肉質も良好。
- ・南東北以外の大部分の県で有望と評価されており、全国的に普及が見込まれる。

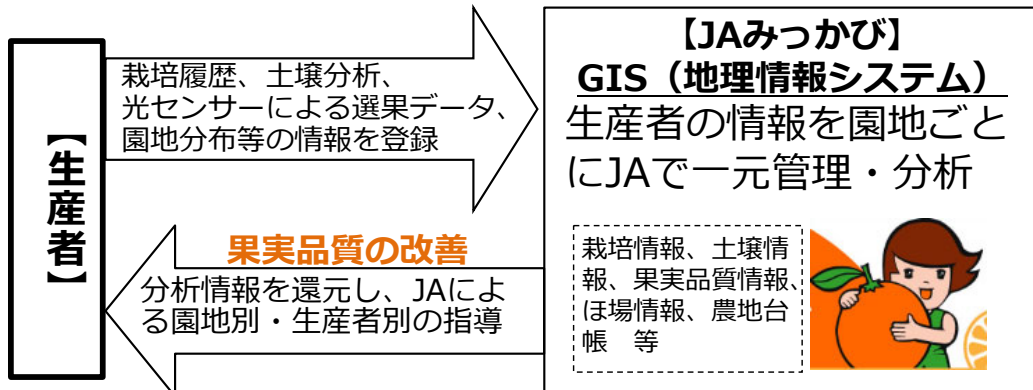


(R5 : 34.8ha)

# 果樹研究の推進 ③ (付加価値を高める栽培技術及び加工技術)

- さまざまな果樹の新品種等に対応し、高品質果実の安定生産を可能とする技術、機能性成分の含有量  
を高める栽培技術、付加価値を高める鮮度保持技術・加工技術を確立する。
- 生果向けのみならず、加工用途にも高品質果実を低コストで安定供給する技術を開発することで、高  
品質果実を安定供給することにより、収入の向上と経営の安定化を目指す。

## 【高品質果実の安定生産技術の開発】



GIS (地理情報システム) を活用したみかんの品質改善 (JA三ヶ日)



ぶどうの環状剥皮技術による着色改善技術の普及

## 【果実の品質保持技術の開発】



ナシの日持ち性 (25℃で2週間)  
果実の日持ち性を向上する、果実鮮度保持剤 (1-MCP 燻蒸剤) 処理

MA資材による包装

カワラヨモギ抽出物の塗布

軍手で塗布

高品質果実の流通期間を拡大し、需要に応じた供給が可能となる。  
計画的出荷を行い、**価格の安定**や**高単価時の販売**が期待

## 【新たな需要を開拓する果実の加工技術の開発】



カットフルーツ製造のキーテクノロジーとなる剥皮技術の開発

加工向けとして供給を可能とする技術開発を行い、**果実を高付加価値化**

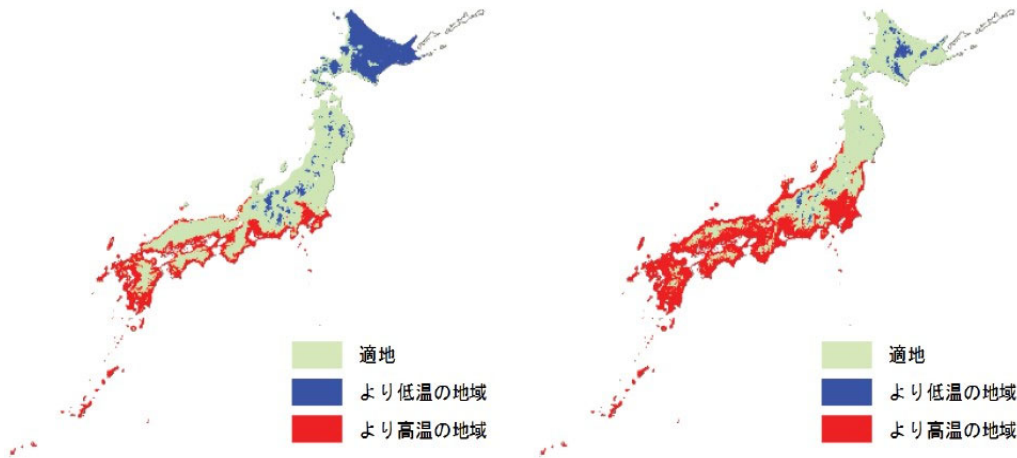
# 地球温暖化の影響と対策

- 地球温暖化が進行する中、高温等の影響でうんしゅうみかんの浮皮、りんご・ぶどうの着色不良、なしの発芽不良等の障害が発生。
- また、うんしゅうみかんやりんごは、気候変動により栽培に有利な温度帯が年次を追うごとに北上するとの予測。
- このような温暖化等の気候変動による様々な影響に対する取組を計画的かつ総合的に推進するため、政府は「気候変動の影響への適応計画」を平成27年11月に策定。（令和5年改定）
- 計画に即し、適応技術の開発・普及、優良着色系品種等への転換等の対策を推進。

## ○ IPCC（気候変動に関する政府間パネル） 第5次評価報告書（2014年公表）

- ・1880～2012年において、世界平均地上気温は0.85℃上昇
- ・最近30年の各10年間の世界平均地上気温は、1850年以降のどの10年間よりも高温

## ○栽培適地の移動予測モデル（りんご）



1981-2000年

2046-2055年 (RCP8.5)

出展：農林水産省「気候変動の影響への適応に向けた将来展望」（2019）

## ○「気候変動の影響への適応計画」の概要〈果樹〉

影響	現状		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ りんごやぶどうの着色不良・着色遅延</li> <li>○ うんしゅうみかんの浮皮、日焼け等</li> <li>○ 日本なしの発芽不良、みつ症等</li> </ul>		
取組	高温対策	みかん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しらぬひ」、 「ブラッドオレンジ」等の温暖な気候を好む中晩相への転換</li> <li>・カルシウム剤の活用（浮皮）、フィガロン散布の普及（着色不良）</li> <li>・ジベレリン・プロヒドロジャスモン混用散布（浮皮）、遮光資材の積極的活用（日焼け）等による栽培管理技術の普及を加速化</li> <li>・高温条件に適応する育種素材の開発</li> </ul>
		りんご	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「秋映」等の優良着色系品種の導入</li> <li>・かん水（日焼け）や反射シート（着色不良）の導入</li> <li>・標高の高い地帯での栽培実証等の取組を推進</li> <li>・高温条件に適応する育種素材の開発</li> </ul>
		ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グロースクローネ」等の優良着色系品種や「シャインマスカット」等の黄緑系品種の導入</li> <li>・環状剥皮等の普及を加速化（着色不良）</li> </ul>
		なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽不良軽減のため発芽促進剤の利用等技術対策の導入・普及</li> <li>・高温条件に適応する育種素材の開発</li> </ul>
	の樹既 転か 換果 樹	(亜熱帯・熱帯果樹)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アテモヤ、アボカド、マンゴー、ライチ等の導入実証の取組を推進</li> </ul>

# 果樹の高温被害の状況

- 地球温暖化が進行する中、**高温等の影響でうんしゅうみかんやりんごの日焼け等の障害が発生。**果樹は永年性作物であり、**高温等の影響は当該年度のみならず、翌年度以降の長期に及ぶことを踏まえた対策が必要。**

## 果樹生産における高温等の影響

※卸売数量は、日園連調べ。平年は過去6か年平均

### うんしゅうみかん



- 夏の高温により、果実の日焼けが発生。

令和7年産は夏場の乾燥により小玉傾向で生育が進んだものの、8、9月の降雨により肥大が回復。卸売数量は平年並みで推移。

### りんご



- 夏の高温により、果実の日焼けが発生。

令和7年産は、昨冬の大雪による枝折れ・幹割れの影響のほか、乾燥により小玉傾向となり、卸売数量は平年より2割減で推移。

### ぶどう



- 夏の高温により、黒色系品種において果実の着色不良が発生。

令和7年産は、乾燥により小房傾向にあったが、シャインマスカットの生産が増加し、卸売数量は平年並み。

### なし



- 夏の高温と乾燥により果肉の一部が水浸状となる「みつ症」が発生。

令和7年産は乾燥により小玉傾向にあったが、着果は良好で、卸売数量は平年並み。

### もも



- 夏の高温と過湿により果肉の一部が水浸状となる「みつ症」が発生。

令和7年産は「みつ症」は少ないものの、乾燥により小玉傾向。卸売数量は平年より1割減少。

### おうとう



- 前年夏の高温による「双子果」、収穫期の高温による障害果（過熟果等）が発生。

令和7年産は「双子果」、障害果が多発し、卸売数量は平年より5割減少。

# 新たな果樹農業振興基本方針（令和7年4月）のポイント

## 基本方針の理念

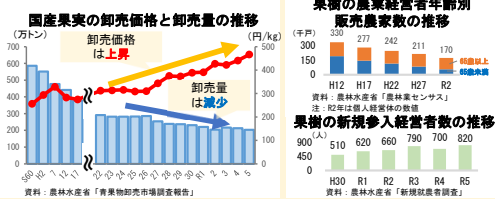
- 省力樹形等の新技術の萌芽や、加工や輸出といった関連産業との協働といった、**技術・経営のイノベーション**が進んでおり、こうした取組を**スピード感をもって全国に波及**させることが果樹農業の持続的な発展に重要。
- **需要に応える果樹農業の持続的な発展**を目指すため、**生産基盤の強化の加速化**に向けて、関係者が一体となって施策を推進。

## 基本方針の期間

- 永年性作物である果樹の特性を鑑み、**今後20年程度を見据えた5年間の基本方針**として定める。

## 果樹農業をめぐる現状と課題の認識

### 農業者の減少・高齢化、生産減少



- 国産果実の卸売価格は上昇傾向で推移する一方、果樹農業者の減少・高齢化が先行し、栽培面積・生産量はともに減少傾向。

### 高温等の影響による障害の頻発化



りんごの日焼け果 みかんの日焼け果

- 世界各地で気候変動による異常気象が発生。特に我が国では、高温等の影響による果実の障害が頻繁に発生。

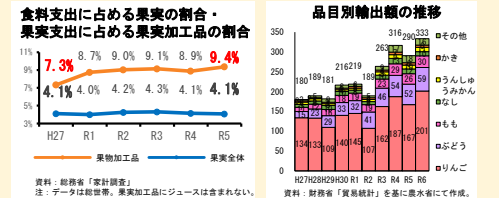
### 中山間地域など地域社会の維持が困難



中山間地域での栽培

- 果樹農業が大きな割合を占める中山間地域では、都市に先駆けて人口減少・高齢化が進展。地域の基幹産業として付加価値の向上が課題。

### 需要の変化



- 国内消費量が減少する中で、加工や輸出等の需要は増加。新たな需要への対応や海外から稼ぐ力の強化が必要。

## 施策

生産数量目標

(R5) 2,447千トン  
↓  
(R12) 2,560千トン

	KGI	KPI	講じる施策
生産基盤強化の加速化	労働生産性の向上、気候変動等への対応	単収 1,258kg/10a (R5) → 1,334kg/10a (R12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省力樹形等の導入スピード 170ha/年 (R5) → 340ha/年 (R12)</li> <li>● 技術的な高温対策を導入した産地 令和12年度までに50産地で導入</li> </ul>
	担い手の育成・確保、労働力の確保	新規参入経営者数 820人 (R5) → 1,640人 (R12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 果樹型トレーニングファームの設置 45産地 (R5) → 250産地 (R12)</li> <li>● サービス事業者活用等の産地 令和12年度までに50産地で活用</li> </ul>
	地域の基幹産業としての付加価値の向上	生産面積 194千ha (R5) → 192千ha (R12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな大規模経営体・産地 令和12年度までに50経営体・産地を創出</li> </ul>
新たな需要への対応	国内需要への対応	加工仕向量 314千t (R3) → 377千t (R12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加工原材料果実の生産に取り組む経営体・産地 令和12年度までに10経営体・産地を創出</li> </ul>
	海外から稼ぐ力の強化	輸出額 316億円 (R6) → 1,023億円 (R12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な消費者ニーズを捉え、手頃で日常的に摂取してもらえる生果実、果実加工品など新たな需要への対応</li> </ul>
果実の流通及び加工の合理化	集出荷・流通対策	(再掲) 生産面積 194千ha → 192千ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 園地の集積・集約化や基盤整備を推進</li> <li>● 省力樹形等への改植・新植、スマート農業技術等の開発・導入を推進</li> <li>● 大規模な経営体の育成・参入</li> </ul>
	果実の加工	(再掲) 加工仕向量 314千t → 377千t	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 果樹型トレーニングファームの取組を推進</li> <li>● サービス事業者の活用や関連産業との協働、作業の省力化などによる季節的な作業ピークへの対応</li> <li>● 輸出・加工など関連産業への連携・波及、雇用の創出、地域の活性化など、地域の基幹産業としての果樹農業の付加価値の向上</li> </ul>

**自然的条件に関する基準**  
 高温障害に対する技術的対策や、品種・品目転換を図る上での基準を提示

【技術的対策の例】

遮光ネット 水分制御

**主要果樹の経営指標**  
 省力樹形の導入等による農業所得や労働生産性の向上に向けた経営の改善・発展や果樹農業への参入に資する経営指標を提示

【例：りんご規模拡大・機械化モデル】

- ・ 3人、臨時雇用7人
- ・ 省力樹形、機械作業体系導入

経営面積 (ha)	6.0
10aあたり収量 (t)	4.0
総労働時間 (時間)	5,204
1経営体あたり農業所得 (万円)	2,617

需要に応える果樹農業の持続的な発展に向けて、生産基盤の強化を加速化

# 果樹農業生産力増強総合対策

令和8年度予算概算決定額 5,556百万円（前年度 5,323百万円）

## <対策のポイント>

国内外の需要に応えていない果樹の生産基盤を強化するため、**省力的な樹園地への改植・新植、新たな担い手の確保・定着等**の取組を支援するほか、**産地の構造転換に向けたモデル実証**や**気候変動への適応対策**等の取組を支援します。

## <事業目標>

果実の生産量の拡大（245万t [令和5年度] →256万t [令和12年度まで]）

## <事業の内容>

### 1. 省力的な樹園地への改植・新植等支援

省力樹形や優良品目・品種への改植・新植※と、それに伴う未収益期間における幼木の管理に要する経費を支援します。また、**高温障害発生低減**に向けた**技術的対策の導入等**を支援します。※省力樹形等への改植・新植を優先的に支援。

### 2. 新たな担い手の確保・定着の促進支援

果樹産地における新たな担い手の確保・定着に向け、**果樹型トレーニングファーム（TF）の整備**や、**運営に必要な技術指導・管理委託等**に要する経費を支援します。

### 3. 苗木供給力の強化、国産花粉の安定生産・供給体制整備への支援

省力的な苗木生産設備の整備や、**契約に基づく苗木生産拡大に伴い必要となる安定生産技術の導入**、**国産花粉の安定生産・供給**に向けた取組を支援します。

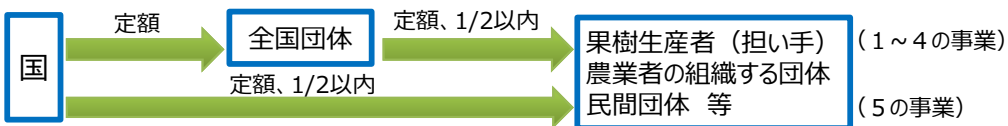
### 4. 国産果実の流通加工への支援

慢性的な供給不足となっている加工・業務用等の国産果実の**省力的生産・出荷の実証**等の取組を支援します。

### 5. 産地の構造転換に向けたモデル実証への支援

省力栽培技術の導入、産地と実需者の連携による労働力確保等により、**生産性を飛躍的に向上させた生産供給体制モデル**を構築する取組を支援します。また、高温に対応した栽培体系への転換、高温適応性を有する品目・品種の導入等、産地ごとの課題に応じた**気候変動対応モデル**を構築する取組を支援します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 省力的な樹園地への改植・新植等

【改植（括弧内は新植）の支援単価の例】

品目	かんきつ	りんご
省力樹形栽培	111 (108) 万円/10a (根域制限栽培)	73 (71) 万円/10a (超高密植栽培)
慣行栽培	23 (21) 万円/10a	17 (15) 万円/10a
未収益期間対策	5.5万円/10a×4年分 ※ 幼木管理経費（品目共通）	

- ・「地域計画の目標地図に位置付けられた者（見込含む）が将来にわたって営農を行うことが確実な園地」の改植・新植を支援
- ・自園地を省力樹形に一斉改植し、成園までの間は代替園地で営農を継続する取組を支援（代替園地に対し、11.2万円×5年分＝56万円/10a）
- ・遮光ネットや土壌被覆資材、細霧冷房等の導入を支援（補助率1/2以内）
- ・マメコバチ増殖の環境整備を支援（補助率1/2以内）

### 新たな担い手の確保・定着の促進



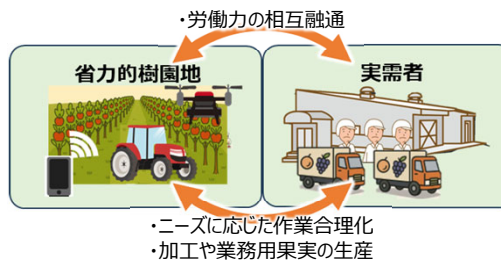
整備した園地で新規就農希望者の研修を行い、園地を研修終了後に継承

#### <支援内容>

- ・果樹型TFの整備（改植、小規模園地整備等）
- ・果樹型TFの管理（技術指導・管理委託等の経費）

## 産地の構造転換に向けたモデル実証

### 生産供給体制モデル実証



### 気候変動対応モデル実証

#### <品種構成の見直し>



#### <品目の見直し>



【お問い合わせ先】  
（1～3、5の事業）  
（4の事業）

農産局果樹・茶グループ  
園芸作物課

（03-3502-5957）  
（03-3501-4096）

# 果樹経営支援対策事業・果樹未収益期間支援事業

我が国の果樹産地の生産基盤を強化するため、**省力樹形や優良品目・品種への改植・新植**を支援します。また、近年顕在化する気候変動への適応対策として、**高温障害発生低減に向けた資機材導入等**を支援します。

## 果樹経営支援対策事業

### I 整備事業

#### 1. 改植・新植支援

優良品目・品種への改植・新植を支援。  
 ※**省力樹形等への改植・新植を優先的に支援。**

＜改植（新植）支援単価＞（※補助対象となる植栽密度を別途設定）

##### （1）省力樹形

超高密植（トールスピンドル）栽培（りんご）	73(71)万円/10a
高密植低樹高（新わい化）栽培（りんご）	53(52)万円/10a
根域制限栽培（みかん等のかんきつ類）	111(108)万円/10a
根域制限栽培（ぶどう、なし、もも等）	100(99)万円/10a
ジョイント栽培（なし、もも、すもも、かき等）	33(32)万円/10a
朝日ロンバス方式（りんご）	33(32)万円/10a
V字ジョイント栽培（なし、りんご、もも等）	73(71)万円/10a
省力的な植栽方法※	補助率1/2以内

（※整列的な配置等により効果を発揮するもので、省力樹形の要件の一部をみたまもの）

##### （2）慣行樹形等

みかん等のかんきつ類	23(21)万円/10a
りんご等の主要果樹	17(15)万円/10a
りんごのわい化栽培、加工用ぶどうの垣根栽培	33(32)万円/10a

（省力樹形の例）



りんごの超高密植(トールスピンドル)栽培 (慣行比1.7倍以上の単位収量)

#### 2. 小規模園地整備・設備の導入支援

（補助率：1/2以内）

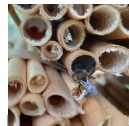
園内道の整備、傾斜の緩和、土壌土層改良、排水路の整備、用水・かん水設備、防風ネット（多目的防災網含む）、防霜ファン、モルレル等の設置を支援。

#### 3. 高温障害発生低減に向けた技術的対策の導入支援

（補助率：1/2以内）

①遮光ネット、土壤被覆資材、細霧冷房等の高温対策資機材の導入を支援

②マメコバチ増殖のための巣箱設置や繭洗浄等にかかる経費を支援



巣箱の設置



繭洗浄

#### 4. 放任園地の発生防止対策

支援単価：みかん等のかんきつ類 10万円/10a  
 りんご等の主要果樹 8万円/10a  
 その他の果樹は補助率1/2以内

作業条件の悪い園地や、病害虫による被害等の温床となる荒廃園地等の解消・発生防止に向けた、産地内での合意形成に基づき行う伐採や植林等の取組を支援。

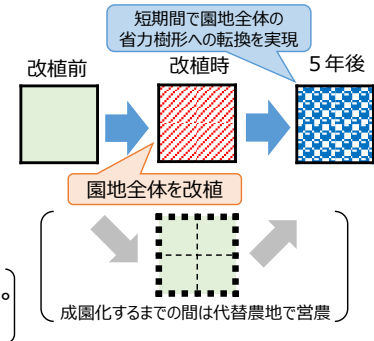
### II 推進事業

#### 1. 省力的樹園地への一斉改植支援

まとまった面積での自園地の一斉改植を行うため、成園までの間、離農園地等の代替園地において営農を継続するための掛かり増し経費を支援。

支援単価 56万円/10a

〔代替園地に対し、11.2万円/10a×成園までの5年分〕  
 初年度に一括交付



#### 2. 技術的サポート支援

地域計画の目標地図と連動した省力樹形等への転換を推進するため、**先進地や研究機関からの指導者派遣及び産地内での省力樹形等の導入に向けた研修会開催に掛かる経費**を支援。（補助率：定額）

## 果樹未収益期間支援事業

改植・新植後の農薬代・肥料代等の幼木の管理経費を支援。

支援単価 22万円/10a

（= 5.5万円/10a×改植・新植実施年の翌年から4年分。初年度に一括交付）

### ＜事業の流れ＞



# 果樹型トレーニングファーム推進条件整備事業

果樹産地における新たな担い手の確保・定着に向け、整備した園地で新規就農希望者の研修を行い、園地を研修終了後に継承する果樹型トレーニングファームの整備を支援します。

また、産地の果樹型トレーニングファームの運営に必要な技術指導・管理委託等に要する経費等を支援します。

## < 事業の内容 >

## < 事業イメージ >

### 1. 果樹型トレーニングファーム（TF）の整備

新たな担い手の確保・定着に向けた、産地の新規就農者等受入体制の整備を支援します。

#### (1) 小規模園地整備等

排水路の整備、土壌土層改良、園内道の整備、傾斜の緩和、用水・かん水設備、モノレールの整備等（補助率：1/2以内）

#### (2) 部分改植

優良品目・品種や省力樹形への改植等（補助率：定額（面積当たり1/2相当）、1/2以内）

（省力樹形の例）



みかんの根域制限栽培  
（単位収量慣行比2倍以上）

#### (3) 改植後の未収益期間の幼木管理

（補助率：定額（22万円/10a））

#### (4) 省力技術研修

（補助率：定額（3万円/10a））

### 2. 果樹型TFの推進

産地の果樹型TFの運営に必要な技術指導・管理委託等に要する経費等を支援します。（補助率：定額）

- ① 園地の確保
- ② 高度な技術の習得
- ③ 未収益期間の収入

果樹農業参入の大きなハードル

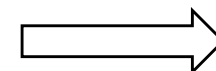
果樹産地において、整備した園地で新規就農希望者の研修を行い、園地を研修終了後に継承する果樹型TFの取組が有効。

果樹産地

新たな担い手



果樹型TF



研修後は園地を継承



果樹型TFの整備・推進に必要な  
 ・小規模園地整備や改植等に掛かる経費  
 ・果樹栽培技術を有する産地の地域人材による  
**技術指導・管理委託に要する経費**  
 等を支援

## < 事業の流れ >



# 苗木安定確保対策事業

省力樹形の導入等に必要な苗木の安定生産・供給に向け、苗木の省力的生産及び契約生産の拡大に必要な安定生産技術の導入の取組を支援します。

## < 事業の内容 >

## < 事業イメージ >

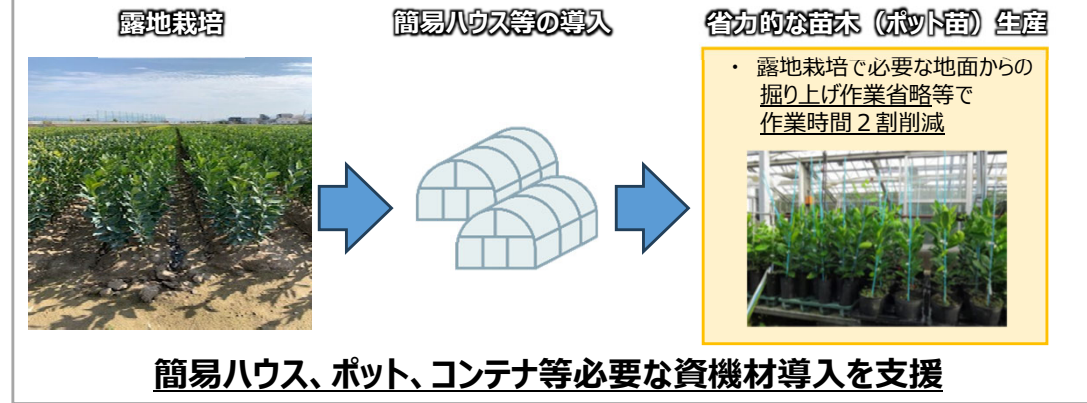
### 1. 省力的な苗木生産体制の整備

掘り上げ作業等の作業が省力されるポット苗栽培等の省力的な苗木生産に必要な環境の整備（簡易ハウス、省力栽培に必要な資機材）を支援します。（補助率：1/2以内）

#### < 支援内容 >

苗木生産者が行うポット苗栽培等の省力的生産体制の整備

### 省力的な苗木生産体制の整備



### 2. 契約生産拡大支援

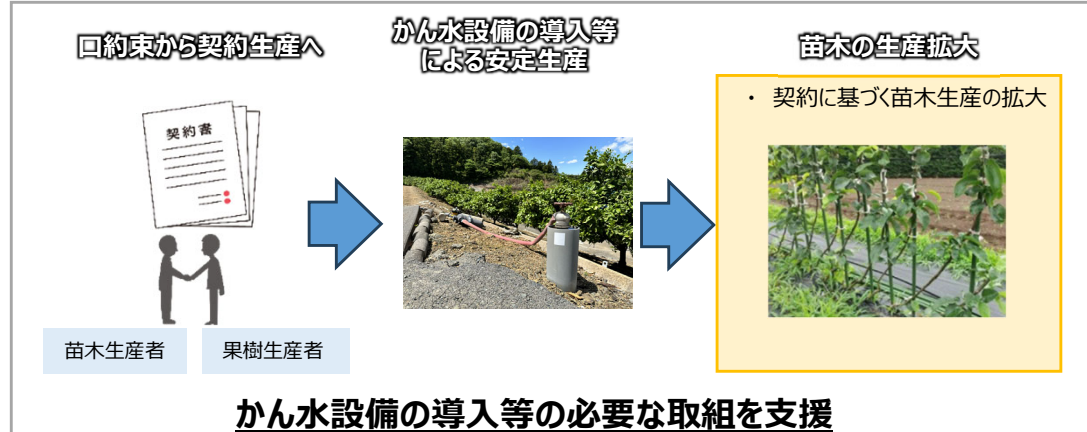
これまでの口約束による苗木生産からの脱却を図るため、果樹産地との契約に基づく苗木生産の拡大に伴い必要となる安定生産技術（かん水、土壌診断等）の導入等を支援します。（補助率：定額（15万円/10a））

#### < 支援内容 >

苗木生産者が行う以下の取組

- ①かん水設備の導入
- ②排水対策（明きよ、暗きよ）
- ③土壌診断
- ④病害虫対策 等

### 契約生産拡大支援



## < 事業の流れ >



# 花粉安定確保対策事業

海外での病害発生等による輸入不安定化のリスク軽減のため、国産花粉の安定生産・供給に向け、**花粉専用樹の改植・新植**や**小規模園地整備**、**花粉採取・精選のための機械・設備のリース導入**等の取組を支援します。

## < 事業の内容 >

## < 事業イメージ >

### 1. 花粉の安定生産・供給体制の構築

花粉の安定生産・供給体制を構築するため、市町村や生産出荷団体等による連携体制構築のための検討会の開催を支援します。  
(補助率：定額)

### 2. 花粉専用樹の改植・新植、育成管理経費

花粉専用樹の改植・新植に必要な深耕・整地費、土壌改良資材費、植栽費、苗木代等を支援します。また、改植・新植後、花粉が採れるまでの幼木の育成管理に必要な肥料代・農薬代等を支援します。  
(補助率：定額、1/2以内)

### 3. 小規模園地整備

傾斜の緩和、土壌土層改良、排水路の整備、用水・かん水設備整備等の導入に必要な重機リース代、深耕・整地費、土壌改良資材費等を支援します。  
(補助率：1/2以内)

### 4. 機械・設備のリース導入

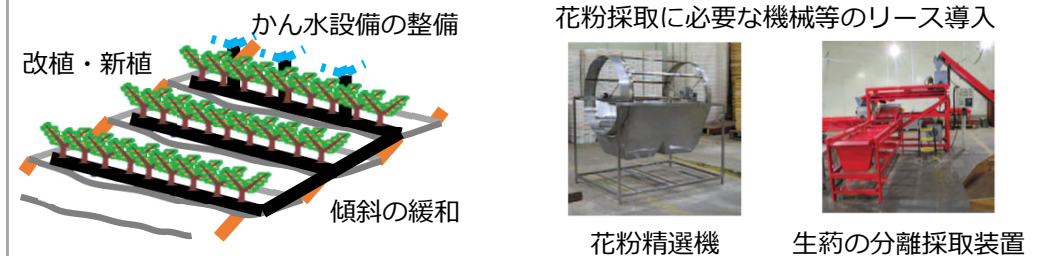
花粉採取機や開薬機、花粉精選機等の機械・設備のリース導入を支援します。  
(補助率：1/2以内)

## 花粉の安定生産・供給に向けた取組支援

### 国産花粉の安定生産体制整備



### 具体的な導入支援



## < 事業の流れ >



## 果実流通加工対策事業

国産果実の加工・業務用需要に対応するため、

- 産地が主体となって行う**果実加工品の試作の取組、省力化栽培・出荷技術等の実証**
- **高性能・高機能搾汁機等の整備等**による消費者ニーズへの対応
- **国産果実の需要に適応した契約取引の実証**や、**実需者とともに**行う**契約栽培の実証等**を支援します。

### < 事業の内容 >

### < 事業イメージ >

#### 1. 中価格帯・加工専用果実生産支援事業

消費者ニーズを捉えた果実加工品の試作、当該加工品の原料価格を想定した省力化栽培・出荷技術の実証等の取組を支援します。（補助率：定額）

#### 1. 産地が主体となって行う生産・加工の取組の推進

- ・新たな果実加工品の試作による産地の収益力の向上
- ・収量増加に繋がる剪定方法の改善
- ・施肥方法の改善や防除作業の省力化による資材費の低減
- ・摘果を省略した栽培の実証や省力出荷の検討 など

#### 2. 国産果実競争力強化事業

かんきつ果汁に係る経営分析・過剰設備の廃棄、全ての国産果実を対象とした高品質果汁製造設備の導入等を支援します。（補助率：定額、2分の1以内、3分の1以内）

#### 2. 果汁製造業の競争力強化の推進、果汁製品の高品質化設備の導入

- ・高機能搾汁機、長期保存施設等の導入
- ・新製品の開発、需要拡大に向けた取組の実施 など



#### 3. 加工・業務用果実安定供給連携体制構築事業

加工・業務用等の果実の生産・流通実態を踏まえ、需要に適応した安定的な流通体制を構築するための契約取引の実証や、果実の選別及び出荷体制の構築等を支援します。（補助率：定額）

#### 3. 産地と果実加工業者が一体的に行う供給不足解消の取組の推進

- ・需要に対応したサプライチェーン構築のための供給・販売計画の策定、需要調査
- ・省力化する技術等の栽培実証データの取得・分析 など



### < 事業の流れ >



# 果樹農業構造転換支援事業

省力栽培技術の導入や作業の合理化、産地と実需者の連携による労働力確保等により、生産性を飛躍的に向上させた生産供給体制モデルを構築する取組を支援します。また、高温に対応した栽培体系への転換など、産地ごとの課題に応じた気候変動対応モデルを構築する取組を支援します。

## < 事業の内容 >

### I パイロット実証事業

#### 1. 生産供給体制モデル実証

省力栽培技術の導入、作業の合理化、産地と実需者の連携による労働力確保等により、生産性を飛躍的に向上させた生産供給体制モデルを構築する取組を支援します。

##### < 支援内容 >

- (1) 検討会の開催、調査分析等（補助率：定額）
- (2) 改植・新植、小規模園地整備、展示ほの設置等（補助率：1/2以内）
- (3) 機械・設備のリース導入等（補助率：1/2以内）

#### 2. 気候変動対応モデル実証

高温に適応した栽培体系への転換、高温適応性を有する品目・品種の導入等、産地ごとの課題に応じた気候変動対応モデルを構築する取組を支援します。

##### < 支援内容 >

- (1) 検討会の開催、調査分析等（補助率：定額）
- (2) 品目・品種転換のための改植・新植、小規模園地整備、展示ほの設置等（補助率：1/2以内）
- (3) 機械・設備のリース導入等（補助率：1/2以内）

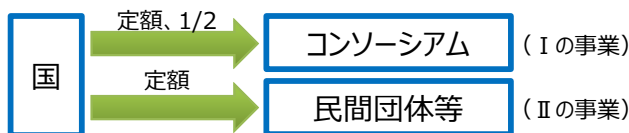
### II 全国推進事業

生産供給体制モデルや気候変動対応モデルを全国に展開するための取組を支援します。

##### < 支援内容 >

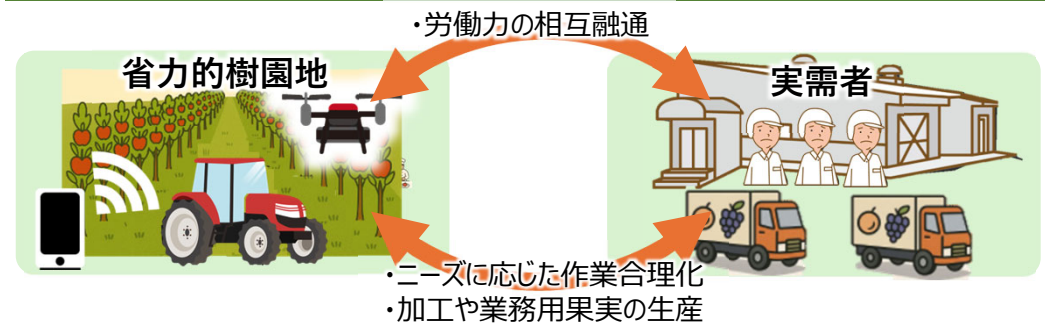
検討会・研修会・交流会の開催、調査分析、優良事例調査等

##### < 事業の流れ >



## < 事業イメージ >

### 生産供給体制モデル実証



※果樹生産者や実需者等により構成されたコンソーシアムの取組を支援

### 気候変動対応モデル実証



### < 品種構成の見直し >



### < 品目の見直し >



※果樹生産者や都道府県（試験研究機関等含む）等により構成されたコンソーシアムの取組を支援

# 共同利用施設の整備支援

令和8年度予算概算決定額 33,752百万円（前年度 19,952百万円）  
〔令和7年度補正予算額 61,683百万円〕

## <対策のポイント>

食料システムを構築するため、生産から流通に至るまでの課題解決に向けた取組、産地の収益力強化及び食品流通の合理化に必要な産地基幹施設や卸売市場施設の整備等を支援します。また、地域農業を支える老朽化した共同利用施設の再編集約・合理化に取り組む産地を支援します。

## <事業目標>

- 業務用野菜の国産切替量（32万t〔令和12年度まで〕）
- 化石燃料を使用しない園芸施設への完全移行〔2050年まで〕
- 流通の合理化を進め、飲食料品卸売業における売上高に占める経費の割合を削減（10%〔2030年度まで〕）等

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 強い農業づくり総合支援交付金

12,013百万円（前年度 11,952百万円）

#### ① 食料システム構築支援タイプ

食料・農業・農村基本法の改正を踏まえた食料システムを構築するため、実需とのつながりの核となる拠点事業者と農業者・産地等が連携し、生産から流通に至るまでの課題解決に必要なソフト・ハードの取組を一体的に支援します。

#### ② 産地基幹施設等支援タイプ

産地農業において中心的な役割を果たしている農業法人や農業者団体等による集出荷貯蔵施設や冷凍野菜の加工・貯蔵施設等の産地の基幹施設の整備等を支援します。

#### ③ 卸売市場等支援タイプ

物流の効率化、品質・衛生管理の高度化、産地・消費地での共同配送等に必要なお入トックポイント等の整備を支援します。

### 2. 新基本計画実装・農業構造転換支援事業

21,739百万円（前年度 8,000百万円）

#### ① 共同利用施設の再編集約・合理化

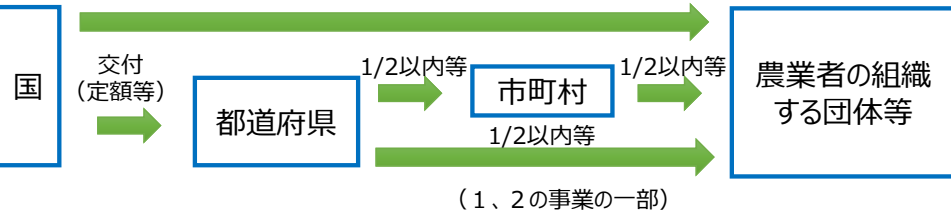
地域計画により明らかになった地域農業の将来像の実現に向けて、老朽化した共同利用施設の再編集約・合理化を支援します。

#### ② 再編集約・合理化の更なる加速化

①の再編集約・合理化に取り組む産地に対し、都道府県等が当該取組の加速化に向けた支援を行う場合、その費用の一部を支援します。

## <事業の流れ>

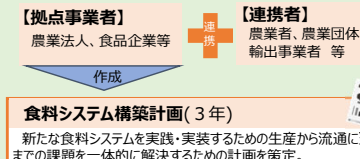
定額、1/2以内（1、2の事業の一部）



### 1. 強い農業づくり総合支援交付金

#### ① 食料システム構築支援タイプ（国直接採択・都道府県交付金）

- ・助成対象：整備事業（農業用施設）  
ソフト支援（農業用機械、実証等）
- ・補助率：定額、1/2以内
- ・上限額：整備事業 20億円/年  
ソフト支援 5,000万円/年 × 3年



#### ② 産地基幹施設等支援タイプ（都道府県交付金）

- ・助成対象：農業用の産地基幹施設
- ・補助率：1/2以内等
- ・上限額：20億円等

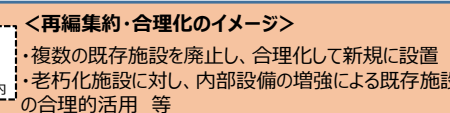
#### ③ 卸売市場等支援タイプ（都道府県交付金）

- ・助成対象：卸売市場施設、共同物流拠点施設
- ・補助率：4/10以内等
- ・上限額：20億円

### 2. 新基本計画実装・農業構造転換支援事業

#### ① 共同利用施設の再編集約・合理化

- ・助成対象：老朽化した共同利用施設（既存施設の撤去費用を含む）
- ・補助率：左記①1/2以内等、左記②1/2以内
- ・上限額：20億円/年 × 3年 ※①の国庫補助額の1/6以内



【お問い合わせ先】

- （1の①②、2の事業） 農産局総務課生産推進室 (03-3502-5945)
- （1の③の事業） 新事業食品産業部食品流通課 (03-6744-2059)

# スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート事業

令和8年度予算概算決定額 2,530百万円 (前年度 30百万円)

〔令和7年度補正予算額 (スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート緊急対策) 15,658百万円〕

## <対策のポイント>

農業者の高齢化・減少が進む中において、労働生産性の高い農業構造への転換に向けて、農業支援サービス事業者の育成や活動の促進、スマート農業技術の現場導入とその効果を高める栽培体系への抜本的な転換等の取組を総合的に支援します。

## <事業目標>

スマート農業技術の活用割合を50%以上に向上 [令和12年度まで]

## <事業の内容>

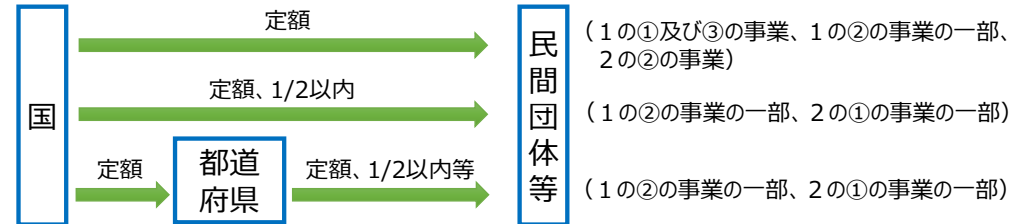
### 1. スマート農業・農業支援サービス事業加速化総合対策事業

- ①スマート農業技術と産地の橋渡し支援  
スマート農業技術を他品目等にカスタマイズするための改良を支援します。  
【補助上限額：500万円】
- ②農業支援サービスの育成加速化支援  
サービス事業の立上げや事業拡大に向けたニーズ調査、サービス提供の試行・改良、サービスの提供に必要なスマート農業機械等の導入、サービス事業者の事業性向上に資する流通販売体系の転換等に必要な施設整備等を一体的に支援します。  
【補助上限額：(農業機械)1,500万円、3,000万円、5,000万円】
- ③農業支援サービスの土台づくり支援  
サービスの標準的な作業工程や作業精度等を定めた「標準サービス」の策定等を支援します。

### 2. スマート技術体系への包括的転換加速化総合対策事業

- ①スマート技術体系転換加速化支援  
スマート農業技術を活用し、農業機械の導入とその効果を高める栽培体系への転換等を行う産地の取組を支援します。
- ②全国推進事業  
スマート農業技術を活用した先進的な取組の横展開を図るため、実証展示ほ場の設置やシンポジウムの開催等を支援します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 1. スマート農業・農業支援サービス事業加速化総合対策事業

- スマート農業技術と産地の橋渡し支援 スマート農業技術の改良
- 農業支援サービスの育成加速化支援 (ソフト・セミハード・ハード)
  - ・ニーズ調査、人材育成、機械導入等への支援 (ソフト・セミハード)
  - ・食品事業者等と連携してサービス提供期間の長期化等に向けて取り組む場合の流通販売体系の転換等に必要な施設整備を支援 (ハード)
- 農業支援サービスの土台づくり支援 「標準サービス」の策定等



(例) 一斉収穫サービスに対応した予冷施設の整備



### 2. スマート技術体系への包括的転換加速化総合対策事業

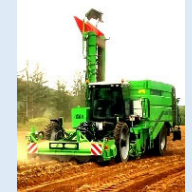
- スマート技術体系転換加速化支援



(例) 自動操舵システム+直播栽培による作期分散 [水稲]



(例) 自動追従システム+省力樹形・園地整備による栽培管理の効率化 [果樹・茶]



(例) AI選別+大型機械による一斉収穫・選別 [畑作物]



(例) 高温障害の影響を低減する生育予測システム+機械による一斉収穫 [露地野菜]

- 全国推進事業 先進的な取組の横展開

【お問い合わせ先】 農産局技術普及課 (03-6744-2107)

# スマ転事業

(スマート技術体系への包括的転換加速化総合対策事業)

令和8年度予算概算決定額2,530百万円の内数 (前年度 30百万円)  
〔令和7年度補正予算額 15,658百万円の内数〕

## <対策のポイント>

農業者の高齢化・減少が進む中において、**労働生産性の高い農業構造への転換に向けて、スマート農業技術の現場導入とその効果を高める栽培体系への抜本的な転換等**の取組を総合的に支援します。

## <事業目標>

スマート農業技術の活用割合を50%以上に向上 [令和12年度まで]

## <事業の内容>

### 1. スマート技術体系転換加速化支援

品目ごとの技術課題※の解決のため、スマート農業技術を活用し、**農業機械の導入とその効果を高める栽培体系への転換により労働生産性の向上を一体的かつ合理的に実施する産地の取組**に対し、機械導入費、資機材費、ほ場整備費、改植・新植費等を支援します。

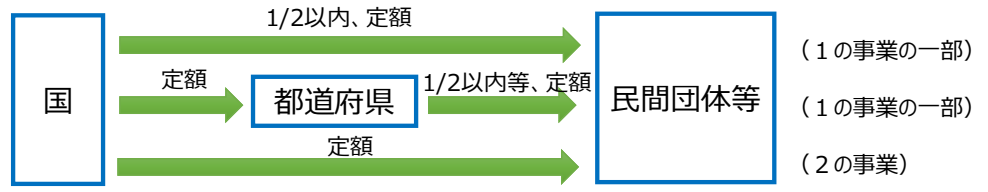
※品目ごとの技術課題

- 水稻：直播栽培や自動化農機の導入 等
- 麦・大豆：土地生産性・品質の向上 等
- 畑作物：直播栽培やAI選別等と組み合わせた大型自動化農機の導入 等
- 果樹・茶：自動化農機等の導入、機械利用効率を高める省力樹形等の導入 等
- 野菜：機械化一貫体系の導入、高温障害対策技術の導入 等

### 2. 全国推進事業

スマート農業技術を活用した栽培体系への抜本的な転換を行う先進的な取組の横展開を図るため、実証展示ほ場の設置やシンポジウムの開催等を支援します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 1. スマート技術体系転換加速化支援

<p><b>(水稻)</b></p>  <p>(例) 自動操舵システム + 直播栽培による 作期分散</p>	<p><b>(果樹・茶)</b></p>  <p>(例) 自動追従システム+ 省力樹形・園地整備 による栽培管理の 効率化</p>
<p><b>(畑作物)</b></p>  <p>(例) AI選別+大型機械 による一斉収穫・選別</p>	<p><b>(野菜)</b></p>  <p>(例) 高温障害の影響を 低減する生育予測 システム+ 機械による一斉収穫</p>

### 2. 全国推進事業



〔お問い合わせ先〕 農産局技術普及課 (03-6744-2107)

## <対策のポイント>

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、**農業者等が行う高性能な機械・施設の導入や栽培体系の転換等**に対して総合的に支援します。また、輸出事業者等と農業者が協働で行う取組の促進等により**海外や加工・業務用等の新市場を安定的に獲得していくための拠点整備、需要の変化に対応する園芸作物等の先導的な取組、全国産地の生産基盤の強化・継承、土づくりの展開等**を支援します。

## <事業目標>

- 青果物、花き、茶の輸出額の拡大（農林水産物・食品の輸出額：5兆円〔2030年まで〕）
- 品質向上や高付加価値化等による販売額の増加（10%以上〔事業実施年度の翌々年度まで〕）
- 産地における生産資源（ハウス・園地等）の維持・継承 等

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 農業の国際競争力の強化


#### 輸出等の新市場の獲得




#### 産地の収益性の向上

#### 新たな生産・供給体制

		拠点事業者の 貯蔵・加工施設
		供給調整・流通 効率化に向けた 施設・機械
		果樹・茶の改植や 省力樹形導入

#### 収益力強化への計画的な取組

		
農業機械の リース導入・取得	ヒートポンプ等の リース導入・取得	生産資材 の導入
特別枠の設定	・スマート農業推進枠 ・施設園芸エネルギー転換枠 ・持続的畑作確立枠 ・土地利用型作物種子枠	
	推進枠の設定 ・中山間地域の体制整備	

		継承ハウス、園地の 再整備・改修	<b>生産基盤 の強化</b>		堆肥等を活用 した土づくり
---	---	---------------------	---------------------	---	------------------

#### 【お問い合わせ先】

- |           |             |                |
|-----------|-------------|----------------|
| (1①、2の事業) | 農産局総務課生産推進室 | (03-3502-5945) |
| (1②の事業)   | 果樹・茶グループ    | (03-3502-5957) |
| (3①の事業)   | 園芸作物課       | (03-6744-2113) |
| (3②の事業)   | 農業環境対策課     | (03-3593-6495) |

### 1. 新市場獲得対策

- ① 新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の対策強化**  
新市場のロット・品質に対応できる**拠点事業者の育成に向けた貯蔵・加工・物流拠点施設等の整備、拠点事業者と連携する産地が行う生産・出荷体制の整備等**を支援します。
- ② 園芸作物等の先導的取組支援**  
園芸作物等について、**需要の変化に対応した優良品目・品種、省力樹形の導入や栽培方法の転換、技術導入の実証等の競争力を強化し産地を先導する取組**を支援します。

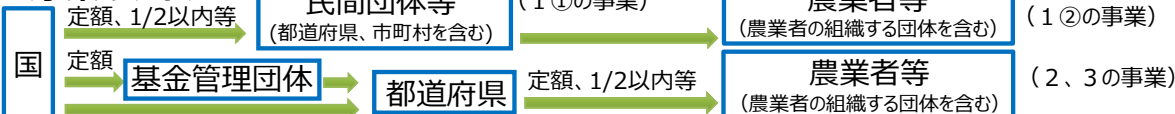
### 2. 収益性向上対策

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、**計画の実現に必要な農業機械の導入、集出荷施設の整備等**を総合的に支援します。また、**施設園芸産地において、燃油依存の経営から脱却し省エネ化を図るために必要なヒートポンプ等の導入等**を支援します。

### 3. 生産基盤強化対策

- ① 生産基盤の強化・継承**  
農業用ハウスや果樹園・茶園等の**生産基盤を次世代に円滑に引き継ぐための再整備・改修、継承ニーズのマッチング等**を支援します。
- ② 全国的な土づくりの展開**  
全国的な土づくりの展開を図るため、**堆肥や緑肥等を実証的に活用する取組**を支援します。

#### <事業の流れ>



※共同利用施設の再編・合理化については、以下の事業で支援

- 新基本計画実装・農業構造転換支援事業  
老朽化が進む地域農業を支える共同利用施設の再編集約・合理化に取り組む産地に対して支援。

# 園芸作物等の先導的取組支援

令和7年度補正予算額 8,000百万円の内数

## <対策のポイント>

園芸作物等について、**需要の変化に対応した優良品目・品種、省力樹形の導入や栽培方法の転換、技術導入の実証等の競争力を強化し産地を先導する取組を支援**します。

## <政策目標>

- 果実の生産量の拡大（256万t [令和12年まで]）
- 茶の生産量の維持（7.5万t [令和12年まで]）、茶の輸出額の増加（810億円 [令和12年まで]）

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

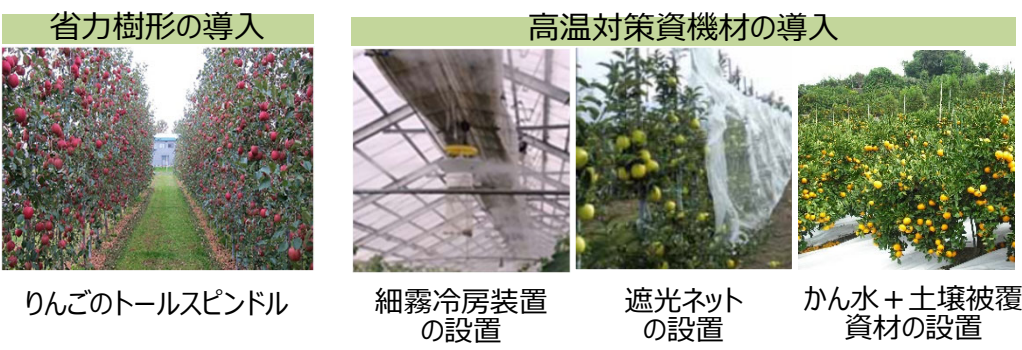
### 1. 果樹対策

- ① **改植・新植、未収益期間の幼木管理支援**  
省力樹形や優良品目・品種の導入（改植・新植と一体的に行う雨よけ設備等の設置を含む）、未収益期間の幼木管理経費を支援します。また、自園地を省力樹形に一斉改植し、成園までの間は代替園地で営農を継続する取組を支援します。
- ② **小規模園地整備、設備、高温対策資機材の導入支援**  
園内道の整備、用水・かん水設備、防霜ファンや多目的防災網等の設置を支援します。また、遮光ネット等の**高温障害の発生低減に向けた資機材の導入**を支援します。

### 2. 茶対策

- ① **改植・新植、未収益期間の幼木管理支援等**  
優良品種への改植・新植、有機栽培・てん茶への転換、未収益期間の幼木管理、防霜ファンの導入、農業機械等のリース導入等を支援します。
- ② **茶関連産業等と連携した新形態の大規模茶産地モデル形成支援**  
茶生産の担い手・茶工場・実需者が一体となり、**生産性向上、労働力確保、茶工場の省エネ化**等の課題に対応する**産地モデルを形成**する取組を支援します。
- ③ **化石燃料のみに依存しない新たな茶加工技術の検討・実証支援**  
茶工場における燃料使用量の削減に向けた**新たな茶加工技術の検討・実証**の取組を支援します。

### <果樹>



### <茶>



## <事業の流れ>




【お問い合わせ先】 農産局果樹・茶グループ (03-3502-5957)

# (参考①) 過去5年間における果樹対策関係事業の実施状況 (令和2年度～令和6年度)

## 果樹経営支援対策事業の実施状況について

事業実績 (全国ベース) 実施面積 約 6,070ha

### 1. 整備事業

- 優良品目・品種への転換 (改植・新植・高接)   
実施面積 約 4,670ha
- 小規模園地整備 (園内道整備、傾斜の緩和、土壌土層改良等)  
実施面積 約 530ha
- 廃園、放任園地発生防止対策 (R2～)  
実施面積 約 80ha
- 用水・かん水施設の設置  
実施面積 約 330ha
- 特認事業(モノレール・防霜ファン・防風ネットの整備等)  
実施面積 約 460ha

### 2. 推進事業 (労働力調整システムの構築、大苗育苗ほの設置、新技術の導入支援等)

事業実施件数 40件

### <上位5品目>

#### 1位 うんしゅうみかん



実施面積  
約 1,070ha

#### 2位 りんご



実施面積  
約 890ha

#### 3位 その他かんきつ



実施面積  
約 720ha

#### 4位 ぶどう



実施面積  
約 480ha

#### 5位 くり



実施面積  
約 350ha

### <政令指定品目以外の果樹> 実施面積 約40ha

いちじく (静岡、島根、新潟、広島、福岡、和歌山)、山椒 (奈良、和歌山)、オリーブ (大分、神奈川)、ブルーベリー (奈良、兵庫、山形)、ハスカップ (北海道)、マンゴー (鹿児島、宮崎)、アボカド (愛媛、鹿児島、和歌山)、ぎんなん (大分) 等がある。

### <優良事例>

#### ☆ トールスピンドル (高密植わい化) 栽培による省力化 (長野県JA上伊那)

高密植・省力化を目的に樹高を約3~3.5mに制御する栽培方式で、細長い主幹に短果枝を計画的に配置することで、慣行樹形の1.4倍の早期多収を達成し、品質向上を図る。

せん定や収穫作業の効率性が高く、機械化適応性にも優れている。

(写真) りんごのトールスピンドル



#### ☆ 片面交互結実による省力的な栽培を実現 (静岡県JAしみず)

樹体の片側のみに着果し生産する手法として、摘果や剪定、収穫作業を単純化することが可能であり、収穫量は慣行樹形の約1.2倍となる。

改植・新植を必要としない、省力的な栽培体系として注目されている。

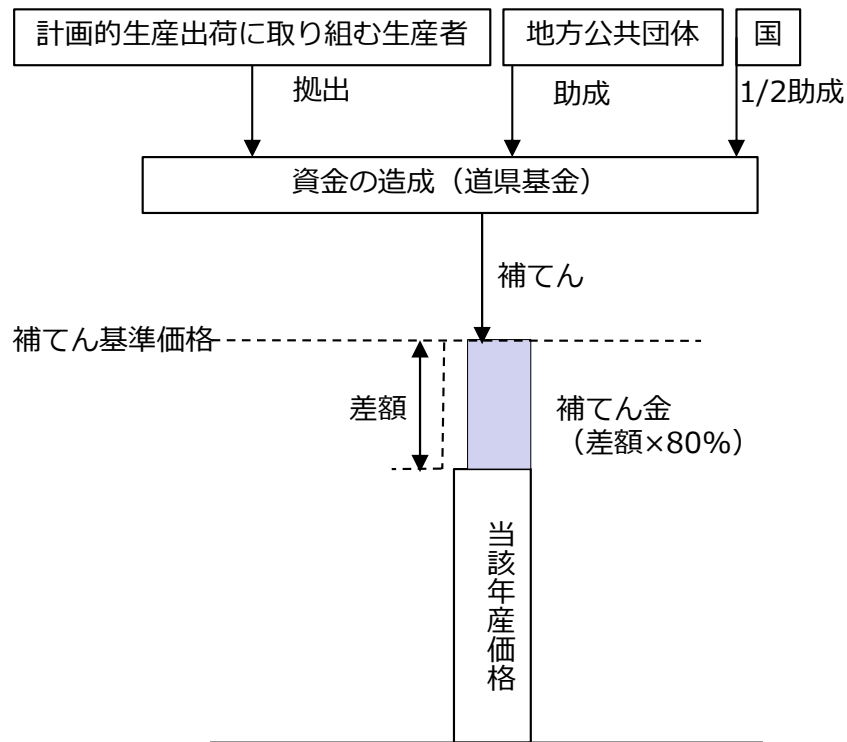
(写真) みかんの片面交互結実栽培



# (参考②) 果樹経営安定対策 (平成13～18年度) について

- 昭和40年代以降、みかんの供給過剰が続いたため、加工向け出荷数量の調整による需給調整が行われてきた。
- 果樹農家の経営安定を図る観点から、平成13年度から、出荷の大宗を占める生食用果実を対象として、需給調整とセットにした価格下落時の補てん措置（果樹経営安定対策）に転換。
- 本事業を3期（6年）実施する中で、高品質果実を生産する産地からは、本事業は低品質果実を生産する産地を温存し、みかん全体の価格を押し下げるとの厳しい声が相次ぎ、18年度までで本事業を廃止し、19年度から、現行の優良品目・品種への改植支援に転換。

## 〔旧〕 果樹経営安定対策の概要



補てん額 = (補てん基準価格 - 当該年産価格) × 補てん率 (80%)  
 補てん基準価格 = 過去6年間の各年産価格の平均 × (1 - 変動係数)

### < 高品質果実生産により販売価格が高いA産地 >

みかん販売価格(16年産)	256円/kg
果樹経営対策加入率	29%

- ・ 価格が高いため、対策に加入しない。  
 → (価格低落時) 経営への影響が大きい  
 → 栽培面積の減少

### < 品質が低く販売価格が安いB産地 >

みかん販売価格(16年産)	141円/kg
果樹経営対策加入率	99%

- ・ セーフティネットとして高い加入率。  
 → (価格低落時) 補てんされるため、経営への影響が少ない  
 → 品質向上努力につながらないまま、栽培が継続

評価の高い産地は栽培面積が減少し、評価の低い産地が温存

# (参考③) 都道府県別果実産出額 (令和6年)

都道府県	産出額 (億円)	主な品目	都道府県	産出額 (億円)	主な品目
北海道	89	ぶどう、おうとう、りんご、すもも、西洋なし、ブルーベリー	滋賀	12	ぶどう、日本なし、かき、うめ、いちじく、ブルーベリー
青森	1,229	りんご、ぶどう、おうとう、もも、西洋なし、すもも、日本なし、うめ	京都	22	ぶどう、かき、日本なし、いちじく、くり、うめ、みかん、もも
岩手	141	りんご、ぶどう、もも、西洋なし、日本なし、おうとう、うめ、ブルーベリー	大阪	73	ぶどう、みかん、いちじく、もも、かき
宮城	24	日本なし、りんご、うめ、ぶどう、かき、もも、ブルーベリー、いちじく	兵庫	47	ぶどう、みかん、いちじく、日本なし、くり、かき、もも、うめ、ブルーベリー、びわ
秋田	97	りんご、ぶどう、日本なし、もも、おうとう、西洋なし、ブルーベリー	奈良	85	かき、ぶどう、日本なし、いちじく、うめ、もも、キウイフルーツ
山形	738	おうとう、ぶどう、りんご、西洋なし、もも、かき、すもも、日本なし、ブルーベリー、うめ、くり、キウイフルーツ	和歌山	893	みかん、うめ、かき、もも、はっさく、しらぬい(デコボン)、キウイフルーツ、ぶどう、清見、いちじく、すもも、日本なし、セミノール、なつみかん、ポンカン、ネーブルオレンジ、いよかん
福島	350	もも、りんご、日本なし、ぶどう、かき、おうとう、すもも、西洋なし、うめ、ブルーベリー、キウイフルーツ	鳥取	70	日本なし、かき、ぶどう、うめ、もも、りんご
茨城	129	日本なし、くり、ぶどう、かき、ブルーベリー、りんご、うめ、もも、キウイフルーツ	島根	44	ぶどう、かき、日本なし、うめ、もも、いちじく
栃木	90	日本なし、ぶどう、りんご、くり、うめ、キウイフルーツ、かき、ブルーベリー、もも	岡山	294	ぶどう、もも、日本なし、かき、みかん、くり、うめ、りんご
群馬	79	うめ、りんご、日本なし、ぶどう、キウイフルーツ、ブルーベリー、かき、おうとう、もも、すもも、くり	広島	138	ぶどう、みかん、日本なし、もも、りんご、かき、はっさく、しらぬい(デコボン)、いちじく、ネーブルオレンジ、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ、清見、なつみかん、びわ
埼玉	52	日本なし、ぶどう、うめ、くり、ゆず、キウイフルーツ、ブルーベリー、かき、すもも、いちじく	山口	48	みかん、日本なし、ぶどう、りんご、くり、もも、かき、うめ、キウイフルーツ、なつみかん
千葉	113	日本なし、ぶどう、びわ、みかん、くり、キウイフルーツ、ブルーベリー、かき、いちじく、うめ	徳島	87	みかん、すだち、日本なし、ぶどう、ゆず、かき、キウイフルーツ、もも、うめ、はっさく、しらぬい(デコボン)
東京	23	ブルーベリー、日本なし、ぶどう、くり、キウイフルーツ	香川	60	みかん、ぶどう、キウイフルーツ、もも、日本なし、かき、しらぬい(デコボン)、びわ、いちじく、すもも
神奈川	85	みかん、日本なし、ぶどう、キウイフルーツ、うめ、ブルーベリー、くり、かき	愛媛	374	みかん、いよかん、キウイフルーツ、ぶどう、ポンカン、しらぬい(デコボン)、かき、くり、清見、なつみかん、日本なし、ゆず、うめ、もも、びわ、すもも、はっさく、ネーブルオレンジ、ブルーベリー
新潟	97	かき、日本なし、ぶどう、西洋なし、もも、いちじく、くり、キウイフルーツ、うめ、りんご、おうとう	高知	122	ブタン、ゆず、みかん、日本なし、日向夏、ぶどう、ポンカン、かき、しらぬい(デコボン)、くり、うめ、びわ、すもも
富山	21	日本なし、かき、ぶどう、りんご、もも	福岡	262	ぶどう、みかん、かき、日本なし、キウイフルーツ、もも、いちじく、すもも、うめ、しらぬい(デコボン)、くり、びわ、なつみかん
石川	31	ぶどう、日本なし、かき、りんご、いちじく、うめ、ブルーベリー	佐賀	178	みかん、日本なし、しらぬい(デコボン)、ぶどう、うめ、キウイフルーツ、もも、かき、すもも、なつみかん、ポンカン、いよかん、清見
福井	10	うめ、日本なし、かき、ぶどう	長崎	125	みかん、ぶどう、びわ、しらぬい(デコボン)、もも、日本なし、うめ、ポンカン
山梨	912	ぶどう、もも、すもも、かき、おうとう、うめ、日本なし、キウイフルーツ、りんご	熊本	415	みかん、しらぬい(デコボン)、日本なし、ぶどう、くり、かき、ブタン、もも、なつみかん、ポンカン、うめ、いちじく、ゆず、マンゴー、びわ、キウイフルーツ、すもも、ネーブルオレンジ
長野	1036	ぶどう、りんご、もも、日本なし、すもも、かき、おうとう、くり、うめ、あんず、ブルーベリー、西洋なし、キウイフルーツ	大分	155	みかん、ぶどう、日本なし、カボス、うめ、キウイフルーツ、しらぬい(デコボン)、ゆず、かき、ポンカン、ぎんなん、くり、もも、すもも、セミノール、なつみかん、いちじく、びわ、清見
岐阜	57	かき、日本なし、くり、ぶどう、りんご、もも、みかん、うめ、キウイフルーツ	宮崎	140	マンゴー、きんかん、みかん、日向夏、ぶどう、ゆず、日本なし、しらぬい(デコボン)、ポンカン、くり、うめ、キウイフルーツ、かき
静岡	365	みかん、日本なし、ぶどう、かき、キウイフルーツ、うめ、ブルーベリー、ネーブルオレンジ、くり、もも、いちじく、しらぬい(デコボン)、なつみかん、ポンカン、日向夏、ぎんなん	鹿児島	114	みかん、なつみかん、しらぬい(デコボン)、マンゴー、ぶどう、たんかん、ポンカン、きんかん、ゆず、日本なし、びわ、うめ
愛知	180	みかん、ぶどう、かき、日本なし、いちじく、もも、うめ、しらぬい(デコボン)、ぎんなん、キウイフルーツ、くり	沖縄	55	マンゴー、パインアップル、たんかん
三重	59	みかん、日本なし、ぶどう、うめ、かき、しらぬい(デコボン)、なつみかん、キウイフルーツ、くり、セミノール	合計	9,856	

# (参考④) 都道府県ごとの果樹の振興品目 (果樹農業振興計画)

都道府県	振興品目
北海道	りんご、ぶどう、おうとう、なし(日本なし、西洋なし)、もも、くり、うめ、すもも、ハスカップ、ブルーベリー、アロニア
青森県	りんご、ぶどう、おうとう、もも、西洋なし、その他特産果樹(日本なし、うめ、すもも、あんず、ブルーベリー、カシス)
岩手県	りんご、ぶどう、おうとう、もも、地域特産果樹(西洋なし、日本なし、ブルーベリー)
宮城県	日本なし、りんご、ぶどう
秋田県	りんご、ぶどう、日本なし、もも、おうとう、特産果樹(西洋なし、ブルーベリー、いちじく、その他(すもも、くり、うめ、かき、キウイフルーツ、ラズベリー))
山形県	おうとう、西洋なし、りんご、ぶどう、もも、かき、すもも、日本なし、特産果樹(山ぶどう、あけび、さるなし、ブルーベリー、ラズベリー、いちじく、キウイフルーツ)
福島県	もも、日本なし、りんご、ぶどう、かき、おうとう、すもも、うめ、西洋なし、キウイフルーツ、ブルーベリー、いちじく、くり、地域特産果樹(あんず、ぎんなん、くるみ、さるなし、山ぶどう、ゆず)
茨城県	なし、くり、ぶどう、りんご、かき、うめ、ブルーベリー、キウイフルーツ、かんきつ類(ゆず、みかん)、ぎんなん、もも、すもも、いちじく
栃木県	なし、ぶどう、りんご、その他(くり、ゆず、もも、ブルーベリー、キウイフルーツ)
群馬県	りんご、ぶどう、日本なし、もも(ネクタリン含む)、おうとう、かき、うめ、すもも、キウイフルーツ、ブルーベリー、くり、いちじく
埼玉県	日本なし、ぶどう、くり、うめ、かき、ブルーベリー(ベリー類含む)、すもも、ゆず、いちじく、その他(みかん、かぼす、キウイフルーツ、もも、りんご、ぎんなん、おうとう、レモン、マンゴー、バナナ、ポポー)
千葉県	日本なし、びわ、みかん、その他柑橘、キウイフルーツ、ぶどう、かき、くり、うめ、ブルーベリー、いちじく、すもも、亜熱帯果実等(パッションフルーツ、ピタヤ)
東京都	なし、ブルーベリー、ぶどう、かき、キウイフルーツ、パッションフルーツ、くり、うめ、りんご、いちじく、うんしゅうみかん、その他柑橘(ゆず、レモン)、その他熱帯果樹(マンゴー、アデモヤ)
神奈川県	うんしゅうみかん、その他かんきつ、ぶどう、なし、かき、うめ、キウイフルーツ、いちじく、ブルーベリー、くり
山梨県	ぶどう、もも、すもも、おうとう、かき、りんご、キウイフルーツ、うめ、なし、ブルーベリー、くり、地球温暖化に対応した新品目(オリーブ、レモン)
長野県	りんご、ぶどう、もも、なし(日本なし)、かき、うめ、すもも、くり、その他果樹(くるみ、あんず、ブルーベリー、おうとう、まるめろ・かりん、キウイフルーツ)
静岡県	みかん、その他かんきつ、ぶどう、なし、もも、かき、すもも、キウイフルーツ、いちじく、ブルーベリー、落葉果樹その他果樹(びわ、くり、うめ、ぎんなん)
新潟県	かき、なし(日本なし、西洋なし)、ぶどう、もも、いちじく、くり、おうとう、うめ、キウイフルーツ、りんご、ぎんなん、ブルーベリー、すもも、くるみ、かんきつ類
富山県	日本なし、かき、りんご、もも、ぶどう、うめ、その他(西洋なし、くり、ゆず、いちじく)
石川県	りんご、ぶどう、なし、もも、かき、くり、いちじく、ブルーベリー、うめ
福井県	うめ、なし、かき、ぶどう、いちじく、柑橘類、びわ、つるし柿、もも、すもも、くり、ブルーベリー、なつめ、ぎんなん、醸造用ぶどう、キウイフルーツ、オリーブ
岐阜県	かき、くり、なし、もも、りんご、みかん、うめ、ぶどう、キウイフルーツ、いちじく、ぎんなん、ゆず、ブルーベリー
愛知県	うんしゅうみかん、ぶどう、なし、もも、かき、いちじく、地域を支える果樹(その他かんきつ類、キウイフルーツ、ぎんなん、うめ、くり、ブルーベリー)
三重県	うんしゅうみかん、その他かんきつ類、ぶどう、日本なし、かき、うめ、いちじく、キウイフルーツ
滋賀県	ぶどう、日本なし、いちじく、もも、かき、くり、ブルーベリー、(うめ、かんきつ類、きいちご類、おうとう、りんご、びわ)

# (参考④) 都道府県ごとの果樹の振興品目 (果樹農業振興計画)

都道府県	振興品目
京都府	みかん、ゆず、りんご、ぶどう、なし、もも、かき、くり、うめ、いちじく、その他(キウイフルーツ、びわ、おうとう、ブルーベリー等ベリー類、レモン)
大阪府	うんしゅうみかん、その他かんきつ、ぶどう、もも、かき、くり、うめ、いちじく、なし
兵庫県	いちじく、ぶどう、なし、かんきつ類(うんしゅうみかん)、かんきつ類(うんしゅうみかん以外)、くり、びわ、もも、ブルーベリー、さんしょう、かき、うめ、りんご、すもも(ブルーンを含む)、おうとう、キウイフルーツ、オリーブ
奈良県	かき、うめ、なし、ぶどう、くり、うんしゅうみかん、中晩柑類(はっさく、不知火、はるみ等)、もも、すもも、キウイフルーツ、りんご、びわ、おうとう、いちじく、ブルーベリー、さんしょう
和歌山県	うんしゅうみかん、中晩柑類等その他かんきつ類、うめ、かき、もも、キウイフルーツ、すもも、いちじく、さんしょう、ぶどう、びわ、なし、その他品目(アボカド等)
鳥取県	日本なし、かき、ぶどう、りんご、くり、うめ、もも、常緑果樹(びわ、ゆず)、ブルーベリー
島根県	ぶどう、かき、なし、いちじく
岡山県	もも、ぶどう、なし、かき、みかん、いちじく
広島県	うんしゅうみかん、なつみかん、ネーブルオレンジ、はっさく、いよかん、レモン、不知火、はるか、その他かんきつ、オリーブ、りんご、ぶどう、日本なし、もも、びわ、かき、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ、いちじく、ブルーベリー
山口県	かんきつ類、くり、うめ、なし、ぶどう、りんご、かき、びわ、キウイフルーツ、もも、ブルーベリー、いちじく、特産果樹(すもも、オリーブ等)
徳島県	うんしゅうみかん、すだち、ゆず、中晩柑類、その他かんきつ類、日本なし、ぶどう、もも、かき、くり、うめ、キウイフルーツ、やまもも、いちじく、その他の果樹(すもも、びわ)
香川県	かんきつ類(うんしゅうみかん、中晩柑)、ぶどう、もも、キウイフルーツ(さるなし含む)、オリーブ、なし、(かき、びわ)
愛媛県	うんしゅうみかん、いよかん、不知火、ポンカン、清見、河内晩柑、せとか、はれひめ、愛媛果試第28号(紅まどんな)、甘平(愛媛Queenスブラッシュ)、愛媛果試第48号(紅プリンセス)、カラ(南津海を含む)、その他かんきつ、かき、くり、キウイフルーツ、ぶどう、なし、もも、びわ、うめ
高知県	うんしゅうみかん、その他かんきつ(ぶんたん、ぼんかん、日向夏、ゆず、有望中晩柑類)、くり、なし、すもも、ブルーベリー、その他(マンゴー)
福岡県	かんきつ、かき、ぶどう、なし、キウイフルーツ、いちじく、もも、すもも、その他の果樹(うめ、びわ、りんご、特産果樹(ゆず、ブルーベリー))
佐賀県	露地温州みかん、ハウスみかん、その他かんきつ類、なし、ぶどう、キウイフルーツ、もも・すもも、その他果樹(うめ、かき、びわ、くり、りんご、いちじく、ブルーベリー、ぎんなん、マンゴー、アボカド、ライチ)
長崎県	かんきつ類、びわ、ぶどう、なし、もも、キウイフルーツ、いちじく、かき、うめ、地域特産果樹
熊本県	うんしゅうみかん、不知火類、甘夏みかん、河内晩柑、晩白柚、大橋、ポンカン、熊本EC12、清見、びわ、みはや、ゆず、レモン、きんかん、マンゴー、なし、もも、くり、ぶどう、かき、うめ、すもも、キウイフルーツ、ブルーベリー、いちじく
大分県	うんしゅうみかん、ハウスみかん、かほす、その他かんきつ、なし、ぶどう、キウイフルーツ、その他果樹(もも、びわ、かき、くり、うめ、いちじく、ぎんなん、オリーブ、ブルーベリー等)
宮崎県	マンゴー、きんかん、日向夏、うんしゅうみかん、ぶどう、なし、くり、ゆず、ライチ
鹿児島県	うんしゅうみかん、ぼんかん、たんかん、なつみかん(甘夏)、不知火、きんかん、ぶんたん、紀州みかん(桜島みかん、その他(ゆず、辺塚だいたい、びわ))、ぶどう、なし、うめ、すもも、かき、マンゴー、パッションフルーツ
沖縄県	パインアップル、うんしゅうみかん、タンカン、シークワサー、天草、その他かんきつ(在来かんきつ、香酸かんきつ、中晩生かんきつ等)、マンゴー、パッションフルーツ、フルーツパパイア、アセローラ、アデモヤ、ドラゴンフルーツ、スターフルーツ、その他熱帯果樹(バナナ、レイシ、レンブ、グアバ、インドナツメ、アボカド等)、びわ